

審ハ外情ノ甚ダ怖ル可ラザル罪犯ニ付テ猥リニ寛大ニ流シテ懼
 レタル平常ニ變更ス可キノ陪審ヲシテ重罪審判ニ干渉セシムルハ其
 學力智識ノ淺陋ナルモ苟モ是非ヲ辨別スル者ハ決シテ誤謬スル能ハ
 ザルニ由ルニ非ズヤ然ラハ則チ何ヲ以テ既ニ陪審ニ因テ防止スル所
 ノ裁判官カ微力ニシテ而シテ擅マ、一己ノ意見ヲ行フヲ得セシムル
 乎何故ニ法理ニ關セザルノ特權ヲ附與スル乎又何故ニ陪審ノ制セザ
 ル全權ヲ擧テ輕罪裁判所ニ委託スルヲナス乎
 第四百六十三條ノ末項ヲ維持セント欲セシ者ハ論旨ノ首尾ヲシテ能
 ク貫通セシメ陪審ノ制ヲ輕罪ニ擴張セント欲セリ曰刑權ヲシテ果シ
 テ唯一ノ義ヨリ生セシメハ之ヲ施行スヘキノ任アル裁判官モ亦唯一
 ノ性質ナカル可ラズ凡ソ社會ハ刑罰ノ區々ナルヨリ悲歎ノ大ナルハ
 ナシ夫陪審ハ破壞盜若シハ謀殺ヲ罰スルニ當リ社會ノ爲メニ犯人ノ

爲メニ至良ノ保護者ナリ斯ル保護者ニシテ而シテ一旦通常盜若クハ
 騙欺取財ヲ罰スルニ當リ寛貸慈悲ニ流ル、ニ至ルトスルハ我其故ヲ
 知ラザルナリト

二説ノ中實際ノ道理ニ據ル者即チ其最モ道理ニ適應シタル者ハ其詳
 悉ノ論ヲ爲セリ但シ輕罪裁判所ノ權ヲ制限スベシト論ズル者ハ刑ノ
 原則及ビ本質ニ溯ボラザルカ如ク而シテ裁判官ハ全權ヲ獲可シトス
 ル者ハ人カヲ以テ神權ヲ行ハントスルナリ

裁判官ニ全權ヲ托セント欲スル者ガ新第四百六十三條ヲ評論スルノ
 言ニ駁スル者ノ如シ曰ク規則ヲ設テ裁判官カ瑕闕ヲ補フハ可ナリ
 ト雖モ宜ク其規則ヲシテ其心神ヲ鉗制スルニ至ル無カラシムベシ蓋
 シ其義務ヲ忘却スル瑕闕ト刑ノ何度ハ何罪ニ適當スベキヲ知ラシム
 ル所ノ正義ノ感覺トチ往々混同スルコトアリ是裁判官カ心神ノ至良ナ

情狀輕減

ル者即チ正心ヲ制スルナリ職掌上ノ義務ノ如キ者ヲ命ズルナリ如何ナル人爲ノ力ヲ以テ正義ノ感覺ヲ御ス可キヤ余之ヲ知ラザルナリト此説ニ依レハ刑ハ決テ十分ニ伸張スルヲ得セシム可キ者ニ非ス裁判官ノ獨見ニ由ラシム可シ如何ナル制限アリト雖ヒ管心神ノ煩累タル錯制タリ正心ニ害ヲ加フルナリ果シテ斯ノ如クハ則チ裁判官及ビ陪審ヲシテ立法者ヲラシメ一己ノ私見ニ據テ其平中ヲ取ラシメザル可ラズ是レ彼ニ嚴ニ此ニ寛ナルノ弊ヲ生スル所ナリ

設シ刑權ヲシテ社會利益ヲ以テ制限セラレタル徳義ニ基カシメ刑ヲシテ上帝ニ對スル負債ノ償却ヲラシメバ即チ上ノ説ハ能ク理ニ適フト謂フ可ク而シテ一旦實行スルニ及デハ刑罰ハ私擅ニ出デ法律ハ全國ニ區シ紛雜混亂或ハ過分ノ嚴刑ヲ受ケ或ハ不當ノ寛刑ヲ被ムリ實ニ言フニ忍ビザル者アルニ至ラン夫レ犯人ハ社會之ヲ罰スルナリ一

主示シタル

箇人ノ之ヲ罰スルニ非ザルナリ其刑罰ヲ受クル所以ノ者ハ其法律ヲ犯シタルカ故ニテ其法律ヲ確保センガ爲メニ法律ヲ以テ制定シ必要トシタル所ノ應報ハ犯人ノ受ケザル可ラザル所ナレハナリ

第四百六十三條ノ新條目ヲ不可トスル者ノ説ハ新タニ起リシ者ニ非ズ而シテ余ハ既ニ屢ニ其非ナルヲ論ゼリ蓋シ此説タルカントガ主義ノ結果ナレバ今其言ノ如何ヲ舉示セン曰ク抑、内心想像ノ至善至美ナル者ハ一點ノ汚癥ヲ見ズ人カノ軟弱、地上狹少ノ要需ノ如キ者ニアラズ而シテ此内心想像ヲ提起スルハ學術ニ在ルナリ今夫レ刑律ハ此想像ヲ實行セントスル者ナレバ首トシテ裁判官ト立法官トカ區別ヲ廢棄シ各事各件ニ付テ刑ヲ罪犯徳義ニ悖ルノ度ニ相稱ハシメ而シテ萬種ノ事件ヲ總則ニ概括スルヲ止メザル可ラザルナリ是ノ如クンハ即チ犯人ハ人タル本分ニ精明ナル人間ノ裁判スル所トナリ而シテ其裁判人ハ

情狀輕減

其心神ノ蘊底ヨリ之カ決定ナシ又犯人ハ其裁判人ナ上帝ノ活機ト
 認識スルガ故ニ願從甘シテ其裁判ニ服スベキナリト
 余ヲ以テスレハ全權裁判官ハ特ニ立法者ガ分限ノヨチ有ス可ラヌ又
 必ズヤ神クテザルヲ得ズト如何トナレハ何レノ人爲裁判所タリ凡犯
 人ガ内心ノ情狀ヲ原テ罪犯ノ輕重ヲ定ムルノ權アルハ余ノ希ハザル
 所ナレバナリ

ド、バリウー氏ハ其駁スル所ノ說ヲ能ク詳悉セリ曰ク余ハ嘗テ新說ノ
 玆ニ發セシヲ知ル蓋シ謂ラク刑ヲ輕減スルニ付キ裁判官ニ於テ無限
 ノ權アル者ハ固ヨリ刑權ノ本體ニシテ缺ク可ラザルノ要件ナリ而シテ
 凡ソ法律ヲ以テ裁判官ノ良心ニ照シ獨見ニ因リ放免シ處刑スルノ
 權ヲ制限スル者ハ是法律ヲ以テ制ス可ラザル人權ト正義トヲ侵害
 スルニ異ナラザルナリト又謂ラク刑ハ復テク裁判官ノ良心ヨリ出ヅ

ヘシ條目ヨリ出ヅ可ラズ條目ハ空物ナリ裁判官ノ良心ハ萬事ヲ理ス
 即チ上帝ガ附スル所ノ權利ナリト
 今余チシテ驚駭セシメタルノ說ヲ大胆ニモ論究シ余ノ無力ナルヲ申
 明セザル可ラズ思フニ此說チナス者ハ第十八世紀ノ改正家カ刑法ニ
 付テ提出セル總テノ主義即チ一千七百八十九年ノ革命ヲ以テ制定ス
 ル所ノ刑法ノ諸主義ヲ無ニシ轉覆セント欲スルナリ是寧ロ却步ト謂
 フ可クモ何ソ以テ進歩トス可ケンヤ蓋シ裁判官ノ活法タリシ法制ト
 時世トハ固ヨリ之アリシト雖モ誰レカ舊時ニ還ルヲ欲セシヤ又決テ
 得可ラサルノ事タリ其裁判官ノ活法タリシ時世ハ刑律史中實ニ言フ
 可テザル不幸ノ時代トス若シ夫真正ノ進歩ハ即チ吾刑典ノ歴史ニ於
 テ漸ク變遷改良ノ跡ヲ徵スルニ足ル而シテ其初步ノ一大主義ハ法律ニ
 於テ刑罰ヲ確定シ裁判官ニ於テ之ヲ施行スル是ナリ乃チ以テ法律ト

裁判官ト各其權ヲ分掌スル所以ヲ知ルベキナリト
 ド、パリウー氏ハ理論ヲ以テ助成物ニ過ギズトスル論者ト異ニシ理論
 ナ輕視スル者ニ非ズト自ラ明言スト雖モ然ルニ其論ズル所或ハ其駁
 スル所ヲ賛成スル無キニ非ズ又道德ノ正義ト社會ノ正義トノ差別ヲ
 忘却シタルヲアリ其意蓋シ犯人上帝ニ對シ既ニ其負債ヲ償却セハ則
 ナ亦社會ニ對シテ之ヲ償却ストスル者ノ如シ其上帝ニ對スルノ負債
 ト社會ニ對スルノ負債トナ同視スルヨリセハ法律上及ビ地上ノ責應
 ト斯世ニ關セザルノ責應トナ混同シタルヲ知ルナリ其言ニ云ク若シ
 裁判所ニ喚出セラレタル者ニシテ十分道德ノ感覺アリ其罪タルヤ遇
 然ニ出デタルヲ以テ深ク悔悟シ裁判官モ亦爲メニ憫諒スルニ至リ衆
 庶ノ無上ノ裁判官即チ上帝カ前ニ於テ清淨潔白トナリシ後之ヲシテ其慚
 悔ノミナ以テ再ビ社會ニ入レシムルヲ得ハ美事焉ヨリ大ナル者ナ

カラント

ド、パリウー氏カ此言社會償却ト道德償却トハ全ク異別ニシテ道德ノ
 償却ハ或ハ刑罰ニ關セザルアリ又之ニ關スルアルモ微少タルニ過ギ
 ザルヲ顧念セザリシナリ

以上擧ル所ノ立法上ノ議論ハ刑法原理ノ一大問題ナルヲ以テ詳細ニ之
 ナ討究セリ此講説ハ固ヨリ理論ニ係ルモ亦實際ニ關セザル者無キニ非ス
 一千八百七十年十一月及ビ一千八百七十一年一月七日全國防禦政府
 ノ布告ヲ以テ一千八百六十三年五月十三日ノ法律ニ於テ定ムル所ノ
 裁判官カ減刑ノ制限權ヲ廢シ一千八百三十二年四月二十八日ノ法ニ
 準フテ第四百六十三條ノ末項ヲ復セリ此舊法ニ復スヲハ九月四日ノ
 政府布告檢閱委員ノ名ヲ以テ一千八百七十二二年二月二十四日國會ニ
 呈致スル所ノ意見書ニ於テ可認セラレタリト云フ

第二十章 再犯

講説ノ選輯

前章ニ於テ認歸無キ事項即チ智能無キト或ハ唯自由無キト認歸ノ度
 チ減輕スベキ原因即チ宥恕及ヒ減輕情狀、減輕原因ヲ講究セリ
 今ヤ刑罰増重ノ原因即チ再犯^{レシメ}ニ就テ論ズル所アラントス刑法ニ於テ
 ハ犯人ノ事ヲ其第二篇ニ記載スト雖モ再犯ハ其第一篇ニ掲載セリ
 前文減輕情狀ヲ論ズルニ當リ既ニ立ル所ノ方法ニ倣フテ今再犯ヲ論
 ゼント欲ス一千八百三十二年四月二十八日ノ制ト一千八百六十三年
 五月十三日ノ制トハ分テ之ヲ論ゼリ蓋シ検査ノ法ヲ講究スルガ爲メ
 ニ其既ニ検査ヲ經タル法ハ固ヨリ能ク知ラザル可カラザル者タレバ
 先ツ再犯ノ舊法ヲ講シ次ニ其新法ヲ述論セン
 再犯トハ原語^羅ト謂フ^語ノ義意ノ如ク罪犯ニ再落スルノ謂ナリ既ニ刑ヲ
 受ケシ後頑然引續キ社會ノ命令ヲ犯スヲ謂フ然レモ其處刑ノ前更ニ

何チカ再犯ト云フ

再犯ハ常ニ追續犯罪ヨリ生ズ可キ

不累加刑ノ主義ニ違フ

罰ヲ犯シ其罪初犯ヨリ輕キ刑ニ該リ法律ニ於テ之ヲ算入セザル者ハ
 之ヲ再落トナサズ既ニ處斷ヲ經テ其罪確定シ而シテ再ビ罪ヲ犯ス者之
 チ再落ト謂フ
 處斷ノ前數罪ヲ犯スモ爲メニ刑罰ヲ増重セザルノミナラズ罪犯ノ數
 ニ隨フテ特別ナル各刑ヲ併施スルヲナシ是レ不累加刑ノ原則ニ依ル
 所ナリ
 此原則ノ理ハ前章ニ之ヲ解説セリ社會命令保護ノ爲メニ社會ニ於テ
 當施スル所ノ責應ハ其命令ノ遵奉ス可ク犯ス可カラザルヲ知ラシム
 ルニ餘リアル可シトハ反對ノ證アル迄社會ノ信セザル可カラザル所
 ナリ責應ノ最モ重キ者ヲ以テ處斷以前ノ諸犯ヲ罰スル時ハ犯人ハ之
 ニ由テ將來法律ヲ遵奉シ復タ制禁ニ違ハザル可シト社會ニ於テ推測
 セザル可カラズ

再犯

然リ而シテ若シ犯人ニ於テ此推測ヲ空ニスルコトアリ既ニ一タビ長心ノ
發動ヲ輕シテ法律ノ威逼ヲ蔑シ且刑罰ヲ賤ムコトアルハ則チ其新タ
ニ罪ヲ犯ス者ハ特ニ未ダ嘗テ刑ヲ受ケザル者ニ行フ可キ刑ノミヲ以
テ罰ス可カラザルナリ其罪犯タル犯人ガ情意ヨリセバ實ニ懼ル可キ
者アルナリ是ノ如キ者ハ唯不從順ト謂フ可キニ非ズ其惡心タル頑然
凝結シ好シテ社會ト法律トニ悖戾シ一タビ刑ヲ受ルモ恬然意トセザ
ルナレバ通常刑ヲ以テ能ク懲治ス可キ所ニ非ズ是ヲ以テ特別ニ刑罰
ヲ増重セザルヲ得ザルナリ夫レ刑法ハ自餘ノ諸法ノ如ク尋常ノ場合
ヲ制定シ罪犯ノ普通ナル者ヲ遏止スル者ナリ而シテ罪犯ノ危險ナル其
通常各刑ノ効無キ如キ者アルニ及テハ亦之ガ場合ヲ制セザル可カラ
ズ乃チ斯ノ場合ニ於テ刑罰ノ度若クハ其性質ヲ増重ス可シ法律上ノ
再犯即チ處刑後再落ハ法律上ヨリ之ヲ見レバ大概皆德義ヲ缺ク益大

ヒナルノ證ニシテ社會ノ刑罰ニ於テモ亦益大ヒナラザルヲ得ザル者
トス

法律上ノ再犯ハ既ニ處分ヲ經タル後罪犯ニ再落シ其種類ヲ同フスル
ヲ要セズ如何ナル罪ト雖モ犯法ノ決心ヲ以テ再落シ危害ノ情アルニ
於テハ其初刑ヲ不足トシ増重刑ヲ行ハザル可カラズ再犯ニ刑罰ヲ増重ス
ルヲ以テ一般ノ規則トセズ之ヲ例外トセリ(盜罪ノ場合第二百四十四條)竊盜
千五、第二百五十五條、贓罪ノ場合第二百四十四條、竊盜
刑法第四章第五款ニ於テモ亦殆ソト口耳受法ノ如ク日夕數罪ニ因リ有期徒刑
ノ數刑ヲ併加ス可キ時ハ其最モ長キ時間又ハ各刑ノ時間同一ナル時ハ其時間
ヲ二年以上ニ増加ス可カラズ其數罪ニ因リ禁獄ノ刑ニ處ス可キ者モ亦之ニ照
準ス可シト(白耳義刑法第五十四條、第五十五條、第五十六條)於テハ再犯ニハ
性質ヲ變換セズ唯之ヲ増重セリ然レモ又例外トシテ重キ刑ヲ行フコトアリ以
太利刑法第八十八條ヨリ第三百十條迄ニ再犯ノ場合ヲ記シ重キ刑ヲ行フコトアリ以
刑ニ換ユルコトアリ又第一等若クハ二等重キ刑ヲ行フコトアリ以テ再犯ノ
最輕度ニ處スルヲ禁スルコトアリ此ニ由テ是レヲ行フコトアリ以テ再犯ノ
於テ再犯ノ大率又ハ特別ノ場合ニ

此規則ハ固ヨリ嚴重ナリト雖モ實際ニ於テハ稍節制セザルヲ得ザル

再犯

再犯ノ數ニ
刑ヲ加重セ
ズ

者アリ現ニ輕減情狀ヲ以テ此法律上ノ推測ヲ和ラザルヲ得可ク又法律ニ於テモ再犯ニ拘ハラズ社會ニ復タ此加重刑ヲ要セズト推測スル
 一アリ
 再犯ニ定メタル増重ノ度ハ各再犯毎ニ増重ス可キヤノ問題アリ例ヘ
 ハ再ビ刑ヲ受クルノ後犯セシ第三罪犯ノ如キハ始テ刑ヲ受ケシ後犯
 ス所ノ罪犯ヨリ重キ刑ニ處ス可キヤ惡事ニ從フテ刑ヲ加重ス可シト
 云ヘル法語ヲ適用ス可キヤ
 論理ヨリスレハ然ル可キ者ノ如キモ義理公道ヨリスレハ若シ法律上
 ノ各再犯ニシテ毎ニ刑ヲ加重スル時ハ數回處刑ノ後ニ及テ罪犯ノ内部
 ノ情ト相比對ス可カラザルノ刑ヲ行フニ至ラノ輕微ノ罪犯モ或ハ死
 刑ニ處スル一アル可シ抑社會法ヲ以テ罰スル所ノ者ハ就中所業即チ
 外發罪惡ニノ内決罪惡モ亦固ヨリ算入スル一無キニ非ズト雖モ此レ

其多キニ居ル者ニ非ザレハ再犯ノ數ニ隨フテ漸次加重スルヲ一般ノ
 規則トナス可カラザルナリ蓋シ刑法第百九十九條第二百條ハ別格ノ
 規則トス

又始テ刑ヲ受ケシヨリ數多ノ歲月ヲ再ビ經罪ヲ犯ス者ノ亦再犯ニ定
 メタル増重刑ニ處ス可キヤ秀俊ナル學士ノ説ハ之ヲ不可トセリ曰ク
 「犯人ハ久ク復善ノ確證ヲ呈セリ唯遂ニ往時ノ處刑ニ忘ル、ニ至リシ
 ノミト然レモ若シ是ノ如キ者ヲ其第二回ノ罪犯ニ定メタル刑ノミニ
 處ス時ハ其刑タルヤ或ハ輕微ニシ再ビ之ヲ忘レ若干年ノ後ニ至リ復
 タ罪ヲ犯スモ未タ知ル可カラザル者アリ故ニ斯ノ犯人ノ如キハ通常
 加重刑ニ處ス可キヲ以テ定則トナス可シ

余ハ茲ニ再犯定則ノ歴史ヲ述ブルヲ要セザレモ處刑後再落スル者ニ
 刑罰ヲ加重スル義ハ既ニ羅馬法ニ明文ノ在ルアリテ吾古法ヲ經歷シ

再犯定則ノ
歴史及羅馬
法

再犯

コンスチテ
ユアント政

其規則ノ紛雜ナル結果ノ殊異ナル各懸隔アリト雖其影響ノ佛法ニ及ス者アルハ必ス明瞭ナル可キヲ述ベント欲ス古ヘヨリ再犯ハ常ニ刑度ニ關シ或ハ其性質ニ或ハ之ガ審理ヲナス法衙ニ關スルヲアリ而シテ又犯人ヲノ罪犯ヲ遂クルノ方法ヲ失ヒ且之ヲ再ビ犯スヲ得可カラシムルニ至リシヲアリ法律上ノ再犯ハ羅馬法ノ如ク犯人ノ縛ニ就キ刑ヲ受ケシヲ要セリ「コスタ、ユアント」政府ハ再犯ニ刑ヲ増重スルノ原則ヲ棄テザリキ故ニ一千七百九十一年七月十八日、二十二日ノ法ハ其第一章ニ於テ邑警察ノ事ヲ載セタリシガ同章第二十七條ニ於テ再犯ニハ二倍ノ罰金ヲ科ス可シトセリ或ル違警罪ノ再犯ニ付テハ邑警察廳之ヲ裁判セズ之ヲ輕罪裁判所ニ送附セリ是レ其第一章第二十三條ニ載スル所ナリ其第二章ニ載スル所ノ輕罪ハ諸條款ノ末尾大概此文アリ曰ク再犯ハ二

一千七百九
十五年九月
九日ノ刑
法

倍ハ刑ニ處ス可シト第三十、三十九、二十四、三十五、三十七、或ハ非常ナルヲアリテ尺度衡量ノ規則ニ違フ者ノ如キ始メ違警罪ニ問フモ其次ハ輕罪ニ論ジ三々ビ犯スニ及テハ重罪ヲ以テ處分スルニ至レリ第二章第第二章第二十九條ニ於テハ再犯ニ因リ裁判所ノ管轄ヲ換フ可キヲ定メタリ
一千七百九十一年九月二十五日ノ刑法ニ於テハ再犯ノ者ヲ其罪ニ該應スル刑ニ處シ其刑畢ルノ後補充刑トシテ流刑ニ處シタリ故ニ犯人ハ先ツ其罪ノ刑ヲ受ケ次ニ再犯ノ特別刑トシテ流刑ヲ受ケタリ第二章或ル人之ヲ駁シテ云ク其處ス可キ刑ノ如何ヲ論セス毎ニ流刑ヲ加フルトセハ第二回ノ罪犯ノ輕重ハ問フ所ナキナリト能ク理ニ適ヘル論ト謂フ可シ然レモ此條目ニ別格ノ件アリ其初犯ニ付テ剝奪公權若クハ鎖肆ノ刑ノミニ處セラレ再犯ニ付テモ亦剝奪公權若クハ鎖肆ノ刑

再犯

ノミニ處ス可キ者ハ流刑ニ處セズ禁錮二年ノ刑ヲ以テ之ニ換ヘタリ然レモ流刑ハ執行ノ地ナキヲ以テ久ク其名ノミナリシハ人皆知ル所ナリ

共和第四年
第二月ノ法典

共和第四年第二月ノ法典第三篇ニ於テハ從來ノ法制ヲ存維シ違警罪ヲ再犯スル者ハ輕罪裁判所ニ送附ス可シトセリ第六百七條
第六百八條

共和第十年
第八月二十三日ノ法

共和第十年第八月二十三日ノ法ニ記載シテ云ク凡ソ重罪ヲ犯シ既ニ處分ヲ經ル者再ビ罪ヲ犯シ施體ノ刑ニ處ス可キ時ハ其罪ノ刑ヲ言渡シ且再犯ノ符標ノ爲メ左肩ニR字再犯ノ義ヲ記シ公ケニ辱シム可シト斯ノ如クシテ流刑ニ換ヘタリシモ此法タルヤ假定ニ出テ流刑ヲ執行スルヲ得可カラザル間ノミ遵守ス可キ者ナリキ

治罪法

一千八百八年布告ノ治罪法第二篇第六章ニ於テハ施體或ハ加辱ノ刑ヲ受ケシ者再ビ重罪ヲ犯ス時ハ特別ノ裁判所ニ於テ特別ノ治罪方法

刑法

ヲ履行シ裁判ス可キヲ定ム宜ク其第五百五十三、第五百九十七、第五百九十八條ヲ參看ス可シ

一千八百十年ノ法典ニ於テハ重罪ノ再犯ヲナス者ハ其刑ノ一等ヲ増重シ剝奪公權ニ處ス可キ時ハ鎖肆ニ處シ懲役ニ處ス可キ時ハ徒刑及ビ笞刑ニ處シ有期徒刑及ビ流刑ハ無期徒刑ニ換ヘタリ以テ有期徒刑ト流刑トハ同等タルヲ知ル可ク又無期徒刑ニ處ス可キ時ハ死刑ニ處シタリ此増重ヲナスニハ初メ重罪ヲ犯シ既ニ處分ヲ經ル後再ビ重罪ヲ犯スヲ要シ又再犯人ハ毎ニ特別裁判所ノ審判ヲ受ケタリ其特別裁判所ニ於テハ陪審ヲ招集スルコトナク二十四時間ニ之ガ處置ヲ決定シ而シ其決定ハ大審院ニ上告スルコト得ザリキ一千八百十五年十二月二十日ノ法律ヲ以テ一千八百十七年ヨリ右ノ特別裁判所ヲ廢ス可キヲ布告シ爾來斯制アルヲ見ズ

再犯

重罪ニ因リ刑ヲ受ケル者輕罪ヲ犯ス時ハ其刑ノ最重度ニ處シ又ハ其最重度ニ倍ノ刑ニ處スルヲ得刑ノ性質ヲ換フルヲカリキ第五十七條初犯ニ於テ禁獄一年以上ノ刑ヲ受ルニ非ザレバ二犯輕罪ノ再犯ニ付テ刑ヲ増重セズ而シテ其增長ニハ其最重ノ刑ヲ行ヒ又ハ之ヲ二倍ニ迄増重スルヲ得可ク且五年ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラザルノ時間政府ノ監視ニ附シタリ第五十八條

一千八百十年ノ法典第五十七條ニ於テハ重罪ノ處分ヲ受タル後輕罪ヲ犯スニ因リ懲治刑ニ處ス可キ者ハ監視ニ附セズ蓋シ初犯ニ因リ刑ヲ受ルニ當リ附加刑トシテ監視ニ附セラル可キヲ思惟シタリシナリ然レモ若シ其處刑ハ剝奪公權或ハ追放ノ刑ナリシ時ハ此思惟タルヤ誤ルト謂フ可シ第四十八條

違警罪ノ再犯ハ初犯ニ因リ刑ヲ受ルノ後十二箇月以内ニ同一ノ違警

一千八百三十二年ノ檢閱

罪裁判所ノ管轄内ニ於テ再ビ罪ヲ犯スヲ要シ而シテ其罪ハ必ス禁獄ニ處シタリ第四百七十四條 第四百七十八條 第四百八十二條

一千八百三十二年四月二十八日ノ法ハ第五十八條ノミテ改正ス新條目ニ云ク

「施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ後更ニ主タル刑トシテ剝奪公權ノ刑ヲ言渡ス可キ重罪ヲ犯シタル者ハ追放ノ刑ニ處ス可シ
 更ニ追放ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ禁錮ノ刑ニ處ス可シ
 更ニ懲役ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ
 更ニ禁錮ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ最重ナル禁錮ノ刑ニ處ス可シ但其刑ノ期限ヲ二倍ニ迄増スヲ得可シト
 更ニ有期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ最重ナル有期ノ徒刑ニ處ス可シ但其刑ノ期限ヲ二倍ニ迄増スヲ得可シ

再犯

更ニ流刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ
 一旦無期ノ徒刑ヲ言渡サレシ者更ニ無期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ
 犯セシキハ死刑ニ處ス可シ
 陸海軍裁判所ニ於テ刑ヲ受ケシ者其後更ニ輕重罪ヲ犯スニ因リ再
 犯ノ刑ニ處ス可キハ嘗テ陸海軍ノ裁判所ニ於テ其刑法ヲ用ヒズ通
 常ノ刑法ニ從テ刑ヲ言渡シタル輕重罪ノ場合ノミニ限ル可シト
 此條目適施ノ要件ハ先ツ初犯ニ因リ施體若クハ加辱ノ刑ニ處シタル
 ニ在ルヲ注目ス可シ前キニ重罪ニ處シタルヲ以テ十分トセザルナリ
 今其第一第二第四項ヲ回顧セヨ此諸條目ハ刑ノ二種アルヲ示シ再犯
 ノ場合ニ於テハ剝奪公權ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ追放ノ刑ニ處シ追放ニ
 處ス可キ罪ヲ禁錮ノ刑ニ處シ又其禁錮ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ最重ナル
 禁錮ノ刑ニ又ハ其二倍ヨリ多カラザル時間禁錮ノ刑ニ處ス蓋シ法律

第五十六條
 適用ス可
 キノ案件

ハ流刑ト禁錮ノ刑ト互ニ變換スルニ其懸隔スル甚ダ大ナリト思惟ス
 ルナリ

第六項ノ場合ニ於テ法律ハ無期徒刑ヲ將テ流刑ニ換ヘタルモ論理ヨ
 リスレバ當サニ死刑ニ換フベキナリ然レモ唯公道ニ據テ斯クハナサ
 ヲリキ

一千八百五十年六月八日ノ法ニ於テ二種ノ流刑ヲ設ケタリ曰ク輕流
 刑曰ク重流刑輕流刑ハ刑法第七條ノ第三項ニ記ス所ノ刑ナリ而シテ若
 シ更ニ犯ス所ノ重罪其性質ニ因リ流刑ニ處ス可キ時ハ第五十六條第
 六項ニ載スル所ノ無期徒刑ニ處ス可キ乎

此點ニ付テハ諸人皆之ヲ非トセリ蓋シ一等重キ重流刑ナル者アリ再
 犯ノ場合ニ於テ之ヲ適用ス可シ
 然ルニ今其更ニ犯ス所ノ重罪其性質ニ因リ死刑ニ當リタルニ重流刑

再犯

ナ以テ之ニ換ヘタリ此レ再犯ノ場合ナリト雖何等ノ効モ生セザル
 乎
 毎ニ余輩ニ助ケアルノ刑法家ハ之ヲ可トセリ余其説ク所ノ盡ク慈心
 ニ出ヅルヲ解シ得ルモ第五十六條第六項ヲ適用ス可カラズトスルノ
 甚ク難キヲ見ルナリ前例ニ於テハ余其文面ヲ棄テタリト雖其精神
 ハ固ヨリ之ヲ可トセリ今此重罪タル重流刑ニ處ス可キ者ナルニ彼ノ
 法律ノ文面ト精神トハ一千八百三十二年四月二十八日ノ法律ニ於テ
 更ニ輕流刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯シタル時増重ス可シトスル所ノ刑ヲ
 以テ其再犯人ニ適用ス可シト命ゼザル乎
 第五項ニ於テハ法律ノ禁錮ニ付テ規則ヲ設ケタル如ク有期徒刑ニ付
 テモ亦之ヲ設ケタルヲ見ルナリ即チ其犯ス所ノ重罪有期徒刑ニ處ス
 可キ時再犯ノ場合ニ於テハ其最重ナル有期徒刑ニ處シ又ハ其刑ノ二倍

ニ迄増重スルヲ許ス一等ヲ増シテ無期徒刑ニ處スルヲ無シ
 又第七項ニ於テハ更ニ犯ス所ノ重罪無期徒刑ニ處ス可キ者ナリト雖
 モ此刑ヲ換ヘテ死刑ニ處ス可カラズトシ此ノ如クシテ死刑ヲ適用ス
 ルニハ前ニ犯ス所ノ重罪モ無期徒刑ニ處セラレタルヲ要セリ而シテ
 自餘ノ諸項ニ於テハ前ニ犯ス所ノ罪唯施體或ハ加辱ノ刑ニ處セラレ
 タルノミチ以テ再犯ニ因リ刑ヲ増重ス可シトスルモ今此項ニ於テ斯
 ノ如キ要件ヲ設クル者ハ此レ法律ニ於テ死刑ヲ行フハ已ムヲ得ザル
 ニ出デ、而シテ再犯ニ因リ刑ヲ増重スルモ容易ニ之ヲ行フ可カラズト
 シタルヲ知ルナリ蓋シ法律ハ姦惡ノ更ニ重罪ヲ犯シテ無期徒刑ノ無効
 ニ屬スルノ確證アルヲ待ツナリ
 初メ死刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯シ一旦特赦ヲ受ル後更ニ無期徒刑ニ處
 ス可キ重罪ヲ犯ス者ハ其再犯ニ因リ死刑ニ處スルヲ得可キ乎曰ク

因ヨリ然リ死刑ニ處スルモ決テ非理ニ法義ヲ擴張スル者ニ非ズ
佛國現今ノ法律ニハ四種ノ再犯ヲ記載セリ

第一 施體若クハ加辱ノ刑ニ處セラレタル者更ニ施體若クハ加辱ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯ス此レヲ第五十六條ノ場合トス

第二 施體若クハ加辱ノ刑懲治刑若クハ違警刑ニ輕減セラレタル刑法律上ノ宥恕及ヒ輕減情狀アリシ場合ヲ受タルヲ論セズ凡ソ重罪ノ爲メニ處分ヲ受タル者更ニ輕罪ヲ犯ス此レ第五十七條ノ場合ナリ

第三 輕罪ニ因リ禁獄一年以上ノ刑ヲ受シ者更ニ輕罪ヲ犯ス此レ第五十八條ノ場合ナリ

第四 違警罪ニ因リ刑ヲ受シ者其刑ヲ受シヨリ十二箇月以内ニ初犯ヲ裁判セシ裁判所管轄内ニ於テ更ニ違警罪ヲ犯ス此レ第四百

八十三條ノ場合ナリ

其他許多ノ場合アリト雖モ法律ハ之ヲ遺脱シタルガ如シ

余ハ先ツ茲ニ諸人ノ刑ヲ増重ス可カラズトスル場合ヲ舉示セン

一旦違警ノ刑ヲ受ル者更ニ輕罪若クハ重罪ヲ犯シ又一旦重罪若クハ輕罪ノ刑ヲ受ル者更ニ違警罪ヲ犯スガ如キ蓋シ懈怠過失ノ如キ小罪

ト懲治刑或ハ施體若クハ加辱ノ刑ニ處ス可キ故意大罪トハ固ヨリ雲泥ノ差アリテ毫モ互ニ連繫スル所ナカル可シ

今其難キ場合ヲ舉ケン

其一 輕罪ニ因リ禁獄一年以上ノ刑ヲ受タル者更ニ施體若クハ加辱ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯ス此レ後ニ犯ス所ノ罪、輕罪タルモ既ニ刑ヲ増重ス可キヲ以テ此重罪ニ付テハ亦固ヨリ之ヲ増重ス可シ蓋シ其惡心唯尙ホ殘存スルノミナラズ滋々增長スルガ如ケレハナリ

然リ而シテ法律ハ此事ニ付キ明文ナシ其故ハ一種ノ刑ヨリ他ノ一種ノ

再犯

第二ノ場合

刑ニ遷移スルキハ之ヲ増重スルニ餘リアルヲ以テナリ
 其二 輕罪ニ因リ一年以上ノ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者刑ヲ減ス可
 キ情狀アルニ因リ懲治刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯ス此場合ニ於テ第五十
 八條ヲ適用スベキ乎其文面ニ據レバ然ラザル者ノ如シ蓋シ第五十八
 條ハ更ニ犯ス所ノ罪輕罪タルヲ要ス又假令刑ヲ輕減ス可キ情狀アル
 モ重罪ヲ換ヘテ輕罪トスル如ク罪犯ノ名稱ヲ變セザルナリ然レモ其
 條目ノ精神ニ至テハ或ハ刑ヲ増重スルヲ無キニ非ザル乎若シ此條目
 ニ依ラザレバ裁判官ハ其無力ノ證アリシ刑以前受ニ非ザレバ行フ可
 キ者ナカラシ理論ニ於テモ亦殆ント然リトセシ者ノ如シ
 一千八百四十二年六月二日ノ大審院ガ判決ニ於テハ寛大ノ處置ヲナ
 シタリ是レ蓋シ法律ノ意ヲラシ陪審ハ刑ヲ輕減ス可キ情狀アリトシ
 是ノ如キ再犯ハ惡心增長ノ證トスルニ足ラズト決定シ法律ニ據テ刑

第三ノ場合

ヲ増重スルヲ得タリシモ敢テ然セザリキ
 其三 輕罪ニ因リ一年以上ノ禁獄ノ刑ヲ受シ者宥恕ス可キノ證アリ
 テ懲治刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯ス例ハ毆打暴行ニ因リ故殺ノ罪ヲ犯
 シタリトセン刑法第三百二十六條ノ明文ニ從ヘハ禁獄ノ刑ニ處ス可
 シ又十六歳以下ノ幼者輕罪ノ爲メニ既ニ刑ヲ受ケタル後年齢ニ依リ
 宥恕ス可キノ付キ懲治刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯ス刑法第六十七條此レ第五十
 八條ニ準據ス可キ者ニ非サル乎
 此場合ニ於テ裁判官ハ刑ヲ輕減ス可キ情狀アリトシ法律ニ定ムル所
 ノ増重刑ノ事ヲ棄テタリト謂フ可カラズ裁判官ハ其宥恕ス可キノ源
 因ヲ識ズトスルヲ得ス此レ法律ノ謂フ所輕罪ノ再犯ニ非スヤ
 夫レ宥恕ス可キノ重罪ハ即チ重罪タリテ宥恕ス可キノ證アルヲ以テ
 事實ノ名稱ヲ變スルヲナシ然ラハ則チ輕罪ノ再犯ヲ要スル第五十八

再犯

條ニ照シテ右ノ場合ニ當ツ可カラズ又初メ受クル所ノ刑ノ重罪タル要スル第五十七條ニモ照準スルヲ得ズ人或ハ云ハシ然レモ宥恕ス可キノ重罪ヲ輕罪ヨリ輕ク處斷スルハ甚不都合ナル者アリト余ハ之ニ答ヘテ曰ハントス宥恕ス可キノ重罪ヲ宥恕ス可カラサル重罪ヨリ重ク處斷スルハ一層不都合ナル者アリト而シテ初メ輕罪ニ因リ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ宥恕ス可カラサル重罪ヲ犯スモ毫モ刑ヲ増重セラレ、トナキナリ此點ハ今日ニ於テ衆人ノ識認スル所ニシテ或ル人ハ刑ノ種類ノ變更ニ因リ刑ヲ増重スルガ故ナリトセリ其レ或ハ然ラシテ法律ノ義意トス可シ然レモ一旦此原則ヲ履行セハ法律ニ於テ宥恕ス可キノ重罪トスル者ノ爲メニモ亦此ノ如クセザルヲ得ザルナリ

其四 重罪ヲ犯スモ刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ因リ懲治刑ニ處セラ

第四ノ場合

レタル者再ビ重罪ヲ犯ス而シテ亦刑ヲ輕減ス可キ情狀ニ因テ懲治刑ニ該應ス是ノ加キハ刑ヲ増重ス可キ者アル乎

此場合ハ初シテ重罪ノ爲メニ刑ヲ受タルニ上文舉ル所ノ第二ノ場合ニ於テハ初メ輕罪ノ爲メニ刑ヲ受タルニ因リ第二ノ場合ト異ナルモノトス然レモ第四第二ノ兩場合ニ於テ問題トスル者ハ重罪ノ名稱ヲ下ス可キ事件ニシテ懲治刑ニ處ス可キニ於テハ再犯ノ時之ヲ輕罪ト同視ス可キヤ否ニ在リ

大審院ハ第二ノ場合ニ於テ之ヲ輕罪トス可カラザルニ決シ第四ノ場合ニ於テ輕罪トス可キニ定ム其第四ノ場合ヲ定ムルニ刑法第五十七條ニ準據セリ抑此條目ノ第一要件ハ初メ重罪ニ因リ刑ヲ受ルニ在リテ而シテ今第四ノ場合ニ於テハ之ヲ具フト雖モ其初メ受ル所ノ刑ハ必ずシモ施體加辱タルヲ法律ニ於テ要トセザルナリ只其缺クル所ノ者

再犯

第二要件是ナリ即チ其再犯タル輕罪ニ非ザルナリ且ツ前ニ屢言フ如ク假令ヒ刑ヲ輕減ス可キ情狀アルモ重罪ヲ輕罪ニ變換スルコトハナシ大審院ニ於テモ既ニ數多ノ判決中此原則ニ依ルコトアリ一千八百四十二年六月二日ノ判決ニ於テ輕罪ニ因リ一年以上ノ禁獄ノ刑ヲ受シ後刑ヲ輕減ス可キ情狀アルヲ以テ施體加辱ノ刑ニ處ス可カラザル重罪ヲ犯シタル者ヲ第五十八條ニ據テ刑ヲ增重ス可カラズト定メタルモ亦只是レガ爲メノミ

大審院ノ此判決大ニ駁議ヲ致セリ論者ノ言コ云ク第五十七條ハ適用ス可カラズ宜ク第五十八條ニ據テ處斷スベシト而シテ重罪裁判所ハ第五十八條ニ照準シタリシガ其判決タル蓋シ大審院ノ判決ニ愈ルト謂フ可シ

余ハ此條目兩ナガラ適用ス可カラズト信ズルナリ夫レ第五十八條ニ

於テハ二箇ノ輕罪アルヲ要ストスルモ今此場合ニ於テハ二箇ノ重罪アリ然ラバ則チ法律ノ二箇ノ要件全ク缺タリト謂フ可シ第五十七條ニ至テハ大審院ノ判決ヨリ稍寛ナル者アリテ此條目第一要件ノ如ク初メ重罪ニ因リ刑ニ處セラレタルコトアルモ再ビ犯ス所ノ罪輕罪タルニ非ザルヨリハ刑ヲ增重スルコト得ザル可キナリ

再犯論ヲ明瞭ナラシメタル或ル刑法家ハ第五十七及ビ第五十八條ニ付キ裁判ヲ一轍ニ出デシム可キ說ヲ立タリ以爲テク法律ハ此二箇條ニ於テ再ビ犯ス所ノ罪懲治刑ニ處ス可キ性質アル事件タル以上ハ刑ヲ增重ス可シトナシタルナラント

然レモ右二條ノ文面ヲ觀ルニ此說ヲ排斥スル者ノ如シ蓋シ法律ニ於テハ更ニ犯ス所ノ罪ニ輕罪ノ名稱ヲ下ダスナリ

其五 施體若クハ加辱ノ刑ヲ受タル者更ニ重罪ヲ犯ス而シテ其刑ヲ輕

減ス可キ情狀アルニ因リ懲治刑ニ當ス是ノ如キ罪ハ再犯ノ故ヲ以テ刑ヲ増重ス可キ乎

減刑情狀ノ刑ヲ計算セシムハ先ツ再犯ニ因リ及ビ第五十六條ノ文面ニ隨フテ犯人ヲ處ス可キ刑ヲ定メ而シテ後其必ズ輕減ス可キ一等ヲ減シ或ハ其場合ニ因リ裁判官ノ隨意ニ輕減ス可キ二等ヲ減セザル可カラズ

又若シ其罪再犯ニ因リ有期徒刑ニ處ス可ク而シテ重罪裁判所ニ於テハ其必ズ輕減ス可キ一等ヲ以テ足レリトセズ二等ヲ減シテ懲治刑ニ處ス可キキハ第五十七條及ビ第五十八條ニ隨フテ最重度ナル五年以上ノ禁獄ノ刑ニ處スルヲ得ル乎

曰ク否ス苟モ第五十六條ヲ適用セハ第五十七及ビ第五十八條ヲ行フ可カラザルナリ然ラズンハ再犯ニ因リ再犯人ニ刑ヲ増重スルニ至

ル可キナリ

又刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ因リテ必ズ懲治刑ニ處ス可キニ至ル者アリ例ヘハ其更ニ犯ス所ノ重罪剝奪公權ノ刑ニ該應シ而シテ其再犯ナルニ因リ懲治刑ニ處ス可キガ如キ第四百六十三條第四項ニ依レバ其剝奪公權追放ノ兩刑ハ最輕度一年ナル禁獄ノ刑ニ換フ可キヲ以テ裁判官ニ於テ其最重度ヲ越ユ可カラズ又之ガ二倍ニ迄増重ス可カラズト決定セザルヲ得ザル乎

或ル人之ヲ不可ナリト云ヘリ其意以爲ラシ第五十七條ハ則チ適用ス可キモ第五十六條ハ適施ス可カラズト此說ニ依レバ追放ノ刑ヨリ再ビ降テ剝奪公權ノ刑ニ至ルヲナキカ故ニ必ズ輕減ス可キ者ト隨意ニ輕減ス可キ者トノ二等ハアル可カラズトシ第四百六十三條ハ懲役禁錮追放剝奪公權ノ四刑ヲ同列ニ置クヲ以テ再犯ノ場合ト雖モ又刑ヲ

再犯

第六ノ場合

増重スルニ由ナカル可シト云ヘリ
 余ハ此論ニ拘ハラズ第五十七條ハ適用ス可カラズ宜ク剝奪公權ノ刑
 ナ重ニ追放刑トナシ再犯ノ廉チ立ツベシト信ズル刑ヲナリ輕減ス可
 キ情狀アリテ斯ノ如ク一等ヲ増重スルハ或ハ奇怪ナル可シト雖モ第
 四百六十三條ニ依リテ決スル所此場合ニ於テハ第五十七條ニ照ス可
 カラズ唯第四百一條即チ一年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラザル禁獄
 ノ刑ヲ定メタル條目ニ照準ス可シ
 其六 重罪ヲ犯シタルニ第八條第三百三十八條第四百四十四條ニ記シ
 タル宥恕ス可キ場合ナルニ付キ初メ監視ノ刑ニ處セラレタル者其後
 更ニ重罪ヲ犯ス是ノ如キ者ハ第五十六條ニ準據シ刑ヲ増重ス可キ乎
 曰ク否ズ抑、此條目ヲ適用スルニハ施體若クハ加辱ノ刑ノ言渡ナカ
 ル可カラズ而ノ監視ノ刑ハ重罪及ビ懲治罪ニ普通ナル者ト雖モ是レ

不累加刑ノ
較定則トノ比

刑ノ言渡ヲ
執行スルヲ
得ザル場合

施體若クハ加辱ノ刑ニ非ザルナリ第七條 第八條若シ更ニ犯ス所ノ罪輕罪ニ
 ノ重罪ヲラザリシキハ其初メ受ル所ノ刑ハ重罪ノ爲メナルヲ以テ固
 ヨリ當サニ第五十七條ヲ適用セザル可カラズ是レ蓋シ法律ノ不都合
 ナル所ナラン如何トナレバ此場合ニ於テハ重罪ニナサ、ル所ノ刑ノ
 増重ヲ却テ輕罪ニ施行スレハナリ
 以上列擧スル所ノ諸場合ハ理論ト實際ニ於テ尙ホ大ニ討究ス可キ者
 アリ又其當サニ詳明ス可キ難題モ少カラズ而シテ今余ガ可トスル説ノ
 中或ハ自ラ疑ヒナキ能ハザルモノモアリ
 再犯ノ事件ニ付テハ順序ヲ以テスルモ或ハ刑ノ執行ヲナスヲ得可カ
 ラザル者アリテ其結果ハ不累加刑ノ主義ニ於テ遭遇ス可キ者ト殆ド
 相似タリ
 通常ノ言渡ヲ以テ無期徒刑ヲ受タル者遁逃シ更ニ重罪ヲ犯ス而シテ其

再犯

法律上ニ刑ヲ累加シテ而
キ其最重刑ニ付
ニ最重刑ニ付
増重スルヲ
得可キ乎

重罪ハ懲役ノ刑ニ處ス可キ者ナレモ再犯ナルニ因リ有期徒刑ニ當ス
此有期徒刑ハ實際執行スルヲ得可カラズ必ズ無期徒刑ト混同ス可シ
然リト雖モ其宣告セザル可カラザル所以ノ者ハ是レ無期徒刑ハ法律
檢閲若クハ國君ノ所爲ヲ以テ消滅スルヲ得可ケレハナリ
若シ其更ニ犯ス所ノ重罪最初ノ處刑以前ニ係リ最重刑ヲ既ニ宣告シ
タリシ以上ハ特赦或ハ檢閲アル可キヲ慮リ最輕刑ヲ將テ之ヲ處ス可
キ乎此レ不累加刑原則ニ付テ未ダ講究セザリシ一點ナリ此點ヤ重大
ナリト雖モ再犯ノ問題ニハ關ラザル者ナリ
刑法第五十七條第五十八條ニ記シタル場合ニ於テ再犯ノ時ハ必ズ最
重度ヲ適用ス可シトナシ又之ヲ二倍ニ迄増重スルヲ許ス若シ法律上
二刑ヲ累加スルニ於テハ其二刑ノ最重度ヲ適用セザル可カラザル乎
曰ク二刑ノ共ニ必ズ行フ可キ者ニ付テハ可ナリ然レモ其一ハ必ズ宣

告ス可キ者ニシテ其一ハ隨意ニ宣告ス可キ者タル時ハ如何
或ル人ハ云ク裁判官ニ於テ其隨意ニ宣告ス可キ者ヲ宣告セザルヲ得
可シ然レモ若シ之ヲ宣告スルニ於テハ之カ最重度ヲ行ハザル可カラ
ズト

余ハ此第二說ヲ可トスルヲ得ス抑裁判官ハ何レノ場合ト雖モ其隨意
ニ宣告ス可キ刑ヲ避ルノ自由アルニ其一部分ニ付テ却テ之ヲ避クル
ヲ得ストスルハ甚ダ信シ難キノ說ナリ

第五十七條第五十八條ニ記シタル場合ニ於テ刑ヲ輕減ス可キ情狀ア
リシ時ノ効ハ第四百六十三條ニ於テ詳密ニ之ヲ定メ再犯ノ場合ト雖
モ裁判官ハ禁獄ノ刑ヲ六日以上ニ罰金ヲ六フラン以下ニ減スルヲ得
又別ニ其一箇ノミヲ宣告シ又ハ禁獄ヲ換ヘテ罰金ニ處スルヲ得可
シトセリ

違警罪ノ再犯ニ付テハ必ズ禁獄ノ刑ヲ行フモノトス刑法第四百七十四、四百七十八、第四百八十二條刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ非ザレバ之ヲ免ル、刑法第四百八十三條一ヲ得可カラズ

治罪法第六百三十四條ニ依レバ再犯ノ處刑ヲ受タル者ハ復權ヲ得可カラズ而シテ法律ノ復權ヲ許ス者ハ重罪ニ限ルヲ以テ此條目タル第五十七及ビ第五十八條ニ循ヒ再犯ノ處刑ヲ受ル者ニハ關ハラザルナリ

唯第五十六條ニ因リ再犯ノ處刑ヲ受タル者ノミニ適用ス可キモノトス

第六百三十四條ノ第五十六條ニ連繫スルヤ固ヨリ明クノ輕罪ニ因リ刑ヲ受シ後更ニ重罪ヲ犯シタル者ヲ處斷スルガ爲メニ此制アルニ非ザルナリ蓋シ此場合ノ初メノ處刑ハ重罪ニ適用ス可キノ刑ニ毫モ影響ヲ及スコトハアラズ又此條目タル重罪ヲ犯セシ後輕罪ヲ犯シタル者ニモ適用ス可カラザルナリ如何トナレバ復權ニ因リ消滅ス可カラザ

ル結果アルノ刑ハ再犯ノ刑ニシテ初犯ノ刑ニ非ザレバナリ

復權ニ係レル一千八百五十二年七月三日ノ新法ハ治罪法第六百三十四條ヲ改正シ左ノ如ク定メタリ

重罪ヲ犯シタルニ付キ刑ヲ受ケタル後更ニ重罪ヲ犯シ施體又ハ加辱ノ刑ニ處ス可キ者ハ復權ヲ得可カラズ

此法ハ懲治刑ニ處セラレタル者ノ復權ヲ得ルノ益ヲ擴メタル者ナレバ刑法第五十七條第五十八條ニ依テ再犯ノ處分ヲ受ケタル者ハ復權ヲ得可シ然ルニ重罪ノ刑ヲ受シ後更ニ施體又ハ加辱ノ刑ニ當スル犯罪ヲ犯シタル者ハ其處セラレ可キ刑ノ懲治タルヲ問ス復權ヲ得可カラザルヲ以テ第六百三十四條ハ奇怪ニ刑ヲ増重シタリト謂フ可シ

是ノ如ク一千八百五十二年七月三日ノ法ヲ解釋セバ痛ク之ヲ排斥スル者アラシ蓋シ重罪ヲ犯シテ懲治刑ヲ受ル者ハ第五十六條ニ依リテ

刑ヲ増重セラル、トナカル可ク余輩ヲ以テスレハ毫髪ノ増重スル所
 ナク唯其第二回ノ犯罪ニ因テノミ刑ヲ受ク可ク而シテ再犯ニ問フコトナ
 カル可キナリ然レバ則チ何故ニ復權ヲ得ルノ益ヲ除去セントスル乎
 或ハ此法ハ一千八百三十二年四月二十八日ノ改正以前ノ規則ニ據ル
 可シトスル乎然レバ則チ一千八百十年ノ刑法第五十六條ニ準據シ檢
 閱ヲ經タル第五十六條ニ準據ス可カラズ蓋シ舊法第五十六條ニ於テ
 ハ初メ受タル刑ノ施體又ハ加辱ノ刑タルヲ要セズ唯重罪ノ爲メニ
 刑ヲ受ルヲ要ストセリ
 然リ而シテ若シ能ク第六百三十四條ノ義意ヲ討究シ下文ノ如ク解釋セ
 ハ此條款ノ全ク再犯規則ニ吻合スルヲ知ル可シ曰ク更ニ施體又ハ加
 辱ノ刑ヲ受ル者ノミ復權ヲ得可カラズ即チ少クモ再ビ重罪ノ刑ヲ受
 タル者ハ復權ヲ得可カラズ

如何ナル
 刑ヲ受ル
 事ニ付テ
 再犯ニ
 關スル
 事ニ付テ
 再犯ニ
 關スル

一千八百五十四年十二月二十七日ノ判決ハ此義意ニテ問題ヲ決定セリ
 再犯ニ因リテ罪ヲ斷スルニハ其罪ノ初決確定後ニ在ルヲ要ストハ上
 文ニ之ヲ言ヘリ是レ第五十六第五十七第五十八條ニ記シタル再犯ノ
 場合ニ普通ナル要件ナリ
 外國裁判所ノ處決ハ右ノ要件ヲ充タシタリトス可キ者乎
 博識ナル以太利刑法家ハ以テ然リトセリ其說ニ云ク「再犯ニ因リ刑ヲ
 増重スル者ハ此レ其犯人ガ習癖ニ因テ最モ危惡ノ性質アル第二回ノ
 犯罪ニ定メタル刑罰ノ補足タル可シ故ニ外國ニテ犯ス所ノ罪ヲ罰ス
 ルニ非ズ而シテ國權ノ區域ヲ越ヘンコトヲ懼ル、ヲ要セザルナリ又此レ
 外國ノ處刑執行ニ付キ自ラ任ズルニ非ズ其處刑執行ノ有無ハ全ク之
 ニ關セザルノ問題ニシテ唯其處刑ヲ以テ一事件ト看做シ犯人ガ既往
 ノ行狀トスルノミ夫レ再犯ニ刑ヲ増重スル初決ノ正不正ヲ考査スル

犯再

ヲ要セズ而ノ國民就中外國人ニ初メ重罪ヲ犯シ外國裁判所ニ於テ處斷ヲ經ル者ハ其既往ノ常ニ知ル可カラザルヲ以テ最モ危害トナル者ナリ今若シ此既往ノ確證ヲ得以前ノ處刑ハ無効ニ屬シタルノ徵アル時ハ其更ニ刑罰ヲ施スノ國ニ於テ何ア其名義ヲ以テ既ニ刑ニ處シタル可キ者ニ對シ施行ス可キ所ノ方法ヲ擲棄ス可ケンヤト此說タル緊切ナル者アリト雖モ余ハ之ヲ大本トスルヲ得ズ蓋シ外國ニテ刑ニ處セラレ其後佛國ニ於テ又罪ヲ犯ス者ハ佛國法律ニ於テ各罪ニ定ムル刑罰ハ概テ此法ノ制禁ヲ遵守セシムルニ十分ナル可シトスルノ推測ヲ徒爲ニ歸セシメザル可キナリ其外國刑罰ノ無力ヲ知ラシムルハ或ハ之アルモ是レ佛國刑法ノ闕セザル所ニシテ佛國刑法ハ之ガ干犯ヲ受ザルナリ是レ理論ニ於テ然ル所ナリ又實際ニ關テハ佛國法ト外國法トニ定ムル所ノ罪犯ノ類別刑罰ノ等級ヲ比較セザル

可カラストセハ其困難タル果テ如何ソヤ

治罪法舊第七條及ヒ一千八百六十六年六月二十七日ノ布告ヲ以テ檢査ヲ經タル此法第五條ノ別格ヲ除クノ外佛國法律ニ於テハ大率外國ニテ言渡タル刑ヲ意トセズ外國ニ於テ既ニ裁判ヲ經タル者ト雖モ佛國ニ於テ尙ホ裁判ス可シト思惟スルキハ再ビ裁判ヲナス可シ然ルニ何故ニ保護ノ方法トシテ排斥スル所ノ說ニ付テ刑ヲ增重ス可キ理アリトスル乎凡ソ佛國ノ名ヲ以テ決定セル裁判ハ佛國ニ在リテ所謂他處ノ事件ニ過キザルノミ羅馬ノ古語若シ佛人外國ニ在リテ重罪若クハ輕罪ヲ犯シ外國之ヲ罰セシ時ハ佛國刑法ハ其妨障ヲ受タルハ固ヨリ明ナリト雖モ佛國ニ於テ犯人ガ利益ノ爲メニ措置スル處刑ニシテ犯人佛國ニ於テ其効ヲ受ク可キ時之ヲ無効ナリトスルハ甚ダ奇怪タルヲ覺ユルナリ抑此問題タル處刑ノ問

再犯ノ時抗
傳ニテハ欠
席ニテ刑ラ
言渡シタル
ノ効
再犯ノ時特
赦ノ期滿免
除ノ權ヲ得
タルノ効

陸海軍裁判
所ニ於テ言
渡タル刑ノ
効

ナ行ハザル可カラス
抗傳及ビ缺席處刑確定スル時ハ再犯ノ場合ニ於テ通常處刑ト同一ナル効アリ
一旦刑ニ處セラレ特赦或ハ期滿免除ニ因リ其執行ナク又ハ復權ヲ得ルニ因リ向後其効無キモ犯人ニ於テ第五十六條第五十七條第五十八條ノ諸要件ヲ具フル以上ハ再犯ニ付キ刑ヲ増重スルヲ得可シ
大赦ニ因リ消滅シタル處刑言渡ハ第五十七條第五十八條ノ第一要件トスルヲ得ズ
陸海軍裁判所ニ於テ刑ヲ受ケ其後更ニ重罪或ハ輕罪ヲ犯ス者ハ再犯ニ因リ刑ヲ増重スルヲ得ル乎
此問題ハ第五十六條ノ末項ニ於テ決定セラル可シ第五十六條ニ依レバ嘗テ陸海軍裁判所ニ於テ其刑法ヲ用ヒズ通常ノ刑法ニ從フテ刑ニ

處シタル時再犯ノ刑ニ處ス可シトセリ

第五十六條ノ末項ハ第五十七條及ビ第五十八條ノ場合ヲ支配スルナリ其第五十七條ノ場合ヲ支配スルトハ陸海軍裁判所ニ於テ通常刑法ニ從フテ罰ス可キ重罪ノ處斷ヲ受タル者更ニ輕罪ヲ犯シタル場合ヲ支配スルヲ云ヒ又其第五十八條ノ場合ヲ定ムルトハ陸海軍裁判所ニ於テ通常刑法ニ從ヒ輕罪ニ因リ一年以上ノ禁獄ノ刑ニ處シタル者更ニ輕罪ヲ犯シタル場合ヲ支配スルヲ云フ
實ニ此項ハ重罪輕罪ノ事ヲ記載スト雖モ若シ之ヲ再犯ニ係レル諸條款ノ結末ニ置カハ其宜キヲ得ルニ似タリ
是ヲ以テ第五十六條ノ末項ニ據リ再犯ニ付キ刑ヲ増重スルハ初犯ト再犯トノ通常刑法ニ從ヒ刑ニ處ス可キ者タルヲ要ス此レ陸海軍軍律ノ再犯ニ付キ明文ナキモ自カラ釋然タル所ニノ一千八百五十八年六

月四日十五日ノ法律答辨者リ氏モ亦是ノ如ク説明セリ其言ニ曰ク余輩ハ特別ノ刑ニ處ス可キ海軍ニ關スル重罪輕罪ニ非ザレハ再犯ノ處分ヲナサザルコトナシト信ズルナリ若シ海軍裁判所ニ於テ通常刑法ニ據リテ刑ニ處ス可キ通常重罪輕罪ヲ犯ス者ヲ裁判スル時其再犯ナルニ於テハ通常刑法第五十六條第五十七條第五十八條ニ準據シ處斷ス可シト

罪ノ再犯ナルヤ否ヲ考定スル權ハ刑ヲ適用スルノ裁判官ニ在リテ事實裁判官ニ在ラズトス是レ斷例及ビ學術上ニ於テ犯罪外ノ元素即チ犯人カ身分ニ依テ重キ刑ニ處ス可シトナシ而シテ犯人ノ身分ハ事實ニ連結スル者ニ非ズトスルニ由ルナリ

第二十一章 再犯論

一千八百六十三年五月十三日ノ法律ハ刑法ノ數條ヲ校査シ其再犯ノ

罪ノ再犯ナルヤ否ヲ考定スル權ハ刑ヲ適用スルノ裁判官ニ在リテ事實裁判官ニ在ラズトス是レ斷例及ビ學術上ニ於テ犯罪外ノ元素即チ犯人カ身分ニ依テ重キ刑ニ處ス可シトナシ而シテ犯人ノ身分ハ事實ニ連結スル者ニ非ズトスルニ由ルナリ

一千八百六十三年五月十三日ノ法律

場合ニ係レル第五十七條第五十八條ノ文ヲ變更セリ而シテ其變更スル所ノ者ハ唯此條款ヲ釋明シ管テ人ノ附與シ來レル義意ヲ詳説シタルニ過ギザルカ或ハ稍改正スル所アリシカ將タ二個ノ性質ヲ具有シ其一部分ハ釋明ニ屬シ餘ノ一部分ハ新設ニ屬スル乎此レ即チ第一ノ問題ニシテ未ダ明ニ決定セザル所ナリ

第五十七條第五十八條ノ舊文面ニ付テハ甚ダ困難ヲ生シ諸説紛紜孰レカ是ナルヲ知ラズ唯學術上ト實際上下相吻合セザルノミナラズ學術ナリ實際ナリ其一ニ於テモ亦一定スル所ナク其解釋各異ナリ理論全ク錯擾スト謂フト雖モ決テ誣言ニ非ザル程ニテアリキ今此新法ノ出ル暗黒ヲ變シテ明瞭トナシ確實明白ヲ以テ礙滯疑團ニ易ヘタル手法案説明書立法院意見書議場討論集等ハ即チ其補遺注解ノ如キ者ニシテ司法卿ドラングル氏カ一千八百六十三年五月三十日ノ回達ニ於テ

釋明ニ付キ者引スベキ

再犯論

モ亦能ク之ガ區域ヲ詳舉セリ又右ノ法律布告後裁判官ナルフホースタ
 ン、エリー氏及ビシュトリク氏ハ各再犯ニ付キ新舊ノ條目ヲ比較考査シ
 書ヲ作り之ヲ世ニ公ニセリ故ニ今此問題ヲ講究セシト欲セバ之ガ參
 考トナル可キ者少カラズト雖モ未ダ以テ十分トセズ而シテ舊法ノ困難
 タル所尙ホ依然ト存スル者アレハ新法ニ於テモ亦其紛起スル者アル
 ナ信ズルナリ茲ニ舊法ノ難事ニ付テハ其全部ヲ舉示スルヲ欲セズ唯
 其最モ緊切ナル者ノミヲ説明シ以テ其尙ホ今日ニ存スルヲ證スルノ
 ミナラズ又其錯雜混淆滋甚シキ者アルヲ明ニス可シ
 今此難事ニ付テ其最モ概括ノ性質アル者ヲ舉ゲン蓋シ其概括ノ性質
 アル者ハ方サニ矯正スベキ特別ノ見事ヨリ大ナルモノト雖モ之ヲ問
 題ヨリ剝取スルハ誤リナラン

第一 再犯ニ因リ刑ヲ増重スベキ情狀ト刑ヲ減輕ス可キ情狀ト兩存

一千八百三十二年四月

二十八日ノ法律ニ付キ
 論ノ要
 ナル者ヲ登

スル時ハ裁判官ニ於テ先ツ増刑ノ計算ヲナシ次ニ減刑ノ順序ニ及ボ
 ス可キ乎將タ次第ヲ易ヘテ先ツ第四百六十三條ニ從テ刑ヲ減輕シ而
 ノ後例ヘハ第五十八條ニ從テ刑ヲ増重ス可キ乎
 先ツ刑ヲ増重セン乎將タ刑ヲ減輕セン乎其孰レヲ先ニス可キ乎
 第二 再犯ノ情狀アリ又刑法第三百二十六條ニ記シタル場合ノ法律
 上宥恕ス可キ情狀アリ又ハ第六十七條第六十八條ノ場合ナル十六歲
 以下ノ幼者ノ身分ニ因リ宥恕ス可キ者アリシ時ハ増刑減輕ノ順序ニ
 付テハ舊法ニ於テ前ト同一ナル問題ヲ生シタリ
 第三 重罪ノ再犯ニ因リ刑ヲ増重スルニハ下ノ二件アルヲ要セン乎
 一 施體加辱ノ刑或ハ加辱ノ刑ヲ受タル時ニ重罪ノ刑ニ處ス可キ時或
 ハ下ノ事件ノミヲ要スル乎一 重罪ノ刑ヲ受タル事ニ第二ノ處分ニ於
 テ處ス可キ刑ノ性質ヲ論セズ重罪ニ因テ刑ニ處ス可キ時此問題ハ一

再犯論

千八百三十二年四月二十八日ノ法律第五十七條ヲ解釋スルニ於テ關係ナキモノニ非ズトス

第四 此問題ハ第五十七條第五十八條ニ通ズ可キモノニシテ初メ重罪ヲ犯シ更ニ輕罪ヲ犯シタル場合及ビ再度ナガラ輕罪ヲ犯シタル場合ニ係ルナク而シテ其刑ヲ加重スル第二ノ要件ハ輕罪ニ因リ訴ヘテ受クルニ在ル乎或ハ其犯罪ノ如何ヲ論ゼズ總テ懲治刑ヲ受タルニ在ル乎
第五 第五十條ニ定メタル刑ヲ加重スル第一ノ要件トハ施體加辱ノ刑ノ處分ヲ含蓄スル乎禁獄一年以上ノ處刑モ亦含蓄セザルニ非ザル乎將タ一旦重罪ノ刑ヲ受タル者更ニ輕罪ヲ犯シタルニ付キ第五十七條ニ準據シ刑ヲ加重スルニ於テハ其初メ受ル所ノ刑ノ如何ヲ論ゼズ違警罪ニ處セラレタル時ト雖モ重罪ニ因リ處分ヲ爲スヲ以テ十分ナリトスル乎

第六 若シ第五十七條ノ場合即チ重罪ノ刑ヲ受シ者更ニ輕罪ヲ犯スノ場合ニ於テ輕減ス可キ情狀アル時ハ五年ヨリ少ナカラズ十年ヨリ多カラザル監視ノ刑ヲ命ズ可ラザル乎

第七 若シ宥恕ス可キ情狀アルニ因リ懲治刑ヲ將テ重罪ノ刑ニ換フル時陪審ノ刑ヲ減輕ス可キ情狀アリト決定スルニ於テハ重罪裁判所ハ必ズ其懲治刑ヲ輕減セザル可ラザル乎又若シ右同一ナル場合ニ於テ陪審其刑ヲ輕減ス可キ情狀アルヲ認定セザル時ハ重罪裁判所ニ於テ第三百二十六條ニ循ヒ其刑ヲ最輕度以下ニ輕減スルヲ得ル乎
第八 若シ例外トナリ十六歳以下ノ幼者重罪裁判所ノ吟味ヲ受ル時陪審ニ於テ刑ヲ輕減ス可キ情狀アリト決定シ或ハ此決定ナキ時ハ如何ナル影響ヲ生ズル乎

第九 犯罪ニ重罪タルノ性質アリテ刑ヲ加重スル陪審ニ於テ唯之ヲ

輕罪ト認定スル時其刑ヲ輕減ス可キ情狀アリト決定シ又ハ此決定ナ
キニ付キ如何ナル影響ヲ生ズル乎陪審ハ重罪裁判所ナシ懲治刑ヲ輕
減スルノ義務アラシム可キ乎

一千八百六十三年五月十三日ノ法ハ第一ヨリ第三迄ノ問題ヲ確定セ
ズ第五ヨリ第九迄ノ問題モ亦確定セズ擧テ之ヲ緩慢ニ附シタリ而シ
其決定スル所ノ二箇ノ問題ノ之ニ連結スル脈絡ハ立法者ニ於テ之ヲ
發顯セザリシカ又ハ十分ニ之ニ注目セザリシモノ、如シ

一千八百六十三年五月十三日ノ法ハ刑ヲ増重スル第二要件ニ係レル
第五十七條第五十八條ニ普通ナル問題ヲ決定シ此二箇條目ノ場合ニ
於テ重罪ノ刑ヲ受ケ更ニ輕罪ヲ犯ス者及ヒ輕罪ノ刑ヲ受ケ又更ニ輕
罪ヲ犯ス者ニ付刑ヲ増重スルコトハ唯懲治刑ノ處分アルノミヲ要シ而
シ此懲治刑ニ處セラレタル犯罪ノ重罪タルヤ否ヤヲ問ハズ總テ此場

合ニ於テハ刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ因リ刑法第四百一條ニ準據シ
處斷ス可キ重罪モ又法律上ノ宥恕ス可キ理由ニ因リ懲治刑ニ處ス可
キ重罪モ皆輕罪ト同視セリ

一千八百六十三年五月十三日ノ法ニ於テ第五十七條第五十八條ノ刑ヲ
増重スル第二要件ハ左ノ場合ニ於テ具備ス可シト決定セリ

第一 刑ヲ輕減ス可キ情狀ノ決定アルニ因リ重罪ノ刑ニ處ス可ラ

ザルカ或ハ重罪ノ刑ニテ法律上罰セザル重罪ノ場合

第二 重罪ヲ宥恕ス可シト決定シタル場合

第三 陪審ニ於テ情狀ニ因リ犯罪ヲ重罪トセズ唯輕罪ト認メタル

場合今法案答辨者ノ言ヲ擧ン曰ク抑第五十七條ハ如何ナル義意
アル乎茲ニ重罪ヲ犯ス者アリ訴ヲ受ケ假リニ繫獄セラレ重罪裁
判所ニ呼出サレ吟味ニ罹ル此等ノ手續ハ固ヨリ其重罪ノ名稱ア

釋解ニ付テ
ノ注意

第一ノ場合

ル可キヲ知ルニ足レリ然ルニ陪審ハ其刑ヲ輕減ス可キ情狀アリ
トスルカ或ハ宥恕ス可キ者アリトシ其所爲ハ重罪トナリタルモ
之ヲ懲治刑ニ處ス可シト決定ス再犯ノ効力ハ輕罪ノ効力ニ非ス
トハ余輩ノ許ルス所ナリ依テ裁判所ハ能ク第五十七條第五十八
條ノ規則ヲ了解ス可シ余ハ今之ヲ約說セン刑ヲ増重スルニ思考
ス可キ者ハ結果ニシテ罪犯訴ニ非ズ又其罪犯ノ求刑ニモ非ズ即
チ陪審ノ決定刑ノ宣告ナルノミト

今ヤ前ニ擧ル所ノ九問題中第一第二第三ヲ決定スルノ容易ナル可キ
ヲ信ズルナリ

茲ニ重罪ヲ犯シテ懲役ノ刑ニ處セラレタル者アリ後更ニ重罪ヲ犯シ
テ又懲役ノ刑ニ當ス然ルニ陪審ニ於テ刑ヲ輕減ス可キ情狀アリト決
定ス是ノ如キ者ハ第五十六條ノ場合トセン乎將ヲ第五十七條ノ場合

トセン乎

若シ再犯増刑ヲ先ニシ情狀減刑ヲ後ニス可キニ於テハ重罪裁判所ハ
懲役刑ヲ換ヘテ有期徒刑トナシ又降テ一等ヲ減ズル時ハ懲役刑トナ
シ二等ヲ減ズル患ハ懲治刑トナス可シ其二等ヲ減ズルノ場合ニ於テ
ハ必ズシモ其刑ヲ最重度迄ニ重フスルヲ要セズ又決シテ之ヲ其二倍
迄ニ重フス可ラズ但一年以下ノ禁獄ノ刑ニ處ス可カラザルナリ

若シ右ノ場合ニ於テ情狀減刑ヲ先ニシ再犯増刑ヲ後ニス可キ時ハ懲
役ノ刑ハ必ズ懲治刑ニ換ヘザルヲ得ズ而メ再犯ニ因リ禁獄ノ刑ハ少
ナクモ五年タル可ク又之ヲ十年迄ニ重フスルヲ得可シ故ニ其方法
論ハ全ク關係ナキニ非ズ却テ大緊要ナルモノトス

今其更ニ犯ス所ノ重罪ハ剝奪公權若クハ追放ノ刑ニ處ス可キモノト
セン再犯ニ因リ其剝奪公權ノ刑ニ處ス可キ者ハ追放ノ刑ニ處シ其追

第二ノ場合

再犯論

放ノ刑ニ處ス可キ者ハ禁獄ノ刑ニ處ス可シ然レモ若シ刑ヲ輕減ス可
 キ情狀アル時ハ第四百一條ニ依リ必ズシモ懲治ノ刑ヲ其最重度迄ニ
 重フスルヲ要セズ若シ刑ヲ輕減スルヲ先ニセハ其刑ハ一年ヨリ少ナ
 カラズ五年ヨリ多カラザル禁獄トナル可ク而シテ再犯ニ因リテ之ヲ增
 重セバ必ズ其最重度ニ處セザル可ラズ第一計算法ハ第五十六條ニ
 據リ第二計算法ハ第五十七條ニ據ルモリニエー氏ハ一千八百三十
 二年四月二十八日ノ法律ニ從ヒ此場合ニ於テ減刑ヲ先ニシ増刑ヲ後
 ニシ第五十七條ヲ適用ス可シト云ヘリ
 何故ニモリニエー氏ハ計算ノ順序ニ斯ノ如キ差別ヲ立テタル乎蓋シ
 其說ニ依レバ重罪ノ再犯ハ其更ニ犯ス所ノ罪必ズ重罪ノ刑ニ處セラ
 ル可キモノトシタレバナリ然ラバ則チ此第二ノ場合ニ於テハ其更ニ
 犯ス所ノ罪懲治刑ニ處ス可キノミ其減刑ヲ先ニシ増刑ヲ後ニスルニ

於テハ固ヨリ然ラサルヲ得ス然ルニモリニエー氏ハ何故ニ之ニ反
 對ナル順序ヲ履マザル乎第一ノ場合即チ更ニ犯ス所ノ重罪懲役ノ
 刑ニ處ス可キ場合ニ於テ若シ減刑ヲ先ニセバ亦懲治刑ヲ行フニ至
 ル可ク而シテ再犯ニ因リテ其懲治刑ノ最重度ニ處セザルヲ得ザル可
 シ

一千八百六十三年五月十三日ノ法ハ第五十七條ニ據テ此二箇ノ場合
 或ハ其一ノ場合ヲ定ル乎余輩ハ第五十六條ニ據テ此二箇ノ場合ニ
 定セザル可ラズト信ズルナリ如何トナレバ重罪ノ再犯ニ因リテ刑ヲ
 増重スル者ハ假令其初犯ノ重罪ハ施體加辱若クハ加辱ノ刑ニ處セラ
 レタルテ必要トスルモ其更ニ犯ス所ノ重罪ハ重罪ノ刑ニ處セラル可
 キモノタルヲ必要トセザレバナリ是レチ第一ノ理由トナス尙ホ第二
 ノ理由アリ刑法第四百六十三條ニ依レハ再犯ニ因テ刑ヲ増重シタル

第三ノ場合

後ニ非ザレバ再犯人ノ爲メコ刑ヲ輕減ス可キ情狀ノ効ヲ計算スルコト
 ナ得ズ故ニ重罪輕減スルニ因リ刑ヲ變更スルモ其變更ハ第五十六條
 適用ノ後ニ在レバ之ニ影響ヲ及スコトアラザル可キナリ然リト雖モ其
 難事タル改正家が疑團ヲ起セシモ亦理ナキニ非ズ而シテ一千八百六十
 三年五月二十日ノ回達ノ記者モ之ヲ遺脱セザルガ如シ余ハ之ヲ後ニ
 述明セシ今日ニ於テハ再犯増刑ヲ先トシ
 情狀減輕ヲ後ニスルヲ規則トス
 又重罪ヲ犯ス者アリ然ルニ其刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ因リ懲治刑
 ナル禁獄一年以上ノ刑ニ處セラル此者更ニ懲役ノ刑ニ處ス可キ重罪
 ナ犯ス時刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ於テハ第四百一條ニ準據シ處斷
 ス
 是レ蓋シ第七十七條ノ場合ニシテ第五十六條ノ場合ニ非ザル可シ
 若シ再犯増刑ヲ先ニセバ禁獄五年ナル最重刑ニ處ス可シ又之ヲ十年

迄重フスルヲ得可ク而シテ後第四百六十三條ニ從テ此禁獄ノ刑ヲ六日
 迄ニ減スルヲ得可シ
 其罪再犯タルモ必ズシモ非常ニ過度ナル刑ニ處スルヲ要セズ故ニ若
 シ情狀減輕ヲ先ニセバ懲治刑トナル可ク而シテ再犯ニ因テ此刑ヲ最重
 度迄ニ重フスルヲ得可シ
 余ハ第四百六十三條ヲ能ク解釋セバ必ズ先ツ再犯増刑ヲナシ次ニ情
 狀減輕ヲナササル可ラズト信ズルナリ
 然ルニ法案委員ノ意見書及ビ内閣答辯者ト立法院議員ノ議論トニ
 據レバ新第五十七條ハ上ノ第三場合ニ適用ス可キモノ、如ク情狀
 減輕ヲ先ニシ再犯増刑ヲ後ニス可シトセリ第五十七條ハ是ノ如ク
 第四百六十三條ニ牴觸シ又大審院ノ至良ナル判決トモ吻合セザルナ
 リ

司法卿ドラングル氏ノ回達ニ云ク第五十七條ノ文面ノ検査ニ因リ政
府ノ法案ハ重罪ノ爲メニ言渡シタル懲治刑ハ犯人ヲ法律上ノ再犯
人タラシム可キノ源由タルヲ得ルヤ否ヤノ問題ヲ近頃ノ斷例ニ循テ
決定スルニ止マリタリ

第五十七條第五十八條ニ付テ既ニ刑ヲ受タル後ニ更ニ懲治刑ノミニ
處ス可キ重罪ヲ犯ス者ハ輕罪ヲ犯スト同視シ均ク刑ヲ増重ス可シト
セシ改正ハ立法院委員ノ手ニ出シモノニテ該委員ノ意見書ニ於テハ
此條目編纂者ノ意ニ疑團ヲ挾ム所ナク言渡ス所ノ刑ニ因テ重罪モ輕
罪ニ變ル可ケレバ編纂者ガ定ムル所ノ場合ハ輕罪再犯ノ異ナルモノ
トシタルナリ是レニ由テ右編纂者ハ重罪ニ付テモ輕罪ニ付テモ主刑
ノ同一ナル増重ヲナス可ク且必ズ監視ニ付ス可ク又時宜ニ因リ第四
百六十三條ニ循ヒ刑ヲ減ズ可シトシタルヲ知ル可シ

第四百六十三條ノ利益ヲ與フルト否ルトハ裁判所ノ權内ナルヲ以テ
陪審ニ於テ法律上宥恕ス可キモノトシ或ハ刑ヲ増重ス可キ理由ナシ
トシ重罪ヲ輕罪ニ變ヘタル時ハ右ノ場合トス
然レモ陪審ニ於テ一旦有期徒刑若クハ懲役ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯
シタリト決定シ又刑ヲ輕減ス可キ情狀アリトスル時ハ前ノ法文ヨリ
實際必ズ困難ヲ生ズ可シ

此二個ノ場合ニ於テハ毎ニ再犯ノ刑ニ處ス可キ乎第五十七條及ビ第
五十八條ニ記シタル最重刑以下ニ減ズ可キ乎斯ノ如キ緊要ナル問題
ハ檢事ト裁判官トノ注意ヲ要スル所ニシ理論ヲ以テ之ヲ決定スルハ
余ノ爲ス可ラザル所ナリ蓋シ刑事ニ習熟セル大審院ニ非ザレバ確乎
之ヲ斷決スル能ハザル可シト

フホースタン、エリー氏ハ大審院斷例以前ニ之ヲ論シ議論未ダ熟セザ

ルノ問題ニ付テ一説ヲ吐露スルハ甚々不注意ノ所爲ナリト言ヒ且日
 ク若シ陪審ニ於テ刑ヲ輕減ス可キ情狀ニ因リ懲役、禁錮、追放、剝奪公
 權ノ刑ヲ換ヘテ第四百一條ニ記シタル懲治刑ニ處ス可シトスル時
 ハ重罪裁判所ハ其禁獄ノ時間ヲ法律上ノ最輕度ナル一年ニ減ス可
 シト
 フホースタン、エリー氏ノ說ハ甚ダ簡易ニ就クト謂フ可シ蓋シ其說ニ從
 ヘバ第四百一條ヲ適用スルハ一等ヲ減ズルノミノ結果ニシテ裁判所ハ
 二等ヲ減スルノ權ヲ保有スレバ禁獄ノ刑ヲ一年ナル最輕度以下ニ減
 ズルヲ得可シ而シテフホースタン、エリー氏ハ左ノ如キ第四百六十三條第
 六項ノ規則ヲ適用セント欲セリ第四百六十三條第六項ニ云ク若シ懲
 役、禁錮、追放、剝奪公權ノ刑ニ處ス可キ時ハ裁判所ハ第四百一條ニ記シ
 タル刑ニ處ス可シ但シ其禁獄ノ時間ヲ一年ヨリ減ス可ラズト又フホー

スタン、エリー氏ノ說ニ從ヘバ再犯ノ情狀ニ因リテ少ナクモ五年ノ禁
 獄ノ刑ニ處ス可シトスルモ此等ノ事ニ關ス可カラズ第四百六十三條
 ハ再犯ニ拘ラザルヲ懲治裁判官ニ許スヲ以テ重罪裁判官ニ於テ是ノ
 如クス可ラザルノ理ナシ又若シ陪審ニ於テ一等ヲ減スルノ規則ナル
 第四百一條ノ最重度ヲ適用ス可シト決シタルニ關ス可カラズ重罪
 裁判官ハ其禁獄ノ時間ヲ減少シ以テ陪審ノ處置ヲ補足スルヲ得ベシ
 此減少ハ情狀ニ因テ刑ヲ輕減ス可キ一方ノ計算ヲ再犯増重ノ前ニナ
 シタル時行フ可キモノトス而シテ其他ノ一方即チ裁判官ノ隨意ニテ輕
 減ス可キ時ノ計算ニ於テハ此減少ヲ再犯増重ヲナシタル後ニ行フ可
 シ之ヲ約說セバ懲役ノ刑ヲ禁獄ノ刑ニ換ヘ第一禁獄ノ刑ヲ少ナクモ其
 最重度ニ増加シ第二面ノ其最重刑ノ時間ヲ一年ニ減少スルハ裁判官ノ
 隨意トス第三以上フホース
 タン、エリー氏ノ說

斯ノ如ク混合スルハ甚ダ難駁困難ヲ生スト謂フ可シ

フホースタン、エリー氏又其説ヲ擴張シ犯人更ニ犯ス所ノ重罪刑ヲ輕減ス可キ情狀ニ因リテ有期徒刑ニ處ス可キモノタル場合ヲ論シ曰ク重罪裁判所ハ少ナクモ懲役ノ刑ヲ言渡ス可シ若シ二等ヲ減ズル時ハ五年ナル禁獄ノ最重刑ヲ適用ス可シト

フホースタン、エリー氏ハ毎ニ情狀減刑ヲ前ニ定メ而シテ後刑ノ増重ニ及ボセリ是レ豈第四百六十三條ヲ濫用シ第五十七條ヲ忽ニスルモノニ非ザルヲ得ンヤ

余ヲ以テスレバ其初メ重罪ノ爲メニ一年以上ノ禁獄ノ刑ヲ受ケタル者更ニ有期徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯シ減刑情狀ニ因リテ懲役又ハ第四百一條ニ記シタル禁獄ノ刑ニ處ス可キ時ハ再犯ノ爲メニ毫モ刑ヲ増加セラル、ト無ク其初メ受ル所ノ刑ハ重罪ノ刑ヲラザルヲ以テ亦

第五十六條ノ場合トナス可ラザルナリ

又其重罪タル必ズシモ懲治刑ニ處セラレ可キモノタラザレバ第三十七條

ノ明文ニ據テ之ヲ處斷ス可ラズ若シ重罪裁判所ニ於テ一等ヲ減セントスルキハ如何ニ刑ヲ増重スル乎減刑情狀ノ決定アリシ時ハ懲役ノ刑ヲ以テ有期徒刑ニ換フ可ク而シテ第五十七條ニ依テ刑ヲ増重スル如キトハ萬無カル可キナリ何故ニ二等ヲ減シ第四百一條ニ至ルヲ以テ此刑ヲ増重スルヲ得ル乎不定事件ハ刑ヲ増重セシムルモノニ非ズ茲ニ不定事件ト言テ減刑情狀ノ効ト言ハザル者ハ是レ其効タル裁判官ノ意見ニ任ズルモノナレバナリ減刑ノ利益ハ再犯増刑ノ後ニ非ザレバ計算セズ刑若シ増重ス可ラザレバ固ヨリ減刑情狀ニ因リテ増重ス可ラザルナリ

或ハ之ヲ駁シテ云ハン其説ノ如クンハ初メ一年以上ノ禁獄ノ刑ヲ受

ケタル者減刑情狀ニ因リテ重罪ノ刑ニ處セラレザル重罪ヲ犯ス時ハ其輕罪ヲ犯ス時ヨリ寛ナラン如何トナレバ其犯人ハ必ズシモ其最重刑ニ處セラレザレバナリト余之ニ答ヘテ云ハン若シ陪審ニ於テ再犯人ハ刑ヲ輕減ス可キ情狀無シト決定スル時ハ重罪ノ刑ヲ免レシメザル可キナリト

余ハ唯政府ガ法案ニ増加スル所良カラズノ裁判官ノ迷誤錯擾ヲ招カシメテ恐ル、ナリ司法卿ドラングル氏ノ回達ニ於テハ困難ノ點ヲ増加セシメナカリシガ彼ノ妄リニ改革ヲ讚稱スル輩ハ懲治刑ヲ以テ罰スル所ノ罪ノ再犯重罪ノ刑ニ處ス可キ時ハ刑ヲ増重ス可ラザルノ理由ヲ識念セズ又疑ハザルモノ、如シ

第四ノ場合

第四ノ場合ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者更ニ重罪ヲ犯ス而シテ此重罪ハ第三百二十六條ノ明文ニ從テ一年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラザ

ル禁獄ノ刑ニ處ス可キモノカ或ハ六月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラザル禁獄ノ刑ニ處ス可キモノトス斯ノ場合ニ於テ裁判所ノ先ツ爲ス可キ者ハ再犯増刑ニ在ル乎將タ宥恕減刑ニ在ル乎又其刑ヲ増重スルハ第五十六條ニ據ラン乎將タ第五十七條ニ據ラン乎余ヲ以テスレバ第五十六條ニ據ル可シトスルモモリニエー氏ハ第五十七條ニ據ル可シト言ヘリ此二方法ノ其一ニ隨フテ計算ノ順序ヲ定ム可キモノトス

若シ先ツ刑ヲ増重スルキハ其増重ニ因リ無期徒刑ヲ以テ有期徒刑ニ換ヘザル以上ハ宥恕ハ全ク其増重ヲ消滅ス可シ何レノ場合ト雖モ宥恕アルニ於テハ刑ノ増重ヲ爲サザルモ妨グ無カル可シ
例ヘバ其罪宥恕ナクシテ有期徒刑ニ處ス可キモノトセン其再犯ナルニ於テハ刑ヲ増重シテ無期徒刑ニ處ス可シ而シテ之ヲ宥恕スル時ハ一

年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラザル禁獄ノ刑ニ處ス可ク其再犯ナラザルニ於テハ二年ヨリ多カラズ六月ヨリ少カラザル禁獄ノ刑ニ處ス可キモノトス

若シ宥恕ノ結果ヲ計算スルヲ先ニセバ其一年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラザル禁獄ノ刑ニ處ス可キニ於テハ五年ノ最重刑ニ處シ其六月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラザル禁獄ノ刑ニ處ス可キニ於テハ二年ノ最重刑ニ處ス可シ而シテ第五十七條ヲ法案委員ノ意見書議者ノ説明前ニ詳カナリ司法卿ノ回達ニ於ケルガ如ク之ニ適用ス可キハ亦宥恕ノ効ヲ先ニ計算シ再犯増刑ノ効ヲ後ニスルニ由ルナリ

此場合ハ再犯宥恕減刑情狀ノ三件アル場合ニ當用シ論ズルヲ得可シ蓋シ三箇ノ計算ヲ要ス一増刑ニ減刑是レナリ若シ先ツ刑ヲ増重スルニ着手セバ毎ニ二年ヨリ少カラズ五年ヨリ多

カラザル禁獄或ハ六月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラザル禁獄ノ刑ニ處ス可キニ至ラン而シテ其禁獄ノ時間ハ六日ニ罰金ハ十六フランニ減ズルヲ得可ク又宥恕ニ因リ其刑ヲ六月以上二年以下ノ禁獄ノ刑ニ減ズル時ハ其禁獄ノ時間ヲ六日以下ニ罰金ヲ十六フラン以下ニ減ズルヲ得可シ此場合ニ於テモ亦減刑情狀ハ再犯増刑ヲ論ゼザルヲ許ス今其減刑情狀ヲ決定スルハ孰レノ權ニ在ル乎第四百六十三條ノ末項ニ依テ重罪裁判所ノ權ニ在リトセン乎又此事件ハ重罪ニ係リ宥恕ス可キ重罪ハ重罪タルガ故ニ何レノ場合ト雖モ陪審ノ職務トセン乎大審院ハ一千八百三十二年四月二十八日ノ法律ニ循ヒ其第一說ニ決シモリニエー氏之ヲ賛成スト雖モ余ハ其第二說ヲ可認シ賛成スルナリ蓋シ其第一說ヲ決行セバ陪審ハ第五十七條ニ據リテ裁判官ヲ牽制スルヲ能ハズ而シテ之ヲ減刑情狀ニ付テ全權ヲ占有セシムルニ至ラン

第五ノ場合ハ十六歳以下ノ幼者ハ故意罪ヲ犯スモ死刑、無期徒刑、流刑ニ處セズ十年以上二十年以下ノ禁獄ニ換フ而シテ其有期徒刑、禁錮ノ刑又ハ懲役ノ刑ニ處ス可キ時ハ其刑中ニ於テ之ヲ處ス可キ刑ノ期限ノ三分一以上其半以下ノ禁獄ノ刑ニ處ス又其剝奪公權或ハ追放ノ刑ニ處ス可キ時ハ之ヲ一年以上五年以下ノ禁獄ノ刑ニ處ス

十六歳以下ノ幼者ハ再犯ノ場合ニ於テ第五十六條ニ據リ處斷スルヲ得ズ然レモ若シ減刑情狀或ハ宥恕ニ因リ其重罪ヲ懲治刑ニ處ス可シト決スル時ハ其重罪ヲ輕罪ト同視シ第五十七條若クハ第五十八條ニ據リテ處斷スルヲ得ベシ

至正至理ナル説ハ第五十七條第五十八條ノ新文面ニ反シ重罪ハ宥恕及ビ減刑情狀アルニ拘ハラズ依然重罪タル可シト言ヒ幼者ハ其更ニ輕罪ヲ犯ス時ニ非ザレバ再犯人タラズトセリ

其再犯ニ因リ處ス可キ所ノ刑ハ先ヅ其丁年者タル時受ク可キノ刑ヲ再犯ニ因リ増重シ而シテ後刑法第六十七條ヲ適用ス可キ乎或ハ之ニ反

シテ先ヅ第六十七條ヲ適用シ而シテ後再犯ニ因リ其禁獄ノ最重刑ニ處シ又ハ其二倍ニ迄増重ス可乎

此ニ計算方ハ固ヨリ同一ナル結果ヲ生ズ可ラズ其更ニ犯ス所ノ罪丁年者ニ在リテ有期徒刑ニ處ス可キ時ハ丁年者ハ其再犯ニ因リ刑ヲ増重セラル、イナカル可ク其更ニ犯セシ罪ハ施體加辱ノ刑ニ處ス可キモノタルヲ以テ第五十七條ノ場合トナシ處斷ス可ラズ故ニ十六歳以下ノ者ハ刑ノ増重ナク一年八箇月ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラザル禁獄ノ刑ヲ受ケザル可ラズ

今其順序ヲ反シ計算スル時ハ十六歳以下ノ幼者ハ必ズ五年ノ禁獄ノ刑ヲ受ク可キニ至ル而シテ其禁獄ノ刑ハ之ヲ二倍ニ増重ス可キモ又十年ヨリ超過ス可ラズ二箇ノ計算ヲ終ヘシ後減刑情狀ニ付テ更ニ計算ヲ立ツル時ハ其刑ヲ六日ノ禁獄ニ迄減ズルヲ得可シ然レモ又他ノ方

法ニ據テ計算ヲ立テザル可ラザル乎裁判官ハ先其丁年者タリテ犯ス時ハ如何ナル刑ニ處ス可キ乎ヲ考査シ次ニ減刑情狀ニ因リ刑ヲ減シ而シテ後其場合ニ隨テ第六十八條或ハ第六十九條ヲ適用ス可ラザル乎其丁年者ニ在テ其罪有期徒刑ニ處ス可キモノタル時ハ其刑ヲ減シテ懲役若クハ第四百一條ニ記シタル禁獄ノ刑ニ處ス可ク又裁判官ニ於テ一等若クハ二等ヲ減ズルニ隨ヒ幼者ハ第六十七條ニ依リ其丁年者タリテ受ク可キ所ノ刑ノ期限ノ三分一ヨリ少カラズ其半ヨリ多カラザル禁獄ノ刑ヲ受ク可シ

余ハ一千八百六十二年四月二十八日ノ法律ニ付テハ此說ヲ駁セリ曰ク

丁年者が受ク可キ刑ノ輕重ヲ定メシガ爲メ丁年者ニ刑ヲ輕減ス可キ情アリト假想スルハ能ク道理ニ適ヘル乎情狀ヲ以テ輕減スル

所ノ刑ハ云々ノ場合ニ於テ丁年者ガ受ク可キ所ノモノ乎曰ク否ラズ其内部ノ元素ヨリ觀察シタル事件ニ因リ處ス可キノ刑ハ是レ當サニ丁年者ニ行フベキモノタリ又何ソ想像隱說ヲ設クルヲ要セシヤ法律ニ記シタル刑ハ如何宥恕ニ因リテ通常刑ニ換フル所ノ刑ハ如何先ツ此二個ノ問題ヲ決定シ而シテ後若シ重罪裁判所ニ於テ減刑情狀アリト決スル時ハ其施體加辱ノ刑ニ換レル懲治ノ刑ヲ第四百六十三條ノ未項ノ區域内ニ於テ輕減ス可シト

幼者懲治裁判所ノ裁判ヲ受クル時ハ此問題ハ其丁年者ナル從犯アルカ或ハ罪ノ重大ナルニ因リ陪審ノ裁判ヲ受クル時ヨリ決定シ易カル可シ其陪審ノ裁判ヲ受クル場合ニ於テ陪審刑ヲ輕減ス可キ情狀アリト決定スル時ハ重罪裁判所ハ必ズ之ニ從ハザル可カザル乎余ハ一千八百三十二年四月二十八日ノ法律ニ付テ之ヲ可トシタリ此場合ヲ刑

法第三百二十二條ニ記シタル場合ト同視セザル大審院及ヒモリニエ
 一氏モ亦是ノ如ク決セリ蓋シ陪審ハ刑事ニ付テ裁判シタレバナリ
 新第五十七條ハ此點ニ付キ少シク變更スル所アル乎余ハ之ヲ信ズル
 能ハズト雖モ第六十六條及ビ第三百二十六條ニ定メタル宥恕ニ付テ
 ハ重罪ヲ輕罪ニ換ユ可シト決定シタルヲ覺ユ蓋シ此條目タル初メ重
 罪ヲ犯シ更ニ輕罪ヲ犯シタル場合ヲ規定シ其刑ヲ輕減ス可キ情狀ア
 ルニ於テハ重罪ヲ輕罪ニ換ユ可シト決定シタルハ明カナリ

第六ノ場合

第六ノ場合ハ重罪或ハ輕罪ノ爲メニ一年以上ノ禁獄ノ刑ニ處セラレ
 タル者更ニ重罪ヲ犯スニ因リ重罪裁判所へ喚出サレ吟味ヲ受クル末
 裁判官ニ於テ其罪ハ重罪ノ性質ナク輕罪ナリト決定ス此場合ニ於テ
 ハ其初メ處シタル刑ハ重罪ノ爲メ若クハ輕罪ノ爲メタルニ隨フテ第
 五十七條若クハ第五十八條ヲ適用ス可シ其減刑情狀ニ付テハ重罪裁

判所ハ陪審ノ爲メニ牽制セラル、コナク假令其情狀アルヲ決スルモ
 之ヲ排却スルヲ得可ク之ヲ默止シ其情狀ナシトスルモ亦之ニ從フテ
 要セザルナリ其再犯ニ因リテハ懲治ノ刑ニ處ス可シト雖モ若シ裁判
 所ニ於テ減刑情狀アリト決スル時ハ其禁獄ノ時間ヲ六日ニ罰金ノ額
 ヲ十六フランニ減ズルヲ得可ク又其刑ノ最輕度ハ六日以下十六フラ
 ン以下ナルキハ之ヲ違警刑ニ減ズルヲ得可シ

一千八百六十三年五月十三日ノ法ハ重罪ノ爲メニ刑ヲ受ケタル者更
 ニ輕罪ヲ犯ス時ト輕罪ノ爲メニ刑ヲ受ケタル者更ニ輕罪ヲ犯ス時ト
 ノ場合ヲ同一ニシテ舊第五十七條ノ闕典補フト雖モ余輩ハ其法律ノ
 意中ニ於テ減刑情狀ニ因リ懲治刑ニ處ス可キ重罪ハ輕罪トナル可キ
 ナ知ルナリ夫レ然リ然ラバ則チ減刑情狀ニ因リテ第四百一條ヲ適用
 ス可キ場合ニ於テ減刑情狀ノ決定アルキハ第五十七條ノ場合ニ於テ

モ第五十八條ノ場合ニ於テモ重罪裁判所ハ犯人ヲ監視ニ附セザルヲ得ル乎蓋シ此問題ハ右二個條ニ普通ニ將サニ擴張セントスルモノナリ

政府ノ答辯者ハ之ヲ然リトセシガビカール氏ガ二三ノ疑アルニ拘ラズ殆ント一般ノ説タルガ如シ而シ其罰ス可キ重罪輕罪タルニ過ギザル以上ハ再犯ノ場合ト雖モ裁判官ハ其禁獄ノ時間ヲ六日ニ罰金ヲ十六フランニ減ズルヲ得可シ是レ即チ第四百六十三條ヲ依據トシ論ズル所ニシテ其第五十七條第五十八條ヲ統括スル所ナリ

此説タル假令立法議院ニ於テ容易ニ可認ヲ受ケタルモ亦誤謬ヲ招クノ媒介タルニ過キズ如何トナレバ若シ減刑情狀ニ因リテ唯懲治刑ニ處ス可キ重罪ニ第五十七條第五十八條ヲ適用セバ其刑ヲ二倍ニセザルモ必ズ少クモ其最重刑ニ處セザル可カラズ重罪ニシテ一旦輕罪ニ變ズ

ルキハ裁判官ニ於テ犯人ヲ懲治ノ最重刑ニ處セザルヲ得ズ故ニ之ヲ監視ヲ免レシム可カラズ又禁獄ノ時間罰金ノ類ヲ多分ニ減ズルヲ得可カラズ

蓋シ立法院ノ意ハ其爲ル所ニ反ス可シト雖モ其第五十七條第五十八條ヲ増加シ減刑情狀ニ因リ第四百一條ヲ以テ處斷ス可キ重罪ニハ其規則ヲ適用ス可カラズトシタルハ明カナリ而シテ其増加規則ニ於テハ必ズ其最重刑ヲ以テ犯人ヲ處ス可キヲ命ゼリ到底第五十七條第五十八條ハ輕罪トナリシ重罪ノ再犯ト其刑ヲ輕減ス可キ情狀トノ場合ノミヲ規定スルモノナレハ今此場合ニ於テハ減刑情狀ノ外尙ホ宥恕ス可キモノアル時カ或ハ減刑ノ情狀ニ因リテ重罪ヲ輕罪ニ換ユル時ニ非ザレバ此條目ト混合シ之ヲ變更ス可ラザル第四百六十三條ニ據ルヲ得ザル可キナリ

再犯論

以上列載スル所檢査ヲ主旨トシタル法令ヨリ出デシ九問題ノ中政府ノ草案ハ唯其第五題ヲ決定シ初メ重罪ヲ犯シ更ニ輕罪ヲ犯ス者ト輕罪ヲ犯シ又輕罪ヲ犯ス者トチ同等ニ置キ其二箇ノ場合ニ於テハ初メ受ケタル刑ハ少クモ一年以上ノ禁獄タルヲ要セリ而シテ其更ニ犯ス所ノ罪ハ輕罪タラザルヲ得可シトセザルモ其宥恕ス可キ重罪ハ重罪ノ性質ヲ失フトナサズ又情狀減刑ニ因リ懲治ノ刑ニ處ス可キ重罪ハ重罪ノ性質ヲ失フトモナサズ是ニ由テ之ヲ觀レバ夫ノ草案ハ至緊至要ノ問題ヲ決定セザリシナリ其至緊至要ノ問題トハ再犯増刑ト情狀減刑トニ就テ其孰レカ先ニ計算ヲ立ツ可キヤ又情狀減刑若クハ宥恕ニ因リテ如何カ刑ヲ變ス可キ是レナリ

立法院委員ハ其改正條款ノ缺ヲ補ハント欲シ懲治刑ニ處ス可キ重罪ハ第五十七、第五十八條ノ第二ノ要件タル可キヤ否ヲ考査シタリト雖

其法案ノ款ヲ十分ニ補ハシニハ其考査ヲ擴張シ改正ヲ再犯事件ノ總體ニ及ボサザルヲ得ザルヲ信ゼザリキ余ハ之ヲ誤謬ト謂ハザルヲ得ズ蓋シ初メ重罪ヲ犯シ更ニ輕罪ヲ犯ス者ニ付テ其刑ヲ計算スルニ第五十六條即チ重罪ヲ犯シ又更ニ重罪ヲ犯ス者ノ處分ノ法ヲ改正シ第四百六十三條及ビ増刑減刑ニ係レル大審院ガ斷例ヲ變更スルニ非ザルヨリハ立法院ガ制定シタル如ク之ヲ輕罪ヲ犯シ又更ニ輕罪ヲ犯ス者ト同一視スルヲ得ザル可キナリ

唯余ノ心中穩ナラザル者ハドラング氏ノ回達ニシテ其回達ニ依レバ宥恕ス可キ重罪ハ輕罪ト同視セサルモ減刑情狀ニ因リテ懲治刑ニ處ス可キ重罪ハ輕罪ト同視セザル證アル如キ者是ナリ

余ガ此書ヲ世ニ公ニシ以テ來テランシニ
ヲルトランベサウリ
ンジユスグー等博識ナル諸法學士ハ種々ノ問題ヲ出シテ講究辯明シ其說紛紜余ハ今之ヲ辨駁スルヲ要セズト思考スルナリ唯余ガ根本トスル所ノ主義即チ

再犯増刑ハ第四百六十三條ノ減刑ニ先ゼザル可カラザルノ理ハ今日ニ於テ既
タ議論ヲ招カザルモノ、如ク本文章ノ所ノ解説ハ即チ此主義ニ秘密ニ關係
アルモノナリ此解説タル大ニ攻撃ヲ受タリト雖モ之ニ易フ可キ至妙
ノ論アルヲ見ズ其駁スル所一モ余ヲ説ク變セシムルニ足ル者ナシ

第二十二章 共犯并ニ從犯ヲ論ズ

前章ニ於テハ刑ス可キ事件或ハ試犯ノ本人ハ法律ト刑罰トニ付テ如
何ナル可キヲ論シ其認歸ヲ除却シ變更スル原因ノ如何ヲ述ベタリ然
レモ法律ヲ犯スニハ數人連合スルヲ得可ク而シテ其直接ニ犯罪ニ關與ス
ル者ハ之ヲ共犯者ト謂フ夫ノ刑ス可キ事件ヲナセシ本人ニ就テ論ス
ル所亦此共犯ニ適用ス可シ
然レモ法律ハ其犯罪ニ直接ニ關與スル者ノミヲ對ス可カラズ其罪ス
ベキ目的ニ連合シ間接ニ之ヲ與カル者ト雖モ其之ニ佑助シ保護シ容
易ナラシメタル罪スベキ結果ニシテ既ニ生シタルカ或ハ生ズヘキニ
於テハ亦之ヲ罰セザル可カラズ

連合犯罪
直接關與
間接關與

從犯

其間接犯罪ニ與カリタル者ハ之ヲ從犯ト謂フ此語ノ義意ヲ擴メバ共
犯○人○モ連合者タレバ亦從犯○人○ナル可シト雖モ其法律上ノ義意ニ在リ
テハ共犯○人○ト見ルベキ迄直接ニ犯罪ニ關與セザル者ヲ從犯○人○トス從
犯○人○ハ全ク犯罪ニ與カラザルニ非ズト雖モ自カラ之ヲナシタルニ非
ズ唯其本犯ヲ保護シ贊助シ或ハ之ヲ隱匿シタルモノ等ヲ謂フナリ
主○犯○人○ト罪犯トヲ連結スル關係ハ原因ヨリ効果ニ至ルノ繩索ニシメ
共○犯○人○ノ其繩索ニ於ケル多少強弱ノ別アリト雖モ亦全一ナル繩索ノ
連結スル所タリ而シテ從犯○人○ヲ罪犯ニ連結スル者ハ間接ノ繩索ニシテ
原因ヨリ効果ニ至ルノ繩索ニ非ザルナリ抑○從犯○人○ノ所爲タル附屬ノ
事件ニシテ罪犯ヲ構成スルノ事件ニ非ラズ全ク罪犯外ニ係ルモノニ
テ此一事ヲ以テスレバ決テ罰ス可キモノニ非ズト雖モ唯其助成シタ
ル結果ニ依リテノミ之ヲ從犯トナシ刑罰ニ處ス可キモノトス

共犯ト從犯
トノ差別

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

是レ其定則ニシテ釋解或ハ變更スベシト雖モ其蘊奧ニ至テハ諷ント
皆異議ナキ所ナリ蓋シ之ヲ實際ニ適施スルキニ非ザレバ其所見ヲ異
ニスル者ナシ

罪犯ヲ命ゼ
シ者ハ主犯
者ナル乎

ロシイ氏ノ
説

今其罪犯ヲ激勵シ命令シ依托シ之ヲ施行セシメ金錢ヲ擲テ施行人ニ
餌シ以テ自家謀計スル所ノ事業ヲ遂ケシムル者ハ之ヲ主犯トセシ乎
其器具タリシ罪人ノ共犯人トセン乎將タ其罪人ノ從犯人トセン乎
或人ハ云ク内部ノ犯人外部ノ犯人謀計スル者ハ内部ノ犯人ハ均ク共
ヲ施行スル者ハ外部ノ犯人
犯人タレハ固ヨリ之ヲ同等ニ置カザル可カラズ内部犯罪ニ與カル所
直接ニシテ罪ヲ激發スル真正ノ原因タルキハ之ヲ附從關與ト看做テ
得ズ夫レ罪スベキ所爲ヲ決心スルモノハ其行爲施行者ト全ク罪アリ
又或ハ之ヨリ甚ダシキ者アリ其決心行爲ハ犯罪ノ二元素ナレハ凡ソ
原因ヨリ効果ニ至ルノ繩索ヲ以テ此二箇元素ノ其一ニ連結スヘキ者

駁論

ハ其誰レタルヲ論ゼス皆主犯ニシテ從犯ニ非ザルナリ
此説タル有名ナル著述家ロシイ氏カ立法者ニ呈セシ所ナリ
政事上支障スル所アルヲ論者ニ於テモ自カラ隠サバ此説ハ能ク法
律上ニ適ヘル乎
内部犯人ノ内決罪犯ハ外部犯人ノ内決罪犯ト其輕重ヲ全クシ又或ハ
之ヨリ重キ者アルハ勿論ナリト雖モ抑内決罪犯タル其惡心ノ一定凝
結シ頑然動カスベカラザル如キニ至ルモ發シテ事實トナリ外發罪犯
人トナルニ非ザルヨリハ大概テ刑罰ヲ以テ制抑スルモノトナサバ
ナリ
然ラバ則チ何ヲ以テ之ヲ罰スル乎蓋シ其激動者ニ於テ一元素アリ此
一元素ヲ以テスレバ刑スベキノ理ナク唯恐懼ヲ起スニ過キザルベシ
ト雖モ其他ノ一元素ニ混合シ社會ノ危害ヲ生シ或ハ其危害ヲ生ズベ

共犯并ニ從犯ヲ論ズ

キ性質アレバ則チ刑法ニ於テ此元素ヲ罰スルナリ
 故ニ教唆者、命令者、依托者ハ事ヲ以テスレバ刑スヘキ犯罪ヲザル事
 件ナリト雖モ唯他人ノ所爲ニ因リテ刑ニ處セザル可カラザルモノト
 ス
 或ハ之ヲ駁シテ曰ク罪犯決心ハ其罪犯二箇元素ノ其一タレバ命令者
 ト施行者トハ各其罪犯ノ半ハチ爲スノミト
 若シ果シテ斯ノ如クンバ是レ施行者ハ無心ノ器具タラザルヲ得ズ事
 實ノ元素ニ非ザレハ罪ヲ犯サズシテ其意思ハ全ク犯罪ノ外タラザル
 ヲ得ズ然リ而シテ斯クノ如キ場合ハ眞ノ外力ヲ以テ施行者ヲ牽制シ其
 腕ヲ取リテ強ヒテ罪ヲ犯サシムルキニ非ザレバ見ル可カラズ而シテ
 此場合ニ於テハ依托者却テ被托者トナルベク其手ヲ取テ強ヒテ罪ヲ
 犯サシメ源因ノ繩索ヲ以テ罪犯ニ連結ス可ケレバ乃チ其主犯タラズ

然ルニ實際教唆人タルモノハ概シテ深ク自カラ隱匿シ遠ク犯罪ヲ避ケ
 其施行ニ付テハ毫モ關與セザルモノ、如ク只管他人ニ任セテ其罪ヲ遂
 ケシム而シテ其之ヲ施行スル者ハ只無心ノ器具タルニ非ズ其承受セシ
 意思ハ或ハ茫邈能ク理非正邪ヲ辨セザルモ固ヨリ責任ヲ受シ可キモ
 ノニテ假令幼童蠢愚ヨリ出ルト雖モ亦當サニ然ラザルヲ得ザルヘキナリ
 蓋シ例外トシテハ施行者或ハ刑ヲ免ル、アリト雖モ之ニ由テ教唆人
 ハ其行爲ノ爲メニ刑罰ニ罹ルト決定ス可カラズ其刑罰ニ罹ル所以ノ
 モノハ其他人カ犯罪ニ附從ナル行爲ニ付キ心中ノ關係アリ其無形ノ
 源因タリシ事件アルニ付キ他人カ行爲ノ爲メニテ其事ニ付テハ此者
 法律上ノ源因タラズ心中罪犯ノ關係アリテ他人カ行爲ノ爲メニ刑ヲ
 受クルモノハ是レ共犯者タラザルナリ
 以テ又ハ書翰ヲ以テ人ニ依頼シ頭クハ我仇某ヲ殺セ謝スルニ若千金ヲ以テ
 セン君若シ其事成ルヲ報ズルアラバ必ズ直ニ之ヲ與ヘント云ヒ而シテ其謀成ラテ

其罪ヲ犯ササル者其實詐偽ニシテ眞心之ヲ悔ヒザルモ亦刑罰ニ免ル
ヲ得ベシ然レモ其施行ニ關セル凡テノ事件ニ付テモ亦是ノ如クナラ
ザル可カラザル乎

附從ハ犯罪
施行ノ際生
ズベキ諸般
ノ事件ニ付
キ資テ受ク
可キ乎

曰ク然リ是レ固ヨリ疑ヒテ容レザル所ニシテ其盜ヲ命シタル者ハ殺
死ノ責ヲ受ク可カラズ其誘拐ノミテ命シタル者ハ強姦ノ罪ヲ受クベ
カラズ然リ而シテ其達ス可キ目的ヲ遂ケンガ爲メ用フル所ノ方法例ヘ
ハ盜ヲ爲サンガ爲メ攀援破壊ノ罪ヲ犯シタルガ如キハ之ガ責ヲ受ク
可キ乎

曰ク然リ其方法タル其目的ニ連結關係スルカ故ニ豫メ之ヲ知ルベケ
レバナリ蓋シ法律ニ於テ其犯人ハ施行者ニ依托書ノ如キモノヲ附與
シタリト推測スルガ故ニ施行者ガ用ヒシ方法全ク己レガ意ニ非ザル
ノ證ナキ以上ハ増刑情狀ノ責ヲ免カル可カラザルモノトス若シ此證

ナキニ於テハ社會ノ利益ヨリシテ之ヲ罰スルヲ要ス亦毫モ正義ニ悖
ラザルナリ顧フニ其施行ニ關與セザル者施行者ガ遭遇スベキ百般ノ
情狀ニ付テ其益アル者ハ之ヲ收メ其損アルモノハ之ヲ受ケズトシバ
其地位タルヤ酷々良ク權衡ヲ失スルハ明ナリ而シテ若シ社會ニ於テ隱
匿犯人ガ意思罪ノ施行ノ方法ニ連結關係アルヲ證セザルヘカラズト
セバ是レ隱匿犯人ハ大概危害ノ最モ甚シキモノナルニ却テ之ヲ獎勵
誘導スル者ナリト謂フベシ

然リト雖モ其盜ヲ犯ス可キ者ニシテ盜ニ因リテ人ヲ殺スルモ社會ニ於
テ其盜罪ニ附從ノ關係アリトスル者モ亦殺死ノ罪ヲ受ク可シトハナ
ス可カラズ是レ蓋シ目的タル罪犯ノ増刑情狀ニ非ズシテ其罪ヨリ重
キ罪惡ニシテ縱令ヒ其罪惡ハ目的ヲ遂クルノ一方法タルニ過ギスト
雖モ其方法タル從犯人ノ全ク與ラザル所ノ者ナリト推測スルヲ適當

共犯並ニ從犯ヲ論ス

犯罪遂成ノ
前附從者ニ
於テ既ニ之
ヲ止メタル
ハ刑ヲ免
ル可キ乎

トシ從犯人ニ於テ之ヲ豫知ス可キト否トヲ問フ可カラザルナリ盜ヲ
犯スニ當リ初メヨリシテ人ヲ殺サヅルヲ得ザルガ如キニアラザルヨ
リハ從犯人ニ於テ之カ責ヲ受ルヲ要セザル可シニ載スル所ノ刑法第八十條
ガ説ヨリ嚴ニシテ區別ヲササハル者ノ如シ曰ク從犯ノ訴ヲ受ケタル者主犯ノ
ナシタル罪ヨリ輕キ者ヲ助成スルノ所存ナリト申立ツルモ其輕キ罪ニ限リ
テ主犯ト同意シタルヲ證スルニアラザレバ之ヲ取上ク可カラズ此
場合ニ限リ其助成スルノ意アリト供スル罪ニ從フテ處刑スベシ
上文ニ從犯人ハ施行犯人カ悔悟ノ益ヲ受ケザル可カラズト云ヘリ今
其從犯人犯罪ヲ止ムルニ決シ之カ實行ヲ防遏センカ爲メ着手セント
欲セシニ當リ主犯人其罪ヲ犯スルハ如何ニ之ヲ決定セン乎
或ル人之ガ別ヲ立テ、曰ク若シ從犯人其犯罪ヲ止ムル者ヲ施行犯人
ニ知告シタルハ豫メ前約ヲ取消シタルモノナレバ主犯人ニ於テ罪
ヲ犯スルハ其從犯人ハ復タ附從タラザルガ故ニ罪犯ノ責ヲ免レシム
ヘシ然ルニ若シ施行者從犯人ガ意ヲ變ヘタルヲ知ラズシテ罪ヲ犯シ

タルキハ是レ從犯人初メ施行者ヲシテ其罪惡ニ全意セシメタル如ク
其悔悟ニ全意セシムル能ハザルニ因リ早ク悔悟シタルニ非ザレハ刑
ヲ受クルモ亦已ム可カラザルナリト

余ヲ以テスレハ此説甚ダ過酷ナルヲ覺ユ或ハ云ク從犯人果シテ罪犯
ヲ止ムルノ意アリシナラバ之ヲ行フヲ防カント欲シタリ其確固タル
意アリ之ガ爲メ既ニ被害人ニ知告シタリ警察官ニ訴ヘタリト自カラ
證ヲ立テザル可カラズ而シテ今施行者罪ヲ犯ス何ソ從犯人罪ナシトセ
ンヤト其或ハ然ラン其確證ヲ獲ルハ此場合ト雖モ甚ダ難カラザルヲ
得ズ夫レ内ニ隱伏スルノ意思ニシテ唯證憑ヲ遺スノ缺ク所アリシモ
ノハ或ハ以テ罪ヲ脱ル、ノ口實トスルモ亦測ル可カラザレバ其疑フ
ヘキハ固ヨリ當然ナリ然ルニ若シ從犯人實ニ其犯罪ヲ止メント欲シ
疾ク施行者ニ告知スルノ意アリシモ支障スル所アリ之ニ會遇スルヲ

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

得可カラザルノ事情アリテ其事ヲ果サズ而シテ施行者遂ニ罪ヲ犯ス此ノ如キ時ハ其眞ニ悔悟復善タル明白ニシテ其結果アルヲ妨ケザルベケレハ社會ニ於テ之ヲ罰スルヲ得ザルベキナリ

茲ニ緊要ナル駁論ヲナスモノアリ亦能ク其義ヲ釋スト謂フベシ其言ニ曰ク人アリ毒ヲ器皿ニ盛り其仇ニ供ス退ヒテ省思シ深ク其罪ヲ悔ヒ疾ク走リテ仇人ノ所ニ到ル而シテ仇人既ニ器皿ヲ傾ケ毒氣腸臟ニ入り方サニ大ヒニ苦ミ復タ挽救ノ方ナシ其將サニ死セントスルモノハ或ハ之ヲ寛容スルモ正義ニ於テハ決テ容赦スベカラズ前ノ場合モ亦何ゾ之ト異ナラザルヲ得ンヤト

此說ノ想像スル所犯人カ悔悟其目的ヲ遂クルノ後ニアルヤ否ヤ之ヲ明言セザルナリ若シ其目的ヲ遂クルノ後ノ悔悟トセバ其悔悟ハ無益無効ニ屬シ認歸上毫モ關スル所ナケレバ此說タル今喋々ノ辯論スル

ヲ要セザルベシ格言ニ云ク「一旦ナシタル事ヲ未ダナサバ爾事トスルヲ得ズ」ト又若シ其悔悟ハ目的ヲ遂クルノ前ニアリト雖モ其實効ヲ奏スベキ十分ナル方法ナカリシノミト言ハバ是レ至難ノ問題ヲ決セシカ爲メニ疑難ナキ能ハザル問題ニ付テ辯明スル者ナリ之ヲ謬戻ト謂ハザルヲ得ズ

又毒ヲ盛リテ仇ニ供スル所爲ハ其情狀ノ如何ニ拘ハラズ毎ニ毒殺ノ試犯若クハ重罪トス可キモノ乎是レ即チ事實考定ノ問題ニシテ千態萬狀ノ異別アルモノナリ就中毒物ヲ措置スルヨリ之ヲ使用スルニ至ルノ時間又犯人正ニ其計策ヲ施スベキ其既ニ緒ニ就キシ事ヲ停止スヘキ場合又靜思中善心ヲ抑制シタルニ因リ全ク其危害ノ事件ヲ廢シ得ヘキ場合等ハ皆其事實ノ問題ニ係ルモノナリ

毒物調理ノ如キ以テ毒殺ノ罪トスルヲ得ザルモ或ハ以テ之カ豫爲

事若シハ試犯トナスコトヲ得サル乎此問題ニ付テハ第十章ニ於テ既ニ之ヲ釋明シ二三ノ刑法士ガ説ク所或ハ寛ニ過キ或ハ嚴ニ失シ過不及ノ弊ナキニ非ザルヲ以テ之ガ折衷説ヲ立テタリ唯其目的既ニ遂ケタルキハ犯人カ絶念ノ効如何ヲ詳究スルノ一アルノミ是ヲ以テ余ハ輕卒ニ前説ヲ排斥シ一抹之ヲ非ナリト言フニアラズト雖モ只其説タル一刀兩斷一方ニ拘着スト云ハンノミ

且ヤ此駁論タル大ヒニ異ナルヘキノ場合ヲ全視セリ蓋シ余ヲ以テスレバ從犯人ハ附屬犯者ニシテ施行人ハ主犯者タリ而シテ其施行犯人ノ意思ハ從犯人既ニ惡心ヲ絶テタル後尙ホ存スヘキモノトス故ニ若シ從犯人ヲ以テ其罪犯ヲ斷止シタリト推測ス可カラズトセハ其罪犯斷止ノ確證アリ或ハ既ニ之ヲ知告シ或ハ之ヲ防遏シタルヘキノ情明瞭ナルモ從犯人ニ對シテ尙ホ罪犯ノ心アリト推測シ其既ニ取消シタル

既ニ罪ヲ犯セシ後悔悟用ニ屬ス

既ニ犯セシ後助成所

所爲ノ責ヲ受ケシムベカラザルナリ

教唆人ヲ目シテ主犯者トナシ罪犯ハ概テ其意ニ出テタル可ケレバ之ガ責ヲ受クベシトスル刑法家ハ反對ノ説ヲナサザルヲ得ザルベキナリ蓋シ起發ノ點異ナレハ解釋モ亦異ナラザルヲ得ザレハナリ

何レノ場合ト雖モ從犯人其罪犯ヲ斷止シ之ガ實効ヲ立テント盡力スルハ其罪犯成ルノ前ニアルヲ要ス若シ罪惡ノ意思ニシテ事實ト共ニ存スルキハ其犯罪ニ關與スル所間接タリト雖モ其結末迄繼續シタルヲ以テ刑ヲ免ルヲ得ズ

犯罪遂成以後ノ行爲之ヲ保護シ扶助シタルガ如キ從犯ノ所爲ト看做スベキ乎

否、特殊ノ犯罪ト看做スヘキノミ是レ遂ケタル所爲ヲ遂クルニ關與セザリシナリ但此所爲犯罪ノ前ニ約スル所タレバ其施行ニ於テ大ヒニ

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

刑ニ付テ從
犯ヲ主犯ト
同視スルヲ

從犯ノ歴史

勢力ヲ與ヘ犯罪以前ニ結ビタル繩索ノ結果ナルガ故ニ特殊ノ犯罪ト
スルヲ得ズ又其場合ト事情トニ因リテハ法律ニ於テ其扶助ノ所爲ハ
豫メ明カニ或ハ暗ニ約諾シタリト推測ス可キアリ
從犯人主犯人ハ共ニ全等ノ刑ニ處ス可キ乎
從犯人ハ主犯人ヨリ輕キ刑ヲ受ケザル可カラザルモノトス蓋シ内決
犯罪ハ從犯人ニ在リテ却テ主犯人ヨリ大ナル者アルヘシト雖モ社會
ニ於テハ最モ其外發犯罪ニ就テ刑ヲ行ハザル可カラズ故ニ外發犯罪
ノ輕重ニ因リテ主犯人從犯人ヲ刑ニ處ス可シ
羅馬ノ法ニ於テハ從犯ヲ分テ三種トセリ曰ク現實從犯曰ク推測從犯
曰ク特殊從犯特殊從犯ハ盜ハ如キ特別犯罪ノ後ノ行爲ニ係リ其贓物
ヲ穩藏シタル如キモノヲ謂フ
現實從犯トハ數箇ノ要件ヲ具ヘタル教唆ニ係リ若クハ犯罪ノ前又ハ

其際之ヲ扶助スルニ係ル者ヲ謂フ

凡ソ教唆ハ盡ク從犯ノ所爲トナサバリキ故ニ擅權、贓物、約束、脅迫ヲ以
テナサバノ教唆ハ之ヲ刑ニ處スルヲナク又僅カニ唆嚇シタル如キ
ハ從犯ノ所爲トナサバリシ羅馬法ニ云ヘルヲアリ蓋シ能ク其義ヲ釋
明シタルガ如シ今茲ニ之ヲ舉ン曰ク奴隸ニ逃亡ヲ教唆スル者ハ盜取
ニ非ズ如何トナレバ人ニ惡事ヲ教唆シタル者ハ盜取ニ係ラサレハナ
リ其奴隸ニ嶮岸ヨリ投シ或ハ自殺ヲ勸ムルモノハ亦盜取ニ非ザルナ
リト然レモ此法ハ問題ヲ確定スベキモノニアラズ如何トナレハ此事
タル勸誘ハ從犯ノ所爲タラストシテ説明スベキノミナラズ盜罪ヲ犯
サズトシテ論ズベキモノタレバナリ
若シ奴隸逃亡シ主人ノ物品ヲ盜ムキハ盜取人ニシテ贓物ヲ兼テタル
モノナリ然ルニ又羅馬ノ法ニ云ク然レモ若シ之ニ逃亡ヲ教唆シ他人

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

ナシテ之ヲ盜取セシメント欲セシナレバ其者ノ盜罪ヲ犯シタル如ク
 之ヲ盜人ト看做スヘシト
 何故ニ此場合ニ於テ教唆ヲ以テ從犯ノ所爲トナス乎是レ其教諭ハ盜
 ナナスニアラズ盜ノ爲ニハ助成タレバナリ又盜賊ノ道路ニ待ツヲ
 知リ人ニ諭シテ其道ヲ往カシムルカ如キ此教諭ハ從犯ノ所爲タルベ
 シ如何トナレハ其犠牲ノ爲メニハ陷穽タレバナリ羅馬法律書ニ云ク
 盜ヲナスニ付キ毫モ助成セザル者唯教諭シテ盜ヲナサシムルキハ固
 ヨリ盜トナス可カラズト
 又重罪ヲ犯ス前ノ助成ニ付キ例ヲ舉タルモノアリ曰ク故意ヲ以テ門
 戶ヲ破壊ス可キ鐵具ヲ附與スル者ハ云々盜トシテ
 又重罪ヲ犯ス際ノ助成ニ付キ例ヲ載セタリ曰ク若シ一人犠牲ヲ持シ
 他ノ一人之ヲ殺スル者其之ヲ持シタル者トシテ

今無形從犯即チ推測從犯ヲ論セン羅馬法ニ載スル所ヲ觀ルニ云ク罪
 人及ビ之ヲ隱匿シテ其附從タルモノハ全一ナル刑ニ處スヘシト
 重罪ヲ逐ゲタル以來ノ事ニ係レル特別從犯ノ制アリ曰ク隱匿人ナキ
 キハ盜其身ヲ匿スニ由ナカルヘキヲ以テ隱匿ノ罪ハ最モ姦惡トナス
 故ニ其刑盜ト同一ナルヘシト
 羅馬法ニ於テ罪ヲ犯シタル後ノ助成ノ從犯ヲ罰スベシトシ彼ノ贓物
 ノ隱匿ノ罪ヲ以テ繼續盜ノ類トセリ曰ク盜ヲナシ又盜ヲ隱匿スルト
 贓物隱藏トハ相異ナルノ罪ニハアラズト
 以上載スル所全一ノ刑ヲ以テ從犯及ビ主犯ヲ處シタルヲ見ルベシ
 主犯者ノ身分犯罪ノ性質ニ關セシキハ從犯者ノ刑ヲ增長セシ乎
 曰ク然リマルシアソノ言ニ弑父母ノ罪ヲ犯ス者及ビ其從犯者ハ唯同
 一ナル刑ヲ受ケザルベカラザルノミナラス云々

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

刑ニ付テ從
犯ヲ主犯ト
同視スルコト

從犯ノ歴史

勢力ヲ與ヘ犯罪以前ニ結ビタル繩索ノ結果ナルガ故ニ特殊ノ犯罪ト
スルヲ得ズ又其場合ト事情トニ因リテハ法律ニ於テ其扶助ノ所爲ハ
豫メ明カニ或ハ暗ニ約諾シタリト推測ス可キコアリ

從犯人主犯人ハ共ニ全等ノ刑ニ處ス可キ乎

從犯人ハ主犯人ヨリ輕キ刑ヲ受ケザル可カラザルモノトス蓋シ内決
犯罪ハ從犯人ニ在リテ却テ主犯人ヨリ大ナル者アルヘシト雖モ社會
ニ於テハ最モ其外發犯罪ニ就テ刑ヲ行ハザル可カラズ故ニ外發犯罪
ノ輕重ニ因リテ主犯人從犯人ヲ刑ニ處ス可シ

羅馬ノ法ニ於テハ從犯ヲ分テ三種トセリ曰ク現實從犯曰ク推測從犯
曰ク特殊從犯特殊從犯ハ盜ハ如キ特別犯罪ノ後ノ行爲ニ係リ其贓物
ヲ穩藏シタル如キモノヲ謂フ

現實從犯トハ數箇ノ要件ヲ具ヘタル教唆ニ係リ若クハ犯罪ノ前又ハ

其際之ヲ扶助スルニ係ル者ヲ謂フ

凡ソ教唆ハ盡ク從犯ノ所爲トナサバリキ故ニ擅權贓物約束脅迫ヲ以
テナサバルノ教唆ハ之ヲ刑ニ處スルコトナク又僅カニ唆嚇シタル如キ
ハ從犯ノ所爲トナサバリシ羅馬法ニ云ヘルコトアリ蓋シ能ク其義ヲ釋
明シタルガ如シ今茲ニ之ヲ擧ン曰ク奴隸ニ逃亡ヲ教唆スル者ハ盜取
ニ非ズ如何トナレバ人ニ惡事ヲ教唆シタル者ハ盜取ニ係ラサレハナ
リ其奴隸ニ嶮岸ヨリ投シ或ハ自殺ヲ勸ムルモノハ亦盜取ニ非ザルナ
リト然レモ此法ハ問題ヲ確定スベキモノニアラズ如何トナレハ此事
タル勸誘ハ從犯ノ所爲タラストシテ説明スベキノミナラズ盜罪ヲ犯
サズトシテ論ズベキモノタレバナリ

若シ奴隸逃亡シ主人ノ物品ヲ盜ムルハ盜取人ニシテ贓物ヲ兼テタル
モノナリ然ルニ又羅馬ノ法ニ云ク然レモ若シ之ニ逃亡ヲ教唆シ他人

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

ヲシテ之ヲ盜取セシメント欲セシナレバ其者ノ盜罪ヲ犯シタル如ク
 之ヲ盜人ト看做スヘシト
 何故ニ此場合ニ於テ教唆ヲ以テ從犯ノ所爲トナス乎是レ其教諭ハ盜
 ナナスニアラズ盜ノ爲ニハ助成タレバナリ又盜賊ノ道路ニ待ツヲ
 知リ人ニ諭シテ其道ヲ往カシムルカ如キ此教諭ハ從犯ノ所爲タルベ
 シ如何トナレハ其犠牲ノ爲メニハ陷穽タレバナリ羅馬法律書ニ云ク
 盜ヲナスニ付キ毫モ助成セザル者唯教諭シテ盜ヲサシムルキハ固
 ヨリ盜トナス可カラズト
 又重罪ヲ犯ス前ノ助成ニ付キ例ヲ舉タルモノアリ曰ク故意ヲ以テ門
 戶ヲ破壊ス可キ鐵具ヲ附與スル者ハ云々盜トナ
 又重罪ヲ犯ス際ノ助成ニ付キ例ヲ載セタリ曰ク若シ一人犠牲ヲ持シ
 他ノ一人之ヲ殺スキハ云々其之ヲ持シタル者ハ從犯タリ

今無形從犯即チ推測從犯ヲ論セン羅馬法ニ載スル所ヲ觀ルニ云ク罪
 人及ビ之ヲ隱匿シテ其附從タルモノハ全一ナル刑ニ處スヘシト
 重罪ヲ逐ゲタル以來ノ事ニ係レル特別從犯ノ制アリ曰ク隱匿人ナキ
 キハ盜其身ヲ匿スニ由ナルヘキヲ以テ隱匿ノ罪ハ最モ姦惡トナス
 故ニ其刑盜ト同一ナルヘシト
 羅馬法ニ於テ罪ヲ犯シタル後ノ助成ノ從犯ヲ罰スベシトシ彼ノ贓物
 ノ隱匿ノ罪ヲ以テ繼續盜ノ類トセリ曰ク盜ヲナシ又盜ヲ隱匿スルト
 贓物隱藏トハ相異ナルノ罪ニハアラズト
 以上載スル所全一ノ刑ヲ以テ從犯及ビ主犯ヲ處シタルヲ見ルベシ
 主犯者ノ身分犯罪ノ性質ニ關セシキハ從犯者ノ刑ヲ增長セシ乎
 曰ク然リマルシアノ言ニ弑父母ノ罪ヲ犯ス者及ビ其從犯者ハ唯同
 一ナル刑ヲ受ケザルベカラザルノミナラス云々

又主犯者ノ身分犯罪ノ性質ヲ滅殺シ變換セサルキハ從犯者其利益ヲ受ケタル乎

曰ク然ラズ律令ニ曰ク子、奴隸、結婚婦ノ從犯タル者直接盜ノ所爲ニ關與セスト雖凡全刑ニ處スベシト

蠻野法蠻族ノ法ニ於テモ亦從犯ノ規則ヲ定メ其施行ニ與カルモノヲ

事實從犯トナシ身ヲ匿シ教唆シ謝金ヲ與フルモノヲ心思從犯トセリ其謝金ヲ附與シテ重罪ヲ犯サシムルモノハ特ニ之ヲ罰シ依托人ハ常

ニ被托人ヨリ重キ刑ヲ受ケ時トシテハ依托人ノミ刑ニ處シタルニア

リ而シテ其刑ハ罰金ニテアリキ故ニ通常盜ニ付テハ施行者刑ヲ受ケズ唯依托者ノ「六十三ス」古ノ貨幣ノ各凡ソ吾ガ二錢ノ罰金ニ處セラレタリ其盜ヲ

ナスニ付テノミ依托ヲ受クル者人ヲ殺傷スルキハ此者ノミ其依托ノ限域ヲ越ヘタル罪ヲ受ケタリ

其施行者ト謀計者トノ間ニ紹介ヲナシタル者モ亦從犯トシテ之ヲ罰セリ又此法ニ於テハ殺死從犯ニ付テ奇怪ナル區別ヲ立テタリト雖モ余輩ノ爲ノニハ法律上ノ益ナキヲ以テ今之ヲ畧ス

吾佛國古法ハ羅馬法ノ義ニ據ルト雖モ教唆ヲ以テ從犯ノ所爲トナシ大率子從犯ヲ主犯ト全一ナル刑ニ處シタリ

然レモ此定則ニハ例アリテ主犯ニ付テハ數多ノ別ヲ設ケタリ今只其二箇ノ場合ヲ舉ゲ(第一)重罪ヲ犯スヲ依托シタル場合(第二)其所爲ニ與ラザルモ之ヲ認許シ確固ニシタル場合はナリ

第一 若シ被托者其限域ニ越ヘタル所業ヲナスキハ其所業ノ依托ヲ受ケタル所爲ヨリ自然生シ或ハ生出スベキモノニ非サレハ依托者ニ於テ之カ責ヲ受ケズ而シテ依托者惡事ヲ斷止スルモ此旨ヲ犯罪施行ノ前被托者ニ報告スルニ非サレハ刑ヲ免カルヲ得ス大

罪ニ付テハ依托ヲ取消シ疾ク之ヲ報告スト雖モ刑ヲ受ケサルヲ得ザリキ

第二 罪犯ヲ認許シ確固ニスルキハ之ヲ從犯ト同視セリ其故何也トナレハ其認許シタル所爲ハ教唆ニ係ルトノ推測ヲ增益スレハナリ

一千七百九十年七月十九日ノ法律ニハ輕罪違警罪ノ從犯ニ付テ一條ノ設ケナシト雖モ其第四十二條ニ於テ從犯人ハ刑ニ處スベシトセリ
一千七百九十一年九月二十五日十月六日ノ刑法ハ羅馬法ノ主義ニ基キ贈與、約束、命令、強迫ヲ以テ教唆シ及ビ犯罪ノ際若クハ其前ニ扶助スル者ヲ現實從犯トナシ第三章第一條第二項又盜犯ノ後事情ヲ知リテ其贓物ヲ收受シ若クハ贖求シタルモノヲ特殊從犯トセリ第三章第三條第二項而シテ主犯從犯ハ共ニ同刑ニ處シ其刑ハ不撓ニシテ最輕最重ノ別ナカリキ

斷例ニ於テハ輕罪ヲ處スルニ重罪ノ規則ヲ適用セリ

一千八百十年ノ刑典ハ其第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三條ニ於テ從犯ノ總則ヲ設ケタリ而シテ一千八百三十二年四月二十八日ノ法ニ於テハ其第六十三條ノミヲ修正シタリシガ其事項ハ檢査ノ結果如何ヲ舉示シテ十分説明スベキガ故ニ今此條目ノ解釋ヲナサザル

一、千八百六十七年五月十七日布告ノ白耳義刑法第六十九條ニハ左ノ如ク
キ刑ヨリ一等輕キ刑ニ處ス可シ輕罪ノ從犯ヲ處スベキ刑ハ其主犯ヲ處スベキ刑ノ三分一ヲ超過スベカラス日耳曼帝國刑法ハ其第四十八條第四十九條ニ於テ教唆從犯、助成從犯ノ別ヲ設ケ教唆從犯ハ主犯ト全刑ニ處シ助成從犯ハ試犯ニ定メタル規則ニ照ラシテ其刑ヲ輕減ス其第二百五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二條ニ於テハ犯罪ノ後扶助シタル從犯及ビ隱藏者ニ係レル規則ヲ載セ其刑ハ主ニト異ニセリ

佛國法律ハ重罪輕罪ニ付テ三種ノ從犯ヲ定ム(第一)刑法第六十條ニ記載シタル眞正現即チ從犯(第二)其第六十一條ニ記載シタル推測從犯(第三)其第六十二條ニ記載シタル重罪輕罪ヲ犯セシ後ニ係ル特別從犯是レ

ナリ此三種ノ從犯ハ即チ羅馬法ニ定メタル所ナリ

眞正從犯ハ四箇ノ原因ヨリ生ズベシ第一原因ハ重罪或ハ輕罪ヲ教唆シ數箇ノ要件ヲ具フルヲ謂ヒ第二原因ハ重罪或ハ輕罪ヲ犯スガ爲メ無形方法ヲ與フルヲ謂ヒ第三原因ハ重罪或ハ輕罪ヲ犯スガ爲メ有形方法ヲ與フルヲ謂ヒ第四原因ハ重罪犯ヲ整備シ容易ナラシメ若クハ遂グルニ際シ自カラ其場ニ臨テ主犯ヲ贊成扶助スルヲ謂フ

第一原因 凡ソ重罪輕罪ヲ教唆スルモノハ盡ク法律上ノ從犯タルニアラス重罪ノ唆唆又ハ依托既ニ効アリト雖モ其唆唆依托ハ犯人ニ對シ威權アル者例ヘハ父母、主人、在上者等ヨリ出デ若クハ贈物、約束、脅迫、奸謀、偽計ヲ以テスルニ非レハ刑法ニ於テ罰スベカラザルモノトス其唯唆唆シ無謝報依托スルガ如キハ法律ヲ以テ之ヲ罰スルニ十分據ル所ナシトスルナリ

第二源因 其無形方法タル教示ニアリトス例ヘハ罪ヲ犯スベキ處

ノ家屋ノ在所ヲ教示シ其家屋ノ監護ナク又看守ナキ時日ヲ指示スルガ如キヲ謂フ斯クノ如キ教示ハ大ヒニ犯罪ニ關係シ其危害タル唯唆唆、無謝報ノ依托ヲナスノ比ニ非ザルヲ以テ擅權、約束、脅迫、奸謀、偽計等アルヲ要セス

第三源因 罪ヲ犯ス事情ヲ知り有形方法ヲ與フル所爲ヲ謂フ例ヘハ情ヲ知りテ毒藥、偽鑰、梯子ヲ附與スルカ如キ是ナリ

第四源因 犯罪ノ豫備ヲナシ又ハ之ヲ容易ナラシメ又ハ之ヲ遂グルニ自カラ其場ニ臨ミ之ニ關係シタル所爲ヲ謂フ例ヘハ甲處ヨリ乙處ニ銃丸ノ到達スベキヲ檢査シタルハ是レ其豫備ヲナスノ所爲タリ盜家、屋ニ攀援スルニ當リ梯子ヲ持スルハ是レ其罪犯ヲ容易ナラシメタルナリ竊盜ヨリ財物ヲ投スルニ路上ニテ之ヲ収

受シタルハ是レ手ヲ下シ自カラ盜ヲ扶助スルナリ
ブルランシニ氏ガ論
ヲ透グルニ與カル者ハ從犯ヨリ重ク間接之ニ與カルヨ
リ重キガ故ニ共犯者トシテ刑ニ處スベシトスルガ如シ

人ヲ擁持シ仇ノ縊殺ヲ防グベカラシメタルモノハ殺死ノ所爲トナス
ベキ乎將タ其從犯トナスベキ乎

此問題ハ緊要ナラザルニ非ズ蓋シ其犯人ハ直接ニ殺死ノ所爲ニ與カ
ルヲ以テ余之ヲ共犯者トシ羅馬法ノ義ニ從ハザルベシ
前ニ列載セル從犯ノ四箇原因タルモノハ爲スベカラザルヲ爲シタル
所業ニシテ而シテ其爲スベキヲ全ク爲サザリシ所業ハ不徳義ノ甚タシ
キ者ノミナレハ法律上ノ從犯ノ所爲トナスベカラズ故ニ重罪若クハ
其計略ヲ告知セザルモノハ從犯トセザルヲ定則トナス盜取或ハ暗殺
ヲ防遏セザルモノハ是レ從犯ニアラザルナリ
然レモ妨碍ノ生ズベキ時報知センガ爲メ見張リヲナスモノハ縱令ヒ

推測從犯

之ヲ報知セズ何事モナサズト雖モ從犯トナス其所爲ナシト言フト雖
モ爲ル所アラシク爲メ見張リヲシタレバナリ

第二種ノ從犯ハ推測從犯ナリ國ノ安寧、公衆ノ靜穩又ハ身體或ハ財產
ニ對シ妨害強奪ヲナス者ノ兇行ヲ知り故ラニ家屋及ビ隱匿ノ地又ハ
集會所ヲ常ニ供給セシ者ハ其從犯トナス蓋シ其所爲タル只何々ノ罪
ヲ犯スヲ容易ナラシムルノミニ非ズ如何ナル重罪ト雖モ亦之ヲ啓誘
スベケレハナリ

此從犯ニハ二箇ノ要件ナカルベカラズ第一其家屋及ビ隱匿ノ地ノ供
給ヲ受クルモノハ第六十一條ニ記シタル強奪暴行ヲナス者タルヲ要
ス而シテ唯其情ヲ知ルベシト疑フノミニテハ未タ足レリトセザレハ第
二ハ其一時之ヲ供給スルニアラズシテ平常之ヲ供給スル者タルヲ要
ス

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

其集合シテ兇行ヲナスモノ、全員又ハ其一部ニ平常居所ヲ供給シタルヲ要スル乎又ハ其家屋、隠匿ノ地ヲ平常其一人ニ給スレハ罪アリトスル乎

刑法第二百六十八條ニ據レハ第一說ニ從フモノ、如シ然レモ其條目ハ今此問題ニ全ク關セザルカ故ニ之ヲ第二百六十六條ニ照比スベシトノ比較

第二百六十六條ハ凡ソ兇行ヲ爲スモノハ全類タルヲ重罪トシ其未ダ一罪ヲ犯サルモ之ヲ罰スベシトセリ又第二百六十八條ニ於テハ凡ソ集合シテ兇行ヲナスモノ、全員又ハ其一部ニ家屋又ハ隠匿ノ地又ハ集會所ヲ供スルモノヲ其集合ノ罪ノ從犯トセリ而シテ第六十一條ニ記載スル所ノ從犯ハ集合ノ罪ノ從犯ニ非ズシテ兇行ヲナス者集合シタルカ故ニ犯セシ所ノ重罪ノ從犯ヲ謂フ故ニ法律ハ其兇行者ガ全員又ハ其一部ニ家屋等ヲ供スルヲ以テ必要トナサザルナリ

特殊從犯

第三種ノ從犯ハ罪犯ヲ遂ゲタル後ニ係レル特殊從犯タリ此レ重罪輕罪ニ因リ得ル所ノ物品ヲ其情ヲ知リテ隠匿スルヲ謂フ

蓋シ其物品ヲ隠藏スル者盜取ノ前之ヲ約セザルキハ其盜ヲ教唆シタルニ非ズ又之ヲ容易ナラシメタルニモ非ズ其犯罪ニ付テ毫モ所爲ナシト雖モ法律ニ於テ其間接ノ繩索ハ即チ隠藏人ヲ盜ニ連結スルモノナリトセリ法律ハ竊取ノ主犯ニ付テ其盜ヲ目シテ繼續罪トナサズト雖モ今此隠藏人ハ情ヲ知リテ其贓物ヲ領置シ尙ホ盜ヲ繼續スベケレハナリ

從犯ノ義解ニ限界アル

以上從犯ノ元素ヲ舉示セリ法律ニ於テ之ヲ記載スル所ハ固ヨリ其定限ニシテ之カ區域ヨリ出ヅベカラズ其間接犯罪ニ關與シ正條外ナル者ハ其事ニ就テ觀察シタル上罰スベカラザルニ於テハ之ヲ刑ニ處ス可カラズ是ヲ以テ事實裁判官從犯ト認定スルキハ法律ニ於テ他人ノ

其已述ニ從犯ヲ論ズ

犯罪ニ付テ責ヲ受クベシトスル事實ヲ證明セザルベカラズ而シテ共犯者カ犯罪ニ關與セシ事實ハ法律ニ於テ之ヲ確定セザルヲ以テ其罪狀ニ付テハ之カ證明ヲ要セザルナリ

從犯ヲ罰スルニハ如何ナル要件アルベキ乎又其受クベキ者ハ如何ナル刑乎今之ヲ講究スルノ一アルノミ後章此二事ヲ説カン

第二十三章 共犯並ニ從犯ヲ論ス

此章ノ主眼及ビ二箇ノ問題

從犯ノ事項ハ尤モ緊要ニ屬スルヲ以テ其總釋説第一章ニ約言スルヲ得ザリキ且ツ其詳細ノ問題ニシテ切要ナル原則ニ關セザル疑難ノ如キハ之ヲ省略シ又一般ノ規則ヨリ生スル例外ニ付テハ毫モ説明スルコトナカリキ

夫ノ前章ノ終リニ擧タル二箇ノ問題ハ今之ヲ講究セザル可カラズ一ニ曰ク從犯ヲ罰スルニハ如何ナル要件ナル可キ乎二ニ曰ク其受ク可

第一ノ問題

從犯ヲ罰スルニハ如何ナル要件アル可キ乎

キ者ハ如何ナル刑乎

第一問題 從犯ヲ罰スルニハ如何ナル要件アル可キ乎

從犯ノ所爲ヲ罰スルニハ其所爲必ス重罪若クハ輕罪ニ連結セザル可カラズ蓋シ其所爲一個ニテハ罰ス可カラズ其整備シ容易ナラシメ助成シタル重罪輕罪ノ刑ス可キヲ以テ之ヲ罰スルナリ然レモ重罪ノ從犯ニ付テハ必シモ其重罪ノ成ルヲ要セズ主犯カ意外ノ事件ニ因リ効ナカリシ重罪ノ試犯アルニ於テハ其從犯ヲ罰ス可シ輕罪ニ付テモ例外トシテ試犯ヲ罰ス可キ時ハ亦其從犯ヲ罰ス可シ
違警罪ノ從犯ハ概テ之ヲ罰セズ其主犯スラ既ニ至輕ノモノナレバ其附屬ノ所爲ノ如キハ罰スルヲ要セズトスルナリ然レモ此レ唯一般ノ規則ニシテ固ヨリ例外ナル者アリ其例外ハ法律ノ明文ヲ以テ之ヲ定ムルニ於テ從犯ノ所爲ハ其主犯タル重罪輕罪アルニ非レハ罰ス可カ

違警罪ニ付テモ亦從犯ヲ罰ス可キ乎

主犯者不在ナルモ又

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

其從犯ヲ罰
ス可キ乎

ラズト云ヘリ然レ其重罪輕罪ヲ罰スル時ニ非レハ之ヲ罰セズト云
フニ非ス刑ス可キ所爲ノ確證アリシ以上ハ何ソ重罪輕罪ノ主犯ノ不在
未審ヲ問フヲ須ヒンヤ

主犯者死シテ其罪ヲ追窮スルヲ能ハザル時モ亦其從犯者ヲ吟味スル
ヲ得可キ乎曰ク然リ或ハ之ヲ駁シテ云ハン治罪法第二條ニ據レハ犯
人死スル時ハ公訴ノ權消滅スルニ非ズヤト是之ヲ謬説ト謂ハザルヲ
得ス抑此條目タル重罪輕罪ヲ犯スト雖モ犯人存在セシテ自ラ辯護ス
ル能ハズ又復タ社會ノ正義ニ關セザル時ハ刑法ニ於テ問フ可カラズ
ト云ニ過キザルノミ重罪輕罪ノ狀迹ハ確明ナラシム可カラズト云フ
ニ非ザルナリ

主犯者ヲ放免スルニ拘ハラズ從犯者ヲ刑ニ處スルヲ得可シ之ヲ放免
スルモ必ズシモ重罪輕罪無キニ非ズ唯其主義ノ訴ヲ受タル者ハ重罪

主犯者ナキ
時ハ從犯亦
責無キ乎

罪ノ主犯者ヲラズ又ハ惡意ナシト決スルニ由ルナリ
此說ハ主犯者其年齡若クハ癡狂ニ因リテ責ナシト決シタル場合ニ適
用ス可キ乎

是レ固ヨリ明カナリ玆ニ刑ス可キ事件有ルナリ其刑ス可キ事件ハ自
由ニシテ且責ヲ負フ可キ者ノ所爲ニ出テズト雖モ其精神ノ錯亂ニ乘
シ之ヲ誘導シタル者ハ罪ナシトス可カラズ
自殺ノ從犯ハ刑ニ處ス可キ乎

人或ハ云ハン其主犯者ハ狂愚トシテ之ヲ赦ス可キモ從犯道理ヲ識別
ス可キ者タルキハ推測ヲ以テ之ヲ刑ニ處ス可シト亦理ナキニ非ズ
然レモ余ハ此二義ヲ照比シ其異ナル所ヲ説カン夫レ自殺スル者ヲ狂
愚ナリト推測スル時ハ管之ヲ刑ニ處セザルノミナラズ之ヲ目シテ全
ク罪ナシトスルナリ故ニ自殺ノ法律ニ於テ刑ス可キ所爲トセズ而シ

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

百七十二

百七十二

刑法第三百八十八條ニ記
載シタル事
件ノ附從者
ハ刑ニ處ス
ル
可
カ
ラ
ザ
ル
乎

從犯ノ罰セラル、者ハ已レガ所爲ノ爲メニ非ズ其連合シタル他人ガ
所爲ノ爲メノミナレバ刑罰ヲ以テ防禁スルニ非ザルノ行爲ニ付テハ
附從者之ガ刑ヲ受ク可カラザルナリ
然レモ其來リテ自殺ヲ助クル者ノ刑ヲ受ケザルハ其一己ノ所爲罰ス
可カラザル時ニ限ルヲ能ク注意ス可シ是故ニ其自殺ヲ激勵シ整備
シ容易ナラシメタルノミナラズ又手ヲ下シテ之ヲ助成シタル者ハ共
行者トシテ殺死ノ刑或ハ毆打創傷ノ刑ニ處ス可シ
夫其婦ノ所有物ヲ盜ミ又ハ婦其夫ノ所有物ヲ盜ミ若クハ卑屬ノ親其
尊屬ノ親ノ所有物ヲ盜ミ又ハ尊屬ノ親其卑屬親ノ所有物ヲ盜ム時ハ
刑ニ處セズ是レ刑法三百八十條ニ記載スル所ナリ
又此條目ノ末項ニ於テハ其他ノ者其贓物ヲ隱藏シ又ハ已レノ利益ニ
供シタル時ハ盜罪ノ刑ニ處ス可シトセリ右ノ條目ヲ依據トシ論ズル

者アリ曰ク其所爲タルヤ罰ス可カラズ刑法第六十六條ニ記シタル罪
犯ノ附從者ハ刑ニ處ス可カラズト大審院ハ其一千八百二十五年四月
十五日ノ判決及ビ一千八百三十八年三月二十四日ノ判決ヲ以テ第三
百八十條ノ特別ナル末項ハ一般ノ附從犯ニ關スル者ニ非ズト斷定セ
リ然ルニ其第三百八十條ニ記シタル罪ナキノ益ヲ得ル者ト共ニ罪ヲ
犯シタル者ハ罰ナキ能ハズト裁判セリ
抑該條目ニ記シタル罰セザル性質ハ如何ゾヤ物ニ因テ罰セザル乎人
ニ因テ罰セザル乎事實ニ關スル乎犯人ニ關スル乎
若シ此條目ニ記載シタル親族血縁間ニハ集合共有物ノ如キ者アリテ
其一人ノ有ニ歸セスト雖モ管理者之ヲ處置スルガ故ニ斯ノ如キ行爲
ハ法律ニ於テ罰セズトセバ其罰セザルハ物ニ因テ罰セザルナリ又若
シ親族ノ名聲社會ノ風教ノ爲メニ法律ハ金錢ノ故ヲ以テ夫婦間若ク

引犯並ニ從犯ヲ論ズ

ハ親子間ニ施體加辱ノ如キ大刑ヲ招致セシムルヲ防禁スルガ故ニ斯
 ノ如キ罪ハ罰セズトセハ其罰セザルハ即チ人ニ因リテ罰セザルナリ
 佛國親族ノ制ハ未ダ羅馬ガ共有物ノ制ニ倣ヒシトハアラズ彼ノ一般
 ノ風儀ヲ本トシ不問ニ置クヲ法律ニ定メタル立法者ハ亦此義ヲ用テ
 附從ノ源因トスルニ非ザルヲ得ンヤ然レモ其從ニ付テ公訴ヲ許スヲ
 視レバ斯ノ如キ罪犯ヲ寬貸セザルハ明カナリ故ニ其所爲タルヤ罰ス
 可キモノニシテ夫ノ罰セサルハ物ニ因ルニ非サルナリ
 其罰セザルハ刑法中他ノ性質アル乎
 或人ハ云ク然リ如何トナレハ法案説明書ニ夫婦間及ビ尊屬卑屬間ノ
 關係ハ甚タ緻密ニシテ其所爲ハ果シテ平素ノ親交ヨリ生ジタルカ若
 シハ眞ノ惡心ヨリ生ジタルカ確乎トシテ知ル可カラザルガ故ニ之ヲ
 訴フルハ實ニ危險ナリト云ヘリト

余亦然リトスルナリ蓋シ其罰セザルニ二箇ノ源因アリトス其主タル
 者ニ付テハ一般ノ風儀ニシテ附從タル者ニ付テハ其關係ノ緻密ナル
 主犯者或ハ自己ノ所爲ニ迷誤スル所アル是レナリ蓋シ附從ノ源因ハ
 固ヨリ不十分ナル可ク又他人ニ付テハ全ク力ナキ者タリ
 第三百八十條ノ末項ハ義ヲ反シテ他事ヲ論ズ可キ者ニ非ズ却テ其義
 ニ據テ之ヲ行フ可キナリ
 若シ他人贓物ノ全部或ハ一部ヲ隱藏シ又ハ自己ノ利益ニ供スル時ハ
 法律ニ於テ之ヲ罰ス
 然ルニ其隱藏タル本條特殊ナル附從犯ニシテ真正ナル附從犯ニ非レ
 バ法律ニ於テモ亦之ヲ通常從犯ヨリ輕キニ問フ而シテ其物品ヲ隱藏ス
 ルニ非ザル時ハ之ヲ自用ニ供スト雖モ亦通常法ニ從フテ之ヲ罰セ
 ザルナリ夫ノ贈物脅迫ヲ以テ盜ヲ教唆シタル者ノ如キ從令其罰ナキ

ヲ得ル者ニ物ヲ贈リ又ハ之ヲ脅迫スト雖モ奈何ゾ之ヲ刑セザルヲ得
 ソヤ
 余ガ駭スル所ノ説ニ於テハ利益ヲ占タル附従犯者ハ第三百八十條ノ
 末項ノ規則ニ該應ス可キガ故ニ凡ソ自家カ利益ノ爲メニ教唆等ヲナ
 シタル者ハ罰ス可シト主張シ條目ヲ援引シテ曰ク若シ其附従者贓物
 ナ自用ニ供シタル時ハ是レ法律上ノ罪人タレバ宜ク刑ニ處ス可シト
 余輩ハ此説ヲ以テ誤謬ニ出ルト信ズルナリ請フ之ヲ論ゼン若シ施行
 者罰ヲ犯スモ意外ノ事情ニ因リ其効ナク其目的ヲ遂ゲザル時ハ教唆
 者ナル他人ハ刑ヲ免ル可キ乎又盜罪ヲ遂ゲタリトスルモ其自家カ利
 益ノ爲メニ犯罪ノ方法ヲ整備シ或ハ物ヲ與ヘ或ハ脅迫シ或ハ助成シ
 タル教唆者ナル他人ニテ或ハ其贈物ノ利益ヲ取ル可キ暇ナキコトアラ
 ン此レ贈物ヲ自用ニ供セサル者ナレバ第三百八十條ノ特殊ナル附従

犯者トスル事ヲ得ズ第六十條ヲ依據トセザレバ斯ノ如キ罪人ハ決シ
 テ罰ス可カラザルナリ若シ夫レ其特別ナル附従ノ試犯ヲ罰ス可シト
 定メタル時ノミ其規則ヲ異ニスベシ其特別ナル附従ノ試犯ヲ罰スルガ如キハ固ヨリ許ス可カラザルノ説タリ
 或ハ之ヲ駭シテ云ハノ法律ノ意ハ親族ノ和合ヲ保護シ一家ノ亂ヲ蔽
 フニ在ルヲ以テ配偶者若クハ親戚ノ従犯者又ハ共犯者ヲ刑ニ處スル
 ハ是レ秘ス可キノ恥ヲ顯ハスニ非ザルヲ得ンヤト然レモ其贈物ヲ隱
 藏シ又ハ自己ノ利益ニ供スル附従犯者ヲ罰スルモ亦同一ナル結果ア
 ルニ非ズヤ何故ニ特殊従犯ニ付テ犯人ガ恥ヲ顯ハス可キモ通常従犯
 ニ付テハ之ヲ隱蔽セザル可カラズトスル乎今又場合ヲ易ヘテ盜罪ノ
 主犯者他人ニシテ被害人ノ親戚若クハ配偶者之カ附従者タリトセン
 其附従者固ヨリ罪アリト雖モ第三百八十條ニ從ヒ之ヲ赦シ以テ人ニ
 因リテ罰セズトスルニ非ズヤ日耳曼帝國刑法第二百四十七條ニ云ク尊屬ノ親其卑屬ノ親ノ所有物ヲ盜ミ或ハ詐取シ

及ビ夫其婦ノ所有物ヲ盜ミ又ハ婦其夫ノ所有物ヲ盜ム時ハ刑ニ處ス可カラズ
但シ其身分之ト同一ナル關係無キ者之ガ共行者若クハ附從者タル時ハ此限ニ
在ラズト

是ノ如キガ故ニ余輩ハ斷例ヨリ嚴ナラザル可カラズトナシ他人被害
者ガ親戚若クハ配偶者ト共ニ盜罪ヲ犯シタル時ハ勿論刑法第六十條
ニ記シタル如ク其盜罪ノ附從者タル時モ亦刑ニ處ス可シトスルナリ
今茲ニ一場合ヲ舉ケ他人ノ所爲ニ因リ附從ヲ罰ス可キ原則即チ刑ス
可キ所爲アルニ非レバ附從ヲ罰セザル原則ノ區域限界ヲ明ニセン外
國人アリ外國ニ於テ佛人ニ對シ重罪ヲ犯ス若シ其罪一千八百六十六
年六月二十七日布告ノ法律ヲ以テ定メタル治罪法第七條ニ列載セル
者ニ係ラザル時ハ佛國ニ於テ罰ス可カラズ然レモ若シ佛國ニ於テ外
國人若クハ佛人附從犯ヲ犯ス時其所爲佛國ニ於テ罰ス可キ者ハ佛法
ニ據テ處刑スト雖モ其主タル所爲佛國ニ於テ罰ス可キニ非レバ之ヲ

外國ニ在リ
テ犯シタル
罪及ヒ佛國
ニ在リテ從
犯者タル時

罰セズ

對反ナル場
合即チ外國
人從犯者タ
ル時

此場合ハ難題ニ非レモ其對反ナル場合ニ於テ余ガ其如何ナル法律ニ
照準ス可キヲ知ラザル者ニ付テハ之ヲ斷定スルニ甚々難キヲ覺ユル
ナリ今佛國ニ於テ重罪ヲ犯ス者アリ而シテ其附從ノ罪ハ外國ニ於テ之
ヲ犯ス例ハ佛國ニ於テ人ヲ殺ス者アリ其罪ヲ討ヌルニ外國人外國
ニ於テ之ニ金錢ヲ與ヘ依頼シタリト云フ
其附從ハ他人ノ所爲ノ爲メ即チ主タル所爲ニ因リ罰ス可ク且ツ其主
タル所爲ハ佛國ニ於テ犯ス可キガ故ニ之ヲ教唆シタル者ハ佛國ニテ
罰ス可キガ如シ
然レモ余ハ此釋說ニ止マル可カラズト信ズルナリ蓋シ其附從ノ所爲
タル事ハ犯罪ニ非ズ法ヲ犯ス者ニ非ザルガ故ニ其附從ハ他人ノ所爲
ノ爲メニ罰ス可シト雖モ抑モ其附從者タル他人ノ所爲ニ連合シ計策

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

外國ニ在リテ犯罪スル者
外國ニ在リテ犯罪スル者
外國ニ在リテ犯罪スル者
外國ニ在リテ犯罪スル者

ヲ與ヘ以テ其犯罪ニ與カルニ非レハ之ヲ罰ス可カラザルナリ而シテ佛
法ハ外國ニ於テ其權力ヲ外國人ニ施サザル者如何ニ之ヲ刑ニ處ス可
キ乎外國ニ於テ主タル所爲ヲ防禁セザルノ法律ト雖モ佛國ニ於テ其
主タル所爲ヲ犯ス者アル時ハ其附屬ノ所爲之ト關係スルガ故ニ亦之
ヲ防禁シタリト看做ス可キ乎
若シ佛人外國ニ在テ金錢ヲ與ヘ重罪ヲ教唆シ佛國ニ於テ之ヲ犯サシ
メタル時ハ如何カ決定スル乎
一千八百六十六年六月二十七日ノ法律布告以降ハ固ヨリ治罪法第七
條ニ據テ之ヲ處斷ス可キヲ以テ若シ佛國外國ニ在リテ佛人ニ對シ罪
ヲ犯ス時ハ佛國ニ於テ刑ニ處セザル可カラズ況ンヤ佛國ノ利益ヲ害
ス可キ所爲ヲ佛國ニ於テ犯ス者アリ佛國外國ニ在テ之ニ與カル時ハ
亦固ヨリ刑ニ處セザル可カラズ

區別ヲ不可
トスルヲ

舊法第七條ニ據レバ其佛國ニ於テ害ヲ被ル者外國人タル時ハ犯人ヲ
刑ニ處セザルガ如シト雖モ佛國ニ於テ外國人ニ對シ重罪ヲ犯ス者ハ
是レ固ヨリ佛國ノ利益ヲ害シ佛法ニ害ヲ加フル者タリ刑法ハ隨人ヲ
以テ主義トスルガ故ニ佛國外國ニ在リト雖モ之ニ命令スルヲ得可ク
レバ其外國ニ在リテ佛人ニ對シ重罪ヲ犯スノミヲ防禁スルヲ得ルナ
リ然レモ其外國ニ在リテ外國人ニ對シ重罪ヲ犯スヲ佛國ニ防禁スル
ヲ得ベク又防禁セザルヲ得ザリシ事ニテ刑法ハ佛人外國ニ在リテ佛
國ニ於テ犯ス可キ重罪ニ連合スルヲ防禁セズ佛國境外ニ在リテ金錢ヲ
與ヘ佛國ニ於テ盜罪、放火、殺死、ノ罪ヲ犯サバラシムルヲ防禁セズト謂
フハ豈能ク道理ニ適フモノナランヤ
余ハ治罪法舊第七條ヲ以テ上文ニ舉タル場合ヲ定メタル者トナシテ
而シ之ヲ援引スルニ非ズ唯法律ヲ制定シタル原則ノ解説ヲ索ムルノ

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

ミナレバ讀者ニ之ヲ諒セシテ乞フ蓋シ刑法ハ舊時ニ於テモ亦隨人ナリシト雖其隨人タル總結果ヲ記載スルヲ無シ唯直接ニ佛法ノ權ヲ害シテ而シテ罰セザル時ハ大弊ヲ生ズ可キ者ノミヲ罰セリ故ニ地限ノ主義ト雖亦甚タ危殆ニシテ若シ佛人外國ニ在リテ佛國ニ於テ犯ス可キ重罪ニ連合シ刑罰ヲ受ケザル時ハ此主義タルヤ全ク地ニ墮ツニ至リシナリ而シテ附從者ナル外國人ノ如キ其所爲外國ニ在リテハ佛法ノ關涉ス可キ所ナラザルヲ以テ佛國ニ於テ之ヲ罰スル事ヲ得ザリキ

然リ而シテ余ハ唯刑法ノ隨人タルベキ主義ニ據リテ之ヲ論シ治罪法舊第七條ノ文面ニ拘ハラザルナリ故ニ佛人外國ニ在リテ佛國ニ於テ佛人ニ對シ犯シタル重罪輕罪ノ附從ニ付テ罪アル時ハ其佛國ニ歸ヘルヲ待タズ又其被害者ガ訴ヘテ待タズシテ其罪ヲ訴フ可シトスナルリ

又一場合

然レモ余亦少シク疑ヒナキニ非ズ且隨人ノ主義ヲ維持スルニハ制限ノ義ニ據ラザルヲ得ザルガ故ニ此說ヤ能ク其理ニ適フ可キヤ否ヤ甚ダ之ヲ恐ル、ナリ而シテ一千八百六十六年六月二十七日ノ法律布告ニ依リテ以降ハ復タ斯疑難ハ消滅セリ但其未タ十分ナラザルモノアリトス(按)以上ノ説ハ邊留吐爾氏嘗テ立法院ニ於テ論ゼシ所ナリ

今又一例ヲ舉ゲン公證人アリ許多ノ高利貸證書ヲ故意ニテ領受ス而シテ其貸主ハ皆異ナレリ平生ヨリ高利貸ヲ業トスル者ノミ法律ニ於テ罰スルノ規則ナルニ該貸主ハ平生之ヲ業トセザルガ故ニ刑罰ニ問フ可キ者ニ非ズトス然ルニ公證人ハ却テ之ヲ勸奨シ又平生ニリ屢是ノ如キ所業ヲナセリト云フ是ノ公證人ハ高利貸ヲ業トスル者ノ輕罪ノ附從トナシ之ヲ刑ニ處ス可キ乎或ル人ハ之ヲ然リトスト雖モ原則ニ於テハ之ヲ不可ナリトスルナリ蓋シ法律上罪ス可キ所爲ニ係ルニ

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

第二ノ問題

非レハ其附從ヲ罪ス可カラズ
第二問題 附從ノ所爲ハ如何ナル刑ニ處ス可キ乎余ハ故ラニ附從犯者ト言ハズ

刑法第五十九條ニ云ク其重罪又ハ輕罪ノ主犯ト同一ノ刑ヲ以テ罰ス可シト

然レハ決シテ此文字ニ拘泥ス可カラズ其刑期ノ如キ必ズモ同一ナルヲ要セズ又主犯若クハ從犯ニ於テ通謀ス可カラザル事情ノルカ或ハ一己ニ出ルノ事情等アリテ刑ノ等級ニ於テモ同一ナル能ハザル一アリ法律ノ意ハ附從ニ付テ特別ニ記載シタル刑ナク附從ハ其主犯或ハ刑ス可キ試犯ト同列ニ置ク可シト云フニ異ナラズ

門戸等ヲ破壊シ夜中偽鑰ヲ用ヒテ盜ヲナスガ如キ増刑情狀アルニ因リ重罪輕罪ノ刑ヲ増重ス可キ時ハ縱令附從者ニ於テ此事情ニ關與セ

何故ニ附從者ガ其情ヲ知ルト知ラザルトテ論セズ情狀ニ

因リ刑ヲ増重ス可キ乎

ズ又之ヲ知ルトシ知ラザルトスルモ其刑ヲ増重セザル可カラズ
タルシエー氏其刑法草案評論(書名)ニ於テ上文ノ事項ノ眞理ヲ擧ゲタリ
曰ク

増刑情狀ニ因リテ大ニ刑ヲ増重スル時ハ其犯者ヲ整備シ助成シ容易ナラシメタル者ハ其事情ニ從ヒ其犯罪ヨリ生ズ可キ諸事件ヲ承認シタルガ故ニ亦其増重刑ニ處ス可キガ如シト
故ニ附從犯ハ犯罪ニ係レル諸事件ヲ豫見シタル時ハ之ニ連合シタリト推測ス可キヲ以テ之ヲ増重刑ニ處ス可シ余ハ此制限アル推測ヲ駁ス可キニ非ズト信ズルナリ蓋シ此推測タル之ガ反對ノ證ヲ擧ルヲ許ササルモノニ非レハ若シ附從者ニ於テ其刑ヲ増重ス可キ情狀ニ關セザル約束ニテ罪犯ニ與リタルヲ證スル時ハ之ガ責ヲ受ク可カラザルナリ

ロシイ氏此點ニ付テ大ニ論セシト雖其或ハ能ク適合セザルヲ恐ル
、ナリ蓋シロシイ氏ハ結果ニ付テ其眞理ヲ知ラザルモ原則ハ能ク説
明シタルガ故ニ其論ズル所法律ノ條目及ビ其區域ヲ明ニス可キヲ以
テ今之ヲ提擧セン曰ク

若シ被托者其依托者ガ教示ニ違フテ唯其依托ヲ受タル重罪ノミヲ
犯シ刑ヲ増重ス可キ情狀ナキモ、依托者ガ地位ハ決シテ變ス可カラ
ズ常ニ劔ヲ以テ人ヲ殺シタルカ又ハ匕首ヲ以テ人ヲ殺シタルカノ
謀殺者ナリトス

若シ又之ニ反シ被托者其依托ヲ受ケタル方法ヲ易ヘテ犯罪ノ性質
ヲ變シタル時例ヘハ物ヲ盗ムノミノ依托ヲ受ケタルニ兇器ヲ持ス
ル者ニ會遇シタルニ因リ己レ其兇器ヲ借り破壊攀援ノ方法等ヲ行
フカ如キハ依托者ニ於テ其増刑情狀ノ責ヲ受ク可カラズ唯尋常盜

ノ刑ヲ受ク可シ

今目的ニ付テ論セン

若シ其委托外ニ爲シタル事件委托者ニ於テ容易ク之ヲ豫見ス可ク
委托シタル目的ノ性質ヨリ自然生ス可キ者タル時ハ委托者ハ即チ
其共行者タリ故ニ委托者人ニ重傷ヲ負ハシメント欲シタルニ被托
者之ヲ殺ス時ハ委托者殺死ノ罪ヲ受ケザルヲ得スト

其重傷ノミヲ負ハシメント欲セシ附從者殺死ノ罪ヲ受クルハ人ニ傷
ヲ負ハシメントスル時ハ或ハ之ヲ殺スニ至ル可ク容易ク之ヲ豫見ス
可キカ故ナリ然ルニ盜ヲナスカ爲ノニ破壊攀援シタルカ如キハ何故
ニ附從ニ於テ之カ増刑情狀ノ責ヲ受ク可カラストスル乎其目的ヲ助
成セシ方法ハ目的ノ性質上ヨリ自然生ス可キ事件ノ如ク容易ニ豫見
ス可カラザルカ故乎其目的ノ性質上ヨリ自然生ス可キ事件モ亦委托

共犯並ニ從犯ヲ論ス

セラレサル所ニ非スヤ

且夫レ法律ノ意ハ縱令從犯者ニハ増刑情狀ナキモ之カ責ヲ受ク可シト云フニハ非ス只從犯者其増刑情狀ニ關與セズ又之ヲ知ラズト言フト雖モ之ヲ免ルヲ得ストスルニ在ルナリ

隱藏ニ付テハ格別トス

然レモ若シ隱藏人情狀ニ因リ刑ヲ増重シ無期徒刑或ハ流刑ニ處ス可キ罪ヲ犯ス時ハ其情狀ヲ知ルニ非レハ其刑ヲ増重ス可カラズ全ク之ヲ知ラザルニ於テハ有期徒刑ニ處ス可シ又其情狀ヲ知ルニ因リ死刑ニ處ス可キ時ハ之ガ責ヲ受ケシメズ無期徒刑ヲ以テ之ニ換フ一千八百三十二年ノ法律改正以前ニ於テハ若シ隱藏人贓物ヲ隱藏スル前法律ニ循ヒ死刑ニ處ス可キ情狀ヲ知ル時ハ之ヲ死刑ニ處シ而シテ其他ノ増刑情狀ヲ知ラザル時ハ死刑無期徒刑流刑ニ處セズ唯有期徒刑ヲ以テ之ヲ處シタリ

主犯者ガ身分ニ因リ刑ヲ増重ス可キハ如何

隱藏ハ固ヨリ特別ナル從犯ダレハ是ノ如キ例外ヲ設クルハ至當ト謂

フ可シタルシエー氏亦其刑法草案評論ニ於テ其必要ナルヲ論ゼリ

重輕罪ノ主犯者一己ノ身分ニ付テ刑ヲ増重スル時ハ從犯者ニ付テモ亦其刑ヲ増重ス可キ乎茲ニ人アリ器具ヲ與ヘテ人ヲ殺サシムルカ或ハ藥劑ヲ與ヘテ之ヲ毒殺セシムルニ其施行者被害ノ子タル時ハ從犯者亦弑父ノ刑ヲ受ク可キ乎

諸學士概テ之ヲ然ラズトセリ其說ニ云ク「從犯者ヨリ之ヲ見レバ唯通常殺死若クハ毒殺ノ罪アルノミ」ト而シテ斷例ハ之ニ反セル者アリ

余ハ乃チ其斷例ヲ以テ能ク理ニ適フトスルナリ蓋シ主犯者カ身分ニ付テ刑ヲ増重スル者ハ其犯罪自然ノ情狀ヨシテ德義ニ悖ルノ甚キ者アルヲ以テナリ而シテ從犯者是ノ如キノ重罪ニ關與スル者ハ是レ其刑ヲ増重ス可キ性質ヲ承認シ之ニ連合シタルニ非ズシテ何ソヤ或ハ云

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

ハン子タルノ身分ハ決シテ從犯ニ連繫スルモノニ非ズト誠ニ然リ然
リト雖モ若シ其身分ハ重罪ニ連繫ス可シト云ハハ則チ連繫セリ而シ
其重罪ハ之ニ由テ特別ナル名稱ヲ生シ又甚ダ忌惡ス可キノ性質ヲ生
スルニ非ズヤ而シテ弑父ノ罪ニ關與セシ從犯ハ通常殺死ノ罪ニ關與
セザルモノナリ

軍律ニ據リテ論述スル

又或ハ軍律ヲ援引シ余カ説ヲ駁シテ云ク陸軍軍律第九十六條ニ據
ルニ軍人ニ非ザル者主犯タル軍人ノ從犯ニシテ普通法ヲ以テ處斷ス
可キ時ハ其普通法ノ刑ノミヲ受クルニ非ズヤト又之ニ附加シテ論シ
テ云ク其法第二百六十八條ニ據ルニ制限アル特別ノ場合ニ非ザレハ
主犯ノ刑ヲ將テ其軍人ニ非ザル附從タル者ヲ處セザルニ非ズヤト余
ハ亦其法第九十七條ニ據リテ之ニ答ヘン曰ク若シ軍人ニ非ザル者
及ビ軍人ト看做サハル者通常刑法ニ記載セザル重罪ヲ犯シタリト決

定スル時ハ軍律ニ據リテ處刑ス可キノ非ズヤト而シ其第二百六十八
條ハ余カ説ヲ斥却セザルノミナラズ主犯者ガ身分ニ拘ハラズ何人ト
雖モ其附從タル以上ハ軍律ニ處ス可キ場合ニ定メ却テ以テ之ヲ賛成
スル者ナリ

余カ弑父從犯ニ付テ論ズル所其共犯ニ付テモ亦同カラザル可カラズ
如何トナレハ附從者ハ盡ク共犯者ヲラズト雖モ共犯者ハ皆必ス附從
者タレハナリ

ローテル氏以爲ラク從犯者主犯者カ身分ヲ知ラザル場合ト雖モ其身
分ハ之ニ連繫ス可キヲ以テ其責ヲ増重セザル可カラズト其言ニ云ク
謀殺ノ從犯者其謀殺人ハ被害者ノ子タルヲ知ラズト雖モ亦弑父ノ刑
ヲ受ケザル可カラズト

然レモ此説タル原則ヨリ生ズ可キ者ニ非ザル可シ夫ノ犯罪ノ内部含

從犯者ニ於テ知ラザリシ身分ニ因リテ刑ヲ増重ス可キハ如何

主犯者ガ再
犯ニ因リ刑
ヲ増重ス可
キハ如何

蓄スル所ノ情狀ニ付テハ從犯者之ヲ知ルト否ト又之ニ關與スルト否
トチ論セズ其刑ヲ増重スル所以ノ者ハ是レ其從犯者ハ犯罪ヨリ生ス
可キ諸般ノ事件ヲ承認シ之ヲ豫知シ又之ヲ豫知シ得タリト推測ス可
キガ故ナリロシイ氏ノ云ク容易ク豫知ス可キ偶生事件即チ達セント
スル目的ノ性質ヨリ生ス可キ事件ニ付テハ從犯者之ガ責ヲ受ク可カ
ラズト然ルニ主犯者ガ身分ハ即チ一定ノ事實ニシテ偶然生ス可キ者
ニ非ス又其附從ニ於テ之ヲ知ラザル時ハ全ク目的ト關係無キモノナ
リ
主犯者故意ニテ罪ヲ犯シ罪人ト決スルニ非ザレバ其身分ヲ以テ從犯
者ニ及ス可カラズ
主犯者再犯ニ因リ刑ヲ増重ス可キ時ハ從犯者ニ付テモ亦其刑ヲ増重
ス可キ乎

從犯者ガ一
己ノ身分ニ
付テハ如何

曰ク否ス此場合ニ於テ刑ヲ増重スル者ハ主犯ノ地位ヲ増重タ可キ情
狀アルガ故ニテ重罪ヲ増重ス可キ情狀アルガ故ニ非ズ其數惡事ヲナ
スハ全ク從犯者外ノ事トス
從犯者ガ一己ノ身分ニ因リテ刑ヲ増重ス可キ乎
此問題ハ二岐ニ分ル一ニ曰ク從犯者ガ一己ノ身分ニ因リ主犯ノ刑ヲ
増重ス可キ乎ニ曰ク其身分ニ因リ從犯ノ刑ヲ増重ス可キ乎
例ヘハ子犯ノ已レガ父ヲ殺スヲ知リ故ラニ之ニ兇器ヲ貸シタル如キ
ハ他人ナル殺害者ト雖モ殺害ヲ整備シタル子ト雖モ皆弑父ノ刑ニ處
スルヲ得ズ蓋シ從犯者ノ刑ヲ増重ス可キ源因ハ之ヲ主犯者ニ及ス
ヲ得ス又從犯者ハ他人ノ所爲ニ因リテ罰セラレ而シテ其所爲尋常殺死
タルカ故ニ唯殺死ノ刑ノミヲ受ク可ケレバナリ
若シ其子共犯者タル時ハ固ヨリ弑父ノ刑ニ處ス可ク且其身分ニ因リ

共犯並ニ從犯ヲ論ズ

施行犯人ニ
於テ罪ヲ行
テアル事
恕スルハ
情アルハ
從テ於テ
之ガ益ヲ
ク可キ乎

罪ヲ増重ス可キヲ以テ他人ナル共犯者ニ付テモ亦其刑ヲ増重ス可シ
若シ從犯者再犯ナル時ハ刑ノ性質ヲ變ス可ケレバ主犯者ヨリ一
等重キ刑ニ處ス可シ
從犯者其主タル事件ノ情狀ニ因リ刑ヲ増重セラル可シト雖モ若シ施
行犯人ニ付テ刑ヲ宥恕ス可キ時ハ亦之ガ益ヲ受ク可キ乎
例ヘハ主犯者年齢ニ因リテ其罪ヲ宥恕セラル可キ時トセン宥恕ハ事
實ノ性質ト名稱トヲ變ス可キ者ニ非ズトス今此第一例ニ於テ年齢ニ
因リ罪ヲ宥恕スル主旨ハ犯人カ自由ト智能トノ推測ヲ輕減ス可キニ
在リ然レモ十六歳以上ノ者ニ付テハ自由智能ノ推測ノ如キ毫モ關繫
スル所ナク又第二例ニ於テ夫ノ罪ヲ宥恕スル主旨ハ其當然ナル憤怒
ニ因リ或ハ眩惑シテ幾分ノ自制心ヲ失フヲ推測スルニ在リ然ルニ他
人モ亦是ノ如ク憤怒シタリト推測スルハ得可カラザルノ事タリ宥恕

ト不問ニ置クノ源因トハ從犯者之カ利益ヲ受クルヲ得ス日耳曼國
於テハ主犯者ガ一己ノ情狀若クハ身分ニ因リ刑ヲ増重シ又ハ輕減スル
從者ガ刑モ亦増減セリ蓋シ主犯者ガ身分ニ因リ刑ヲ増重シ又ハ輕減スル
ハ其當ヲ得スルハ能ク氏亦言ヘルト雖モ其刑ヲ輕減スルニ於テ然ラシ
ハ則チ輕減スルニ就テハ其情狀ハ犯罪ノ輕重ニ依リテ決スルニ因リ
合シタル從犯者ニ就テハ其刑ヲ減ズ可カラズ而シテ主犯者ノ身分ニ
ヲ重カシメ嫌疑ナシメタル時ハ是レ即チ大審院ガ言ヒシ如ク其情狀
其罪ニ結着スルモノタル故ニ凡ソ其罪ニ關與セシ者ハ固ヨリ其情狀ニ
シタル可ケレバ刑ヲ増重セザルモ亦毫モ刑ヲ受ケザル如キ不常ノ結果
者年齢ニ因リテ刑ヲ受ケザルモ亦毫モ刑ヲ受ケザル如キ不常ノ結果
ヲ増重ス可キ身分ヲ從犯者ニ於テ知ルモ非ザルトハ合テ又主犯者ガ
亦嚴烈ニ過キタリト謂ハザルヲ得ズ如ク決定セリ第九百五十一條月
係レテ以テ利刑法ハ余輩ノ説ヲ左ノ如ク決定セリ第九百五十一條月
ハ從犯者中其人ノ増減ス可キ時其身分情狀ノ効ヲ同罪ノ他ト主犯者
可カラスト

然レモ第三百二十一條第三百二十二條ニ記シタル場合ノ如ク若シ主
犯者一己ノ身分ニ因リテ宥恕ス可キニ非ズシテ犯罪ニ粘着スル情狀

共犯並ニ從犯ヲ論ス

ニ因リテ宥恕ス可キ時ハ從犯者ガ刑モ亦輕減セザル可カラズ
 從犯ハ主犯ト均ク唯其事實ニ付テノミ論定ス可カラズ能ク其意ヲ探
 リ其心志ヲ討テザル可カラズ然レモ其罪ス可キ意ノ存スル所ハ主犯
 者若クハ從犯者カ惡事ヲナスト云フ感覺ニ在ラスシテ其法律ヲ犯ス
 必思ニ在ルヲ忽視ス可カラズ是レ立法者ニ在リテハ煩ハシカラザル
 モ法學士ニ在リテハ至難ノ問題タル所ナリ
 茲ニ決闘ヲナス者アラン若シ其證人之ニ兇器ヲ給付シ其擧ヲ整備シ
 助成シタル時ハ附從ノ罪トシテ之ヲ罰ス可キ乎大審院斷例ニ於テハ
 之ヲ然リトセリ又其決闘者一方ノ者死セシ時ハ謀殺若クハ故殺ノ罪
 ナ以テ其證人ヲ視ル可キ乎此證人タル初メ深ク之ヲ諫止シ懇諭シタ
 ルニ決闘者強ヒテ請求スルニ因リ已ムヲ得ズシテ其場ニ臨ムト雖モ
 唯其會合ノ約束ヲ規定シ決闘ヲ監督シ時アレハ危損ヲ制止シ或ハ減

少セント欲シタリ是ノ如キ場合ニ於テハ其所爲タル時アレハ此擧ヲ
 制止シ又然ラザルモ其結果ヲ輕減セントノ意ニテ唯來觀者タルヲ承
 肯シ勉メテ之ヲ妨抑シタルニ争テ之ヲ目シテ犯罪ヲ助成シタリ容易
 ナラシメタリト決定スルヲ得ンヤ其罪惡ヲ激勵セザルノミナラズ却
 テ自身ニ於テ諫止スル能ハザリシ害惡ノ過度ヲ防カントノ保護者ク
 ルニ如何ナル理ニ據リテ之ヲ刑ニ處セントスル乎又迷誤者決闘者ヲ
 委棄スルニ非レモ到底法律ヲ以テ之ヲ制抑ス可カラズトセバ和解人
 タリ仲人タルヲ得可キ證人アリテ之ヲ周旋スルハ社會ニ於テ大益ア
 ルニ非ズヤ

日耳曼帝國刑法第二百八條第二百九條ハ蓋シ此義ヲ提出セシモノナ
 リ
 第二百八條 同伴人決闘ニ付テナクシテ決闘ヲナス者ハ其刑ノ半以上

ヲ増重ス可シ但シ其刑ハ十年以上ニ越ユ可カラズ

第二百九條 同伴人、證人、外科醫師等決闘ヲ防止セント盡力シタル者決闘者ガ請求ニ因リ其場ニ臨シ時ハ刑ヲ免ス可シ

一千八百四十一年一月八日ノ布告ニ係ル白耳義法第八條ニ據レハ決闘ノ證人ヲ以テ其從犯トセズ之ヲ特別ナル罪犯トナシ從犯ヨリ甚ダ輕キ刑ニ處シタリシニ白耳義刑法第四百三十一條第四百三十二條ニ於テモ亦決闘ノ從犯ト證人トニ付テ同一ナル區別ヲ設ケタリ

第四百三十一條 如何ナル方法ニ因ルト雖モ凡ソ決闘ヲ教唆シタル者ハ主犯者ト同一ノ刑ニ處ス可シ其決闘ナキ場合ニ於テハ一月以上一年以下ノ禁獄百フラン以上千フラン以下ノ罰金ニ處ス可シ

第四百三十二條 第四百二十七條第四百二十八條第四百二十九條第四百三十條ニ記シタル場合ニ於テハ證人ハ一月以上一年以下ノ禁

獄百フラン以上千フラン以下ノ罰金ニ處ス可シ

佛國斷例ニ據レハ決闘ニ因リ一方ノ者死ヲ致ス時ハ實際證人ニ於テ固ヨリ之ヲ欲シタルニ非ザルモ法律ヲ以テ之ヲ欲シタリト見做サハルヲ得ザル如キ奇怪ナル結果ヲ生ズルナリ故ニ證人ハ毫モ傷ヲ負ハズシテ生き残りタル決闘者ヲ殺サントセシ試犯ノ附從者タラズト云フ證ナキ以上ハ右殺死ノ從犯トシテ刑ニ處セラル可シ

若シ決闘ヲ以テ特別ノ犯罪トシテ罰シタリシナラハ相對決闘ヲ約束スルハ即チ法ヲ犯スノ義ナレハ日耳曼刑法ノ規則ヲ不可ナリト假定シ從犯ハ此約束ニ關ス可キヲ以テ上文舉タル如キ奇怪ナル結果ヲ生ズルコトナカル可シ一千六百二年、一千六百九年、一千六百二十三年、一千六百五十一年、一千六百七十九年、一千七百二十三年ノ布告ニ定メタル決闘ノ從犯ヲ處置スル法ハ一千八百三十七年ノ判決ヨリ却テ理ニ適

置スル所以ナリ又刑法ヲ施用シ處分ヲ實行スルモ其正義ノ許シ公益ノ命ズル所タルニ非レバ以テ正當トナス得ズ然リ而シテ其正義ノ許シ公益ノ命ズル所ノ刑罰ト雖モ或ハ特別ナル事情ノ在ルアリテ社會ノ名義社會ノ爲メニ利益上復タ之ヲ要セズ或ハ却テ之ニ戻ルヲ無キニ於ザル乎二三ノ犯罪ノ證ヲ舉ゲ之ヲ處刑スルニ付テ法律及ビ政府ニ於テハ毫モ得ル所ナク却テ損失ヲ招ク可キ時ナキニ非ザル乎一旦既ニ安眠セル情態ヲ搖激シ消ユルニ垂ントスル憤恨ヲ喚起スルニ非レバ本人ヲ搜索シ認定ス可カラサル所爲ノ如キ社會ニ於テ之ヲ不問ニ置ク可カラザル乎正義ニ於テ許ス所ノ者ハ施政上盡ク之ヲ要メズ又必ズシモ之ヲ聽スヲ要セズ而シテ苟モ刑罰ノ正當ナルハ其社會ノ秩序ヲ保護スルノ故ナリトセバ其却テ社會ノ秩序ヲ紊ルノ原因タルハ何故ニ之ヲ施用ス可キ乎又之ヲ罰シ之ヲ不問ニ置クモ均シク至難

ノ事ナルニ何故ニ其不明不瞭ノ罪跡ニ就テ必ズ之ヲ罰セザル可カラズトスル乎法律ハ自ラ隠蔽セザル可カラズ政府ハ其既ニ完成セシ事件ニシテ損失危害ヲ醸スニ非レバ罰ス可カラザル者ニ付テハ目ヲ閉チザル可カラズ又見ザルヲ約セザル可カラズクロワイエ、コラール氏云ク大赦ハ能ク正義ニ適ヘリ公益ノ爲メニ赦典ヲ行ヒ公益ノ爲メニ正義ヲ施セバナリ刑罰ヲ止ムルノ利益アルハ刑罰ハ復タ必要ニ非ズ然ラバ則チ大赦ニ付テ其或ハ大罪ヲ免ヌ可キヤ否ヤハ論ズルヲ要セス唯之ヲ罰ス可キノミトト國安ヲ回復スルノ利トヲ比較ス可キノミト

若シ法律及ビ政府ニ於テ向後犯罪ヲ罰セズト約セシナラバ是レ復タ法律ヲラズ政府ヲラザル可キモ若シ其罰セザルハ嚴刻ニ出ルヨリ寧ロ危害ヲ抑止シ將來ヲ戒ムルニ足ル可キ時ハ法律ハ其體面ヲ失ハズ政府モ其體面ヲ失ハズ乃チ其職務ヲ遂シガ爲メニ其防遏スル能ハザリシ既往ノ事ヲ不問ニ置テ以テ自家ヲ確保スルヲ得可シ社會ニ於テ防止スル能ハザリシ數箇ノ所爲ニ付テハ國安上或ハ必ズ法律ヲ停

止セザル可カラザル事アリ之ニ由テ是ヲ觀レバ公安ヲ搖攪スルニ非レバ喚起ス可カラザル犯罪ニ付キ政府ニ於テ之ヲ忘棄ス可キヲ布告スルノ權ナキハ是レ政府ハ社會ノ要需ヲシテ盡ク充タサシム可キ方法ナシト謂フ可シ

夫ノ人情ヲ和ラゲ雍熙ヲ致サンガ爲メニ追捕ヲ中止シ訴訟ノ犯罪ヲ廢棄シ若クハ既決ノ罪ト雖モ久シク中絶セシ既ニ言渡シタル刑ヲ執行セザルヲ約定シ本犯ヲ未知ニ放釋シ或ハ未知ト看做スノ權ノ政府ニ於テ無カル可カラザル所以ノ者ハ即チ社會ノ公益ニ基クナリ是ノ如ク罪狀ヲ査定セズ若クハ其査定ヲシテ無効ニ屬セシムルヲ約束スル之ヲ大赦ト謂フ記念セザル義ナリ

大赦ハ免恕ニ非ズ按大赦ナル原語ハ「アムニチ」ト云ヘル希臘語ヨリ來レテスルハ「穩當」ナラズト雖モ事實吾國ノ大赦ニ似タル者アル可シ免恕ハ譯スルハ「穩當」ナラズト雖モ事實吾國ノ大赦ニ似タル者アル可シ免恕ハ

罪狀一旦確定セル犯人ニ施ス可キ者ニテ罪アリト雖モ唯其刑罰ノ全部若クハ一部ヲ釋除スルノ義ナリ而シテ大赦ナル者ハ犯人ヲ置テ唯其犯罪ニノミ適用ス可キ者ニテ假令裁判ヲ以テ喚起シ顯明ニスルヲ得可シト雖モ犯罪ト犯人トヲ連繫スル繩索ハ勿論犯罪ノ事實ヲ發露シ保維スルノ權ヲ擲棄スルノ義ナリ大赦ハ事實ヲ隱蔽シ之カ證明ヲナス可カラザラシムルガ故ニ唯之ヲ不問ニ置クノミニ非ズ全ク之ヲ忘棄スルヲ約ス者ナリ其或ハ犯人ヲ利シ猥リニ法網ニ脱レシムル如シト雖モ是レニ間接ヨリ生ズル者ニテ犯人ヲ裁判セザルヲ以テ此レ犯人ノ爲メニ施行スルナリ或ハ之ヲ裁判スト雖モ當時ノ事情ニ因リ疑ハシトシテ裁決ヲ避ケタルナリトハ謂フ可カラズ刑罰ヲ行フハ大概チ其利益アルニ出ルト雖モ時アリテ之ヲ行ハザルヲ得可キナリ又既ニ審理ヲ經反對ノ證ヲ舉グ可カラザル推測ヲ以テ

確實ト定メタル裁判ヲ施行スルハ即チ其利益アルニ因ルト雖モ亦時
アリテ之ヲ要セザルヲ得可キコアリ而シテ裁判ヲ確實ナリト定ムル推
測ニハ寸毫ノ妨礙ヲ招カザル可シ是レ自ラ悔悟シ善ニ還リ功勞ヲナ
セシ罪人ニ付テ宜ク刑ヲ寛ニスベキ所以ナリ

モンテスキ
ウ及ビフキ
ランジエリ
ノ説

是ヲ以テ政府ニハ刑ヲ赦免シ或ハ之ヲ輕減スルノ權アリトス
モンテスキウ云クフランジエリハ特赦狀ニ付テ難駁セシ所アリト雖
モ其議論ノ結末其駁スル所ニ違フ者アリ特赦狀ヲ附與スルハ實ニ立
憲政府ガ至良ノ方法タリ國君ニ於テ赦免ノ權ヲ有シ施行其宜キヲ得
ハ至美至善ノ効アル可シト
カント以爲ラク人民間ノ犯罪ニ付テハ國君特赦ノ權ヲ行フ可カラズ
若シ其之ヲ行フコアラハ是レ犯人ノ利益トナリ被害人ノ損害トナリ
テ不正ノ所以タル可シト然レモ刑罰ヲ行フモノハ被害人ガ利益ノ爲

ギゾー氏ノ
説

メニ非ズ唯社會ノ利益ノ爲メニシテ而シテ國君ハ社會ノ希望スル所ヲ
判定スル者ナリ
特赦ハ大赦ト異ナリテ直接ニ犯人ニ施スモノニテ罪狀既ニ確定セル
者既ニ刑名ノ言渡ヲ受ケタル者ニ名ヲ指テ與フル所ノ恩惠トス而シテ
其處刑ハ執行セズト雖モ之ガ爲メニ全ク廢滅セズ
ギゾー氏特赦ノ權ヲ論シテ云ク初メ社會ハ正義ニ需用スル所アリト
雖モ人意ハ原來濫恣ヲ免レザル者ニテ之ヲ規定スルノ全權ヲ附與ス
可キニ非ザルヲ以テ其擅漫ニ流レンコトナ慮リ乃チ一定法律及ビ獨立
裁判官ヲ設爲シ百方以テ裁判上各自ノ私意ニ流レンコトヲ防抑シ預メ
正義ヲ記載シ預メ裁判官ヲ牽制セント試ミタリ是ノ如クシテ大ニ此
弊ヲ矯正シタリト雖モ眞理ノ萬般ニ涉リテ制限ナキ固ヨリ擧テ之ヲ
明ニスルコト得ズ事物ノ得テ知ル可カラザルノ性質アル固ヨリ擧テ

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

之ヲ法律ノ條款ニ掲出スルヲ得ズ故ニ初メ防制セントシタルノ私
 意モ今ハ乃チ之ニ頼ラザルヲ得ザルニ至リ人心ノ全カラザルガ爲ニ
 法律ヲ詳密ニシタル如ク裁判ノ全備シタルガ爲メニ又人意ヲ假ラザ
 ルヲ得ザルニ至レリ左ノ註ヲ參是ヲ以テ人性ノ微力ニ免レザルノ私
 意ハ一旦之ヲ危殆ニ附シタリト雖モ復タ之ヲ用ユルニ至リ而シテ地球
 上未ム可カラザル無過無誤ノ裁判者無キヲ以テ法律ニ於テ規定セシ
 ガ爲メニ牽制シタル自由ヲ法律ト俱ニ行フニ決セリトパンジヤマン
 所シギゾノ氏ノ如ク進ハセズ何刑ヲ以テ罰スト定ムルニ於テハ正義ニ適
 可シク之ヲ解釋セバ何所爲ハ刑ヲ以テ罰スト定ムルニ於テハ正義ニ適
 適フアリ得ヘシ然レモ特別ナル一箇ノ事件ヲ罰スルニ於テハ正義ニ
 シト雖モ實際之ニ異ナル者アリトモ亦特赦ヲ以テ一般ノ法律ノ誤謬
 調和スル者ニ異ナラズト云フクモ亦特赦ヲ以テ一般ノ法律ノ誤謬ヲ補
 トセリ○ミツテ○トイフ亦云ク特赦ハ場合ニ因リテ或ハ之ヲ補フノ義
 創傷ヲ醫治スト○トイフ亦云ク特赦ハ場合ニ因リテ或ハ之ヲ補フノ義
 其眼ノ非ズ又法律ノ不全ヲ正スルニ當リテ或ハ之ヲ補フノ義
 法者之ヲ源滅セザル可カラズ而シテ其改正スルヲ得可カラズ蓋シテ法律
 者須ラク之ヲ立

當ス可シ故ニ余輩ヲ以テスレバ行政ノ長官ハ陪審ト均シク死刑ヲ廢スル可キ
 シアリト雖モ實際佛國ニ於テハ行政ノ長官ハ陪審ト均シク死刑ヲ廢スル可
 シタル數ニ比スレバ大ナル差別アリ是レ世論ノ進向スル所ヲ徵スルハ之ヲ
 行

余ハ此說氏ノゾ一ヲ可トスルヲ得ズ私事重罪ニ於テ特赦ヲ以テ裁判ノ
 誤謬或ハ其過嚴ニ基クトスルハ余之ヲ信セザルナリ蓋シ裁判其當ヲ
 失シタル時ハ特赦ハ或ハ藥劑トシテ之ヲ用ユ可キモ是レ其眞ノ目的
 ニハ非ザルナリ若シ然ラズシテ之ヲ眞ノ目的トナサバ則チ特赦ハ處
 刑ヲ消滅スル効ナカル可カラズ假令之ヲ消滅スル効ナキモ之ヲ矯正
 スル効ナカル可カラズ果シテ然ラハ是レ特赦ノ權ヲ使用スルモノニ
 非ズシテ之ヲ擅用スルモノナリ苟モ之ヲ擅用セハ法律ノ權力或ハ法
 律ノ善美タル可キ信用ヲ減殺シ裁判所若シハ法律ニ改正ス可キ缺典
 アルヲ示シ全權ヲ以テ諸般ノ刑事ヲ檢査ス可キ新裁判所ヲ設爲スル

モノコシテ而ノ其行政上ノ審査及ヒ其手續ニ於テハ一モ通常裁判所ニ於ケルガ如キ至良ノ保護ナカル可キナリ

下文ニ擧ル所ノ名家ノ言ハ唯國事犯ニ於ケル特赦ノ權ノミニ適合ス可キニ非ズシテ凡ソ施行其宜キヲ得ル特赦ノ權ニ當ツルヲ得可シ曰ク特赦ハ裁判官ノ誤謬ニ基クニ非ズ又法律上ノ點ニ於テ其論決ノ不當ナル嚴刻ニ基クモノニモ非ズ裁判官ノ威權ハ之ガ爲メニ決シテ妨礙セラル可キニ非ズ而ノ慈悲ノ慣習ハ陪審若クハ裁判官ヲ苛嚴ナラシメザルノミナラズ却テ之ヲ十分ニ自由ナラシムル所アリト推測スルコトヲ得可シト

第五世紀ヨリ第十一世紀迄ハ大赦及ビ特赦ヲ數行フ可カラザルノ情實アリキ蓋シ各人ノ身體及ビ所有物ニ對シ犯ス所ノ罪即チ當時私事重罪ト稱セシ所ノ者ニ付テハ政府直チニ之ヲ罰セズ被害者若クハ其

歴史○第五
期ヨリ第
十一世紀迄
ノ事情ヲ論
ズ

親族ノミ之ヲ訴フルノ權ヲ有シ其目的タル之ガ賠償ヲ要求スルノミニ在リ而ノ其賠償ハ民事ノ償ト罰金ノ如キ刑トチ兼チタルモノナリ又其國庫ニ納ム可キ者之ヲフレドムト云フ政府ハ直接ニ社會ノ爲メニ罪人ヲ罰セザレモ全ク法律無キ各自ノ刑罰ノ不規則及ビ暴虐ヲ防ガンガ爲メニ被害者ノ所爲ヲ容易ナラシメ且保護スルガ故ニ其干涉ノ禮金ノ如キ者トシテフレドムヲ徵收セリ是ノ如キガ故ニ私事重罪ニ付テ大赦特赦ヲ行フハ乃チ被害者及ビ其親族ノ權ヲ干侵スル者タレバ到底フレドムニ非レバ之ヲ適用スル能ハザリキ然レモ君主ノ權或ハ身體ヲ害セシ重罪ニハ大赦若クハ特赦ヲ行ヘリグレゴワールド、トールノ言ニシルベリック(按シルベリックハ第一世クロテールノ太子ニシテ百六十四年ニ組ス同ノ子生ル、ニ當リ國庫ニ納ム可キ諸罰金ヲ釋免シ囚人ヲ解放シタリト云ヘリ是レ蓋シ眞ノ大赦ト謂フ可シ又此史家ノ

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

言ニクロウ^ス(按)百六十五年ニ佛國立^{君政ノ祖ナリ}紀元四〇〇年ニ創^ス嘗テ害君主ノ刑ニ處セラレタル者ヲ特赦セリトモパン、シヤル、マ、ギ、ユ、ル、イ、ル、デ、ボン、チールシヤル、ハ、ル、シヤウ^グ皆佛王紀元七百四十年ヨリモ亦害君主ノ罪ニ付テ特赦ヲ行ヒシヨアリト云フ

第十一世紀ヨリ第十三世紀ニ至ル迄ハ官ヨリ罪ヲ治スルハ例外ニシテ私事重罪ノ懲罰ハ尙ホ私事ノ性質アリシガ故ニ未ダ大赦特赦ノ權ヲ以テ主權ノ附屬トスルヲ能ハザリキ蓋シ主權ノ本體タル所領ヲ統轄管理スルニ在ル可キナレトモ當時ニ於テハ所領ヨリ生シ所領ニ限レル地主權ノ存セシノミナレバ所謂公同主權ナル者ハ未ダ成立セザリシナリ然レ^モゴ^フ氏ノ言ニ云ク眞ノ封建時代ニ於テハ本來立法權ハ全備セシナリト謂フ可シ現ニ貴族ニ於テ刑權ト均シク特赦ノ權ヲ有セシニ非ズヤ^ハ然ルニ第十三世紀ヨリ第十六世紀ニ至ルノ間ニ於テハ刑罰ニハ社會復讐ノ性質アリ王室ヨリ其裁判所管内ノ犯罪ト否トヲ論ゼズ皆之ヲ

第十一世紀ヨリ第十三世紀迄ノ事情ヲ論ズ

第十三世紀ヨリ第十六世紀迄ノ事情ヲ論ズ

負債ト看做シ公益ノ爲メニ刑罰ヲ施セシガ故ニ國王ニ於テ管掌スル所ノ此公益ノ名義ヲ以テ其刑罰ヲ廢棄スルヲ得タレバ實ニ此一期間ニ於テ王室ハ數大赦ノ典ヲ行ヒタリ一千三百五十八年八月十日ニ於テ攝政シヤル、ハ一千三百五十六年十月以降其權ニ對シ犯セル重罪ニ付テ廢止ノ名ヲ以テ巴里府住民ニ大赦ヲ行ヒ第五世シヤル、王ハ一千三百七十二年十二月十五日ヲ以テポワトリアングーモワセント^ンシ^ユ諸州ノ王室ニ服從可キ條約ヲ締結セシメ前重罪ヲ犯シタル者ニ大赦ノ狀ヲ附シ一千四百四十八年五月第七世シヤル、王ハラング^ド州ノ住民ニ一般廢止ノ令ヲ施シ又同年同月ベリゴール州住民ノ戰爭中重罪輕罪ヲ犯シタル者ニ廢止ノ令ヲ布ケリ第十六世紀以降一千七百八十九年迄ハ刑罰ハ社會復讐ノ器具上帝復讐ノ器具ト恐怖セシムル方法トヲ兼備セル者タリテ王室ハ社會主權

第十六世紀ヨリ一千七百八十九年迄ノ事情ヲ論ズ

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

ヲ掌握シ又宗教上ノ主權ノ幾分ヲ獲タリシナレハ其二箇ノ名義ヲ以テ大赦特赦ノ權ヲ併有セリ其社會主權ヲ有シ且羅馬王權ノ如キ專政王權ヲ享承セシガ羅馬王權ニ於テハ全廢ノ權アリシヲ以テ當時ノ王室モ亦之ヲ施行スルヲ得タリキユシヤ有名ナル法學士ニシテ一千九十年ニ卒スノ言ニ曰ク悉皆赦免ノ權ハ處ス可キノ刑若クハ既ニ處シタル刑ヲ免除シ罪犯ヲ罰セザラシメ罪ヲ訴フル者ヲシテ永ク復タ其罪人ヲ訴フルヲ得ザラシメタリト又王室ハ地界ニ於テ上帝法ヲ衛護シ之ヲ犯ス者アラハ復讐ス可キノ權アルヲ以テ亦上帝ノ復讐ヲ地界ニ行ハザルヲ得可キノ權アリシ者ノ如シ

有名ナル著述家ホデンナル者ハ死刑若クハ宗門法ヲ犯セシ罪ニ付テ廢止ノ權ノ王室ニ屬ス可カラザルヲ論シ此權ノ區域ヲ狹縮シ民法ノ違警罪ニノミ適用ス可シト云ヘリ然レモ此說行ハレズ密輸入、脱走、背

教、異教ノ重犯ニ付テモ亦大赦ヲ行ヒシトアリ

一般廢止ハ何人ヲ論セズ輕罪ヲ犯シタル者ニ行フ可キガ故ニ乃チ大赦ト異ナル所ナシ

然レモ一旦刑ニ處シタル後之ヲ行ヒ其刑ヲ消滅スルヲ無ク更ニ恥辱ヲ加ヘタル時ハ集合特赦ノ區別ハ甚タ較著ナリシト雖モ古ヨリ未ダ刑法家ノ之ヲ詳明シタル者アルヲ見ズ

各箇廢止ハ一定犯人ニ施ス可キ者タレバ即チ特赦タリ

ムーランノ王命第二十二條一千五百六十六年 王命第一千五百七十九年ニ於テハ廢止狀ヲ濫用スルノ非ナルヲ載セ一千六百七十年ノ王命第十六章ニハ此廢止權ヲ規定シ或ル重罪就中決闘、謀殺、暴行、劫掠、審問中裁判官若クハ裁判所ノ官吏ニ對シ不敬ヲナセシ罪ニ付テハ王家ニ於テ廢止ノ權ヲ行フ可カラズトセリ議長ド、ラモワギヨン氏此權ノ事ニ付キ討議

一千七百九十年ノ刑法

スルニ當リ之ヲ以テ主權ノ附屬トナシ裁判權ノ附屬ニ非ズトセリ其言ニ曰ク廢止ナル語ハ無上強力ノ一符號ニシテ法律ヲ左右シ公同復讐ノ効ヲ停止セシム廢止ハ即チ命令ニシテ裁判ニ非ザルナリト

一千七百九十一年ノ刑法ハベックリア、ルイシーノ所説ニ據リテ編纂シタル者ナルガ故ニ第六章第十三條ニ於テハ凡ソ倍審ニテ審判ス可キ重罪ニ付テ特赦、釋恕、廢止、釋免、減刑ノ如キ刑事裁判ヲ防制シ若クハ停止スル處置ヲ禁シ又其立法者ハ廢止狀ナル語ヲ大赦ニ適用セス一旦刑ニ處シタル後施行ス可キ集合特赦ニ適用セリ其意以謂ラク是ノ如キ權ヲ施行スルハ甚タ危殆ヲ生シ王權即チ行政權ヲ減殺シ刑罰正當ノ基礎ナル約束ノ義ト能ク相適ハザル可シト蓋シ其所謂約束ハ主權ノ被託者ガ代理スル全社會ト其社會ノ各員トノ間ニ締結セシモノニテ王權一箇ニテハ主權ヲ成サズ唯社會權ノ一元素ニ過ギザレハ群集

當時ノ學士ハ此事ニ付ハ實際ニ付何ナル所見

ノ爲メニ契約上ヨリ生シタル諸權ヲ擲棄スルノ權利アル可カラズ然レニ立法者ハ自家ヲ束縛スルコトナク若シ會社上利益アルニ於テハ法律ノ所爲ヲ停止スル權アル可シト定メタリ

ルイシーハ「コンスタ、ユアント」政府ノ根源ヲ開キタリト雖ニ裁判官ノ決定ニ付テ立法者ガ願慮セザル所アルヲ不可ナリトセズ其論ニ云ク特赦ヲナシ或ハ法律ニ循ヒ裁判官ニ於テ言渡シタル刑ヲ罪人ニ免スノ權ハ裁判官ト法律トノ上位ニ在ル者即チ國君ニ非レハ之ヲ有セズ又國君ニ於テ之ヲ行フト雖ニ尙ホ全ク其當ヲ得タリトス可カラザル者アリ且之ヲ行フノ場合ハ甚ダ稀レナル可シト

是ニ由リテ之ヲ觀レバルイシーハ特赦ニ不適當ナル名ヲ用テ立法上ノ廢止即チ大赦ヲ可ナリトセリ此説タルベンサムト同説ニシテ特赦ヲ以テ擅權トナシ之ヲ不可ナリトナスト雖ニ然レニ大赦ハ政事上必

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

要ナルコトアリテ假令大赦ヲ行フモ法律ヲ犯スモノニ非ズシテ之ヲ執
行スル者トセリ

以上論ズル所一千七百九十一年ノ刑法布告前後ノ學士ノ理論ニ據リ
其第六章第十三條ノ義ヲ釋解セリ

今實際ニ付テモ亦至長ナル據ル可キ者ナキニ非ズ實ニ一千七百九十
一年ヨリ一千八百年ニ至ル迄ハ政府ニ於テ數多ノ大赦ヲ行ヘリ

タンエリ及ビビロニス
氏ノ著書ヲ參看ス可シ

共和第十
年十一月十
六日元老院
ノ議決

共和第十年十一月十六日ヲ以テ元老院ハ一等岡士ノ爲メニ特赦ノ
權ヲ設定シタリト雖此之ヲ行フニハ先ツ高等裁判官一人宰相二人元
老議員二人内閣議員二人ヲ招集シテ内會議議ヲナスノ規則ナリキ
然レモ一等岡士^皇ハ彼ノ十年十一月決定ノ規則ヲ履ムコトナク大赦
及ビ特赦ヲ行ヘリ

一千八百十
四年ノ大詔

一千八百十四年ノ大詔ニ於テ國王ニ特赦ノ權ヲ附セリト雖此大赦ノ
權ニ付テハ記載スル所無カリキ^{及ビ}モ^{減刑ノ}權ヲ有スト此事項タル至長ナ
リト雖此^ニ記シタル如キ者ヲ觀レバ唯古例ニ適合セント欲シ而シテ古法ノ義
ニ於テ特赦ノ權ハ立法上ノ命令ニ行ヒタル抗^拒ニ等シキ裁判上ノ命令ニ適用
セル者タルヲ知ラザリシナリ凡ソ法律ハ國王ヨリ出ルヲ以テ國王ハ立法局ニ
テ決定スル者ヲ抗^拒スルノ權ナカル可カラズ茲裁判權ハ亦國王ヨリ出ルヲ以テ
國王ハ亦裁判所ニテ決定スル者ヲ抗^拒スルノ權ナカル可カラズト同時ノ著述
家フ^井エウエ^イ云ク佛國古例ニ於テハ特赦ノ權ノ必要ナルヲ實ニ今日ノ比ニ非ス
如何トナレバ佛國古法ハ歌羅巴諸國ノ過半ニ於テ尙ホ履行スル制ノ如ク純
專實ノミヲ問ヒシ故ナリ當今ニ至リテハ事實ヲ決テ尙ホ履行スル者ハ意思ヲ
上^帝ニ^ノミ^ヲ屬^ス可^キ權^ヲ行^フト雖此古法ニ於テハ社會ノ利益ノ爲メニ陪審ニ
權^ヲ王^家ニ^委任^ス可^キ權^ヲ行^フト雖此古法ニ於テハ社會ノ利益ノ爲メニ陪審ニ
遷^移シ^テ限^界ヲ^狭ク^シテ^實際^ニ於^テハ^意思^ニ依^リテ^權限^ヲ擴^大ス^ル可^キニ^至レ^リト

帝國憲法追
加ノ事

帝國憲法追加ノ布告第二十二條ニ於テ行政權ノ爲メニ決定シ大赦ハ
帝ノ專權ニ委ス可シト明言セリ

一千八百三
十年ノ大詔

一千八百三十年ノ大詔ハ一千八百十四年ノ詔命ノ如ク特赦ノ權ヲ以
テ王權ノ附屬トナスト雖此大赦ニ付テハ規定スル所ナカリキ然レモ

大赦並特赦ヲ論ズ

二百二十一

若シ大赦ヲシテ區域ノ廣キ特赦タラシメハ之ヲ附與スル權ハ行政權即チ國王ニ屬ス可ク簡略ナル王命ヲ以テ之ヲ施行スルヲ得可シ又若シ之ヲシテ實際法律ノ性質及ビ其効果アラシメバ則チ立法權ヲ以テノミ之ヲ布告スルノ權アル可シ

レストーレシヨソ政府及ビ七月ノ立君政府ノ時代ニ於テ大ニ議論ヲ生シタリシガ實際ニ就テ之ヲ觀察セバ現ニ諸官ノ意見ヲ經ズシテ大赦ノ名ヲ以テ犯人ヲ赦免セシムアルガ故ニ其事實ヲ以テ此問題ヲ決ス可キガ如シト雖モ數集合特赦ニ大赦ノ名ヲ附シ其効ヲ既往ニ及サシメズ又犯罪人ヲ探索セズ若クハ其訴ヲ停止セシムルニ付テ十分大赦トス可キ布告ニモ大赦ノ名ヲ附セザリシヨアリ但シ其布告ハ政府ト其布告ノ益ヲ受ル者トノ間ニ於テ將來ノ關係ノミヲ規定シタルガ故ニ決テ之カ爲メニ他人ヲ害スルヲナケレバ其迷惑ヲ訴フル者ナカリキ

一千八百四十八年十一月十四日ノ憲法第五十五條

一千八百五十二年一月十四日ノ憲法

一千八百五十二年十二月三十日ノ元老院議決ハ即チ

政官ニ委シ其施行ニ付テハ參議院ノ意見ヲ問ハザル可カラズトシ而シテ大赦ノ權ハ之ヲ立法官ニ任附セリ

一千八百五十二年一月十四日ノ憲法第八條第九條ニ於テハ大統領ニ特赦ノ權ヲ附シ大赦ニ付テハ自餘ノ法律ノ如ク唯之ガ發意ヲナスノ權ヲ與ヘタル者ノ如シ

然ルニ一千八百五十二年十二月二十五日、三十日ノ元老院議決ハ即チ右ノ憲法ヲ解釋修正シタル者ナルガ其第一條ニ於テ特赦大赦ノ二權ヲ併セテ皇帝ニ附與セリトロ、ン氏ガ法案説明書ニ云ラク此第百條ハ實際ヨリモ理論ニ係レル公法ノ一難題ヲ決定セリ顧フニ佛國古來ノ立君政體ニ於テ非常ノ障礙ナキニ非ズンバ大赦ノ權ヲ以テ國君ニ

大赦ハ法律ノ性質ヲ失フ
トシテ平○ノト
ロハ○氏ノ
設○論

屬ス可キノ權ト看做セリ而シテ皆此權ヲ使用シタルヲ以テ之ヲ有セザルヲナカラント
右第一條ハ特赦大赦ノ權ハ本來行政權ニ屬ス可キヤ又ハ立法權ニ屬ス可キヤノ問題ヲトロ、ン氏ノ思考ノ如ク決定ス可キ者乎是レ甚ダ信ヲ措キ難キノ説ナリ蓋シ特赦大赦ヲ與フルハ特別法ニシテ全ク時ノ便宜ニ出ルモノナレハ之ヲ諸人ノ討論ニ附スル時ハ或ハ異議ヲ生ズル等アリテ遅延スルヲ無キニ非レバ第一條ニ於テ此特別法ヲ施スチ皇帝ニ委任シタルノミ平
假令立法官ノ審議ヲ經ズ大赦ハ即チ法律トセバ必ズ法律タルノ諸効ヲ生ズ可ク又若シ之ヲ行政官ヨリ出ヅ可キ一處置トセバ如何ナル明文ヲ載スルアルモ決テ生ズ可カラザルノ結果ナル者アル可シ然ラバ則チ其理論ハ管轄上ニ係ルニ非ズシテ大赦タル事ノ區域廣狹ニ係

暫ク問題ヲ一方ニ置ク

ルモノナリ
是ノ如ク論シ來レバ余ハ之ヨリ進テ討究セザル可ク唯茲ニ此問題ヲ舉ルニ止マル可シ下文特赦大赦ノ諸効ヲ解説スルニ當リ其如何カ決定ス可キハ讀者必ズ能ク自得ス可シ
國民會ハ一千八百七十一年五月十七日二十一日ノ法律ヲ以テ大赦ヲ行フハ必ズ法律ヲ以テス可シト公告シ特赦ノ權ハ行政長官今日ハ佛國共和政大統領ニ委託シタリ此年二月十七日四月十四日ノ法律ヲ以テ國民會ハ既ニ行政官ヲ設立シ此官ニ必須ナル諸職掌ヲ委テタルヲ觀レバ右ノ委託ハ蓋シ冗贅ニ屬ス可キガ如シ
或ル人ハ云ク行政長官ハ元ト委託ヲ受クル者ニテ解職ス可キヲアリト曰ク固ヨリ解職ス可シ然レ其解職ス可キヲ以テ行政官ノ諸特權ノ總委託ヲ十分ニ受ルニ非ズ別箇ノ委託ヲ增加シ從來一分掌中ニ合

大赦並ニ特赦ヲ論ス

區別

何ヲカ特赦ト謂フ

何ヲカ大赦ト謂フ

蓄スル者ヲ各權毎ニ明舉セサル可カラズトスルヲ得ス
國民會ニ於テ有罪ナリトシタル宰相及ビ其他ノ官吏若クハ有位ノ者
ニ付テ國民會ハ之ガ別箇ノ規則ヲ設ケ又一千八百七十一年三月十五
日以降巴里府及ビ其他諸縣ニ於テ不軌ヲ企タルニ因リ法律ニテ重罪
ト云フ犯罪ノ爲メニ刑ヲ受クル者ハ行政長官及ビ其推舉シタル十五
委員ニ於テ異議ナキニ非レハ特赦ス可カラズト定メタリ
今特赦大赦ニ付テ二件ヲ討究セン

第一 特赦トハ何ツヤ大赦トハ何ツヤ

第二 特赦ノ効ト大赦ノ効トノ差別ハ如何

特赦トハ既ニ言渡シタル刑ノ全部若クハ一分ヲ釋免スルヲ謂フ此義
解ハ大概人ノ中トスル所ナリ
大赦トハ何ツヤ其義解ハ許多アリ

ルグラブラン氏云ク大赦トハ國君ノ作爲ニテ特別ニ指示セル或ル重
輕罪ヲ記念セズトシテ之ヲ赦ヒ裁判所ヲシテ復タ其犯人ヲ捕拿ス可
カラザラシムルヲ謂フト

此義解駁ス可キ所ニアリ

第一 此說ニ據レバ訴ヲ起シ刑ニ處ス前ニ非レバ大赦ヲ行フ可カ

ラズトセリ大赦ハ固ヨリ既ニ始メタル訴ノ手續ヲ防制シ又既ニ

言渡シタル刑ヲ廢滅ス可シルグラブラン氏モ時アリテ大赦ハ既

ニ宣告シタル裁判ヲ廢止ス「ト云フヲ觀レバ亦之ヲ確認シタルハ

明カナリ

第二 ルグラブラン氏ノ義解ニ據レバ大赦ハ罪人ニ行フ可キ者ト

セリ然レモ大赦ナル者ハ斯ノ如キ者ニ非ズシテ犯人ト犯罪トチ

連繫スル關係ハ勿論犯罪ノミノ舉證ヲモ禁止シ若クハ無効ニ屬

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

ヒシムル者ヲ謂フ

マンゼン氏ドニザールガ新編纂書ニ載セタル者ヲ原文ノ儘掲出シテ云ヘラク大赦トハ君主ノ若シ大赦法律ナラバ國君 作為ニシテ犯罪ノ性質ヲ以テ指定セル數多ノ罪人ニ付テ訟求ヲナシ又ハ其訟求ヲ繼續シ若クハ處刑ヲ執行スルヲ防禁スルヲ謂フト

此義解タル亦ルグラブラン氏ノ義解ニ就テ既ニ辨駁シタル所ノ瑕瑾アリ即チ其基ク所罪人ヲ罰セザラシムルニ在リ蓋シ大赦ナル者ハ處刑ノ執行ヲ防禁スルノミナラズ全ク處刑ヲ廢滅シ處刑ヲ以テ原因ナシト看做スナリ

シユベン氏ノ說ハ詳密ヲ極ムト謂フ可シ曰ク大赦ハ主權ヨリ出ル作為ニシテ其効ハ或ル犯罪ヲ消滅シ忘失セシムルニ在リト然レハ此義解ニ據レバ過失ヲ消滅スルガ故ニ責テ免ストスルヲ以テ

其基ク所犯罪ト刑罰ノ責トニ在レバ亦誤謬ナリト謂ハザルヲ得ス余輩ハ大赦ヲ是ノ如ク義解ス曰ク大赦トハ主權ノ作為ニシテ犯罪ヲ確實ナラシメンガ爲メノ訟求ヲナシ又ハ繼續スルヲ防止シ又假令其犯罪ヲ確實ナラシムルモ尙ホ不明瞭ニテ社會ハ此ニ信ヲ措キ難シト推測スルヲ謂フト

特赦ト大赦ト異ナル處如何

ド、ペイロン子一氏云ク特赦ハ判然罪アル者ニ施ス可キ者ニシテ大赦ハ或ハ罪アル可キ者ニ行フモノトスト

蓋シ特赦ハ有罪者ニ行フ可ク又復タ上告ス可カラザル確定處刑人ニ施ス可シ然レモ抗傳處刑ハ犯人故意ニテ縛ニ就クカ或ハ其首出スルコアルキハ爲メニ破滅ス可キ者タルニ因リ特赦ノ及ブ所ニ非ズ如何トナレバ特赦ハ罪狀確證アル者ニ施ス可キモノナルニ抗傳處刑ニ付

特赦ト大赦ト異ナル所ヲ論ズ

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

集合特赦ハ
大赦ノ性質
アル乎

テハ一定ノ證據アルニ非ズ唯之ヲ假定スルニ過キザレバナリ
 大赦ハ罪狀ヲ知ル可カラズトスルニ非ズ之ガ確證ヲ得可カラズトス
 ルニ在リ處刑ノ前後ニ之ヲ行フ可キモノトス
 特赦ハ人ニ因ルモノニテ一犯人或ハ數多ノ犯人ニ施ス可キヲ以テ之
 ヲ主犯ニ行ヒ從犯ニ及サズ或ハ從犯ニ行ヒ主犯ニ及サバ爾ヲ得可シ
 又特赦ハ集合タルヲ得テ一種若クハ數種ノ犯罪ニ因リ刑ヲ受ケタル
 者ヲ悉皆赦免スルコトアリ
 大赦ハ毎ニ集合タラザルヲ得ズ又事ニ隨ヒ所爲ニ施スモノニテ其結
 果ニ因ルニ非レバ犯人ヲ蔽庇セザルナリ然レモ法律ニテ定メタル犯
 罪ノ證ヲ擧グ可カラストスルガ故ニ主犯者從犯者ヲ論セズ凡ソ刑罰
 ヲ受タル者ハ皆其保護スル所トナル可シ
 特赦ハ自今以來ト云フ義ニテノミ施シ既往ノ事ヲ消滅セズ唯將來ニ

ノミ權力アリトス

モンテスキ
ウノ見解ニ付

モンテスキウハ若シ君主罪犯ヲ裁判スル時ハ其主權ニ至良ナル附属
 タル特赦ノ權ヲ失フ可キガ故ニ決テ之ヲ裁判ス可カラズト言ヘリ然
 ルニ之ヲ増補スルノ言ニ云ク君主ハ裁判ヲナシ又之ヲ破却スト云フ
 理ハアル可カラズ君主ハ自家撞着スルヲ欲セザル可シト此末尾ノ說
 ハ其當ヲ得ズ特赦ハ裁判ヲ破却シ又之ニ牴觸スル者ニ非ズ
 大赦ノ効ハ既往ニ及ビ犯罪ヲ確實ナリトスル推測ヲモ慮ナラシメ既
 ニ宣告シタル處刑ヲ廢滅ス
 特赦ヲ被ムル者ハ主刑ヲ免ルト雖モ處刑ノ確定ニ因リ生ズ可キ所ノ
 無能力剝奪公權及ビ監視ノ刑ノ如キハ之ヲ受ケザル可カラズ准死ノ
 未ダ廢セラレザル前ニ於テハ豫メ之ガ執行ヲ防止スル旨ヲ記載セザ
 ル時ハ之ヲ受ザルヲ得ズ又其効ヲ既往ト將來トニ及セリ註ヲ參看然

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

レ法律上ノ禁ハ受ルヲナシ其故ハ若シ施體ノ刑ヲ受ク可キ者刑ヲ
 輕減セラレ懲治刑ヲ受クル時ハ法律上ノ禁ニ處セラレ、トナキニ由
 ル剝奪公權及ビ監視ハ眞ノ刑罰タルヨリ寧ロ無能力トス可キモノタ
 ルヲ以テ治罪法第六百二十條特赦狀ニ明文ナキ以上ハ主刑タル剝奪公權及ビ
 監視ニ付テハ其効力ナカル可シ赦ベキソノ被ムル者ハ向後血縁ノ腐敗ヲ回復ス
 可シ其言ニ云ク若シ國王ヨリ釋免ヲ受タル者後ニ至リテ子アル時ハ其子相續
 人タルヲ得可シ是レ其父ハ更ニ人トナリシガ故ニ清淨ニセシ血縁ヲ轉移ス可
 キヲ以テナズト云フ此釋免ヲ受ケザル前ニ生レタル子ハ決テ之ガ相續人タル
 ヲ得可カラズト云フ此釋免ニ奇怪ト謂フ可シ考査多年精密改正シ以テ誇稱
 スルノ法律ニ至リテハ一見一聞以テ其能ク道理ニ適ヒ便宜ヲ得タルヲ知
 ルニ足ル可シト云フ右シヘフン、ベキソノ刑ニ處セラレタル者ハ向後死ヲ受ケ、
 七月四日ノ法律ハ背叛或ハ重罪ニ因リ刑ニ處セラレタル者ハ向後死ヲ受ケ、
 血縁上ノ諸權ヲ失ヒ、財產ヲ沒收セラレ、トナカル可シ但シ財產ヲ法律外ニ置ク人處分ノ沒收ノ
 場合ニ於テハ此限
 大赦ハ全ク處刑ノ權ノ權力ヲ奪ヒ其全體ヲ滅却スルガ故ニ毫モ其跡

ヲ遺サシムルヲナク其悉皆滿全ナル時ハ附加刑ナル諸無能力、剝奪公
 權、監視、準死ヲ消滅シ又處刑ノ宣告文中主刑トシテ無能力ヲ記載シタ
 ル時ト雖モ亦之ヲ消滅ス可シ

一旦特赦ヲ被ムル者其嘗テ受タル刑ノ確定シタル後更ニ罪ヲ犯ス時
 ハ其嘗テ受タル刑ノ執行ナキガ故ニ刑罰ノ無効ニ屬スル確證ナシト
 雖モ之ヲ再犯人ナリトス
 然レモ大赦ニ因リ其刑消滅シタル者ハ假令其後ニ至リテ罪ヲ犯スモ
 之ヲ再犯人トセズ

第二十五章

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

特赦大赦ノ區別ハ既ニ之ヲ前章ニ論セリ今其區別ハ現今ノ憲法ニ於
 テ漸ク將サニ消滅セントスル乎大赦ニ付テハ復タ立法官ノ評議ヲ須
 タザルガ故ニ其區域ヲ減少シ現ニ二三ノ關係上ヨリセバ僅カニ特赦

別轉移及ヒ區

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

特赦ハ既得ノ權ヲ害セズ
大赦ハ如何

ノ効アルニ過ギザル乎之ニ反シテ特赦ハ准死ノ廢止ニ係レル一千八百五十四年五月三十一日六月三日ノ法律ニ因リ大赦ノ數効ヲ有スルニ至リシ乎特赦モ大赦モ皆行フ可カラザル乎又之ヲ行フニハ數多ノ要件ナカル可カラザル乎特赦大赦ノ効ハ不累加刑ノ元則ト如何ニ混合ス可キ乎之ヲ施行シ之ヲ釋解スルノ權ハ誰ニ屬ス可キ乎
是レ尙ホ此章ニ於テ講究セザル可カラル所ノ緊要ナル問題ナリ
此問題タル固ヨリ要切ナルモノニ屬シ既ニ前章ニ提舉セル諸ノ原則ヲ鞏固ニシ詳細ニスルニ資スル所タルガ故ニ精密ニ之ヲ論ゼザル可カラズ
特赦ハ既往ニ及ブ可カラザルヲ以テ固ヨリ他人ガ既得ノ權ヲ害ス可カラズ
大赦ハ乃チ既往ニ及ブ可キモノト雖モ其効ノ及ブ所ハ唯其益ヲ受ク

ル者ト有權者トノ關係上ノミニ在ル乎或ハ處刑執行ニ因リ更ニ權利ヲ享有ス可キ他人ニ迄其効ヲ及ス可キ乎例ヘバ血縁ノ者准死ニ處セラル、ニ因リ其相續ヲナサントスル者ハ之ガ爲メニ損害ヲ受ク可キ乎蓋シ不及既往ノ原則ハ法律中ニ記載セラレタリト推測ス可キモノナルガ故ニ大赦ニ法律タルノ性質アリテ之ガ明文アル以上ハ其効ヤ亦既得ノ權ニ及ブ可キモノトス然レモ若シ其大赦ハ行政上ヨリ出ヅ可キモノナラバ他人ノ權ヲ害ス可カラズ
故ニ若シ大赦ハ法律ニシテ明示スル所アル時ハ准死ニ因リ生ズ可キ婚姻ノ解約及ビ共通財産ノ分離ヲナサシメザル可ク又處刑人存在セサルニ因リ之ガ相續ヲナシタル者ヲ唯外形ノ相續人タリシノミトスルヲ得可シ但シ右ノ明文無キ時ハ是ノ如クセシムト看做ス可キ得ズ

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

大赦ニ因リ
民事ノ訴ハ
消滅スルハ

大赦ハ滿權ニテ婚姻ヲ復ス可シトシタル裁判ハ嘗テ大審院ニ於テ之
 ヲ破毀シタリト雖モ實際其夫婦雙方ノ者ハ其婚姻ノ破却シタルヲ以
 テ釋放自由ヲ得タリトセズ却テ大赦ノ有無ニ拘ハラズ依然共ニ住居
 シ他人ニ於テ婚姻繼續ヲ妨害ス可キ權ヲ得タルトナケレバ大審院ハ
 之ヲ事實ニ徵シタルナリ唯其攻撃ヲ受ケタル裁判ニ於テ婚姻ノ儀式
 ヲ再ヒ行フヲ要セズトシタルヲ不可リトセシノミ
 現ニ其後ニ至リテ大審院ノ前ト同一ナル義理ニ據テ他ノ判決ヲナシ
 タルヲ觀ルニ准死ヲ伴フ可キ執行アル刑ニ處セラレタル者ノ配偶者
 ヲ更ニ婚姻ヲナスヲ得可カラシメタリト雖モ大赦アルニ因リ新婚
 ヲ破却シ舊婚ニ復ス可シトハ決セザリキ
 大赦ハ公訴ノ權ヲ消滅セシムト雖モ亦他人ヲ民事ノ訴權ヲ失ハシ
 ム可キ乎是レ亦前ト同一ナル問題ニシテ大赦ノ法律タリ行政上ノ處置

タルヲ論セズ明文ナキ以上ハ私訴ノ權ハ依然ト存ス可ク而シテ若シ既
 ニ刑事裁判所ニ其私訴ヲナシタル時ハ主タル訴訟ノ消滅セシニ拘ハ
 ラズ裁判所ニ於テ必ズ之ガ處分ヲナサバハ可カラズ然レモ若シ大赦
 法律タル時ハ明文ヲ以テ私訴ノ權モ亦廢滅ニ屬セシムルコトヲ得可シ
 處刑後大赦ヲ行フ時ハ明文ヲ以テスルニ非ザレバ民事上ノ言渡ニ因リ他人ノ
 受ク可キ權ヲ害ス可カラズ政府ハ其處刑ノ原因ヲ以テ眞ニ正當ナルモノトセ
 ズ不明瞭テ處刑人ヨリ納メシム可キニ無効ニ屬セシメタルヲ釋免スルコトニ非
 ト雖モ決テ處刑人ヨリ納メシム可キニ無効ニ屬セシメタルヲ釋免スルコトニ非
 若シ刑ヲ釋免スルコトニシテ是レ刑前大赦ヲ行フ者ハ是レ其刑ノ蓋シトスルノ
 源ニ付テ公衆ノ意ヲ安ゼザル所アル付テ社會ニ於テ自認シタルヲ以テナリ又
 大赦ニ付テ公衆ノ意ヲ安ゼザル所アル付テ社會ニ於テ自認シタルヲ以テナリ又
 ハ一旦動搖セシト雖モ其名義ヲ以テテ社會ニ於テ自認シタルヲ以テナリ又
 カラズ刑罰及ヒ附從ニ屬スル財貨ニ係ル事件ノ如キ一切之ヲ擲棄ス可ク蓋シ
 其源因ヲ消滅シ既ニ其裁判ヲ經タル事件モ尚ホ其處分ヲ執行ス可カラズトセ
 其効果若クハ諸効ノ其一効ヲ存置ス可カラザルナリ若シ夫レ民事上ノ言渡
 ニ付テ大赦ニ非ザレバ明文無キ時被害者之ガ損失ヲ被ラザル可カラズ及
 公告知ルニ非ザレバ明文無キ時被害者之ガ損失ヲ被ラザル可カラズ及
 ナリ然リ而シテ政府ハ乃チ社會ノ名義ヲ以テ他人ノ感若クタルハ公益ノ
 非ズ其處刑ノ疑シキハ乃チ社會ノ名義ヲ以テ他人ノ感若クタルハ公益ノ

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

皇帝ヨリ布告シタル大赦ハ既ニ及ベキ乎

フリスナノ説トナ

ニリ其處刑ノ執行ヲ繼續スルヲ欲セザルモノナリ故ニ主
 余輩ハ大赦ヲ以テ注律トスルナリ如何トナレバ法律ヲ停止スルニハ
 必ズ主權上ノ作爲無キ能ハズ而シテ行政官ハ主權ヲ行フヲ得ズ然ルニ
 皇帝ニハ大赦ヲ施シ立法官ノ評議ヲ待タザルヲ得ルノ權アル者ハ是
 レ其權タル特別ナルニ因リ公明言ナル依托ヲ以テ皇帝ハ自ラ立法者
 ト國君ト兼ヌ可キガ故ナリ故ニ他人ノ權ニ及ブ可キ大赦ト雖モ皇
 帝ニハ之ヲ行フノ權アル可ク實ニ此點ニ付テハ皇帝獨リ公益ノ度ヲ
 制定ス可キ者ナリ或人ノ言ニ云ク皇帝大赦ヲ行フヲ欲スル時ハ是レ
 法律之ヲ欲スルナリト
 レストーラシヨソ政府及ヒ一千八百三十年ノ立君政府ノ時代ニ於テ
 右ノ問題ヲ議シタリト雖モ大赦ヨリ生ズ可キ平和靜寧ヲ致ス良好ノ
 方法ヲ行フハ如何ノ權ニ在ル可キヤノ點ヲ論ズルニ偏倚セシガ如シ

此點ノ如キ假令決定スル所アリテ王家ハ其權アリトスルモ之ガ爲メ
 ニ大赦ハ法律ノ性質ナク法律ノ効力ナシトスルヲ得ズ大赦ノ權ヲ
 行政上ノ限界ニ牽制セズ能ク之ヲ行政官ニ委託スルヲ得可シ
 フォースタン、エリーノ言ニ云ク大赦ノ權ニ由リテ起ル所法律ト其根源
 ヲ同フスルガ故ニ法律上ノ委託アルニ非ザレバ行政官ニテ之ヲ行フ
 ヲ得可カラズト
 特赦ハ處刑後ニ非ザレバ行フ可カラザルモノタルガ故ニ其各箇タリ
 集合タルヲ論ゼズ總テ行政官ガ通常ノ職掌内ニ係ル者トス是レ裁判
 執行ヲ固フスルハ行政官ニ屬シ治罪法第百七十八條第百七十六條法庭分掌ニ於テハ檢
 事官其行政權ヲ施スモノタルガ故ナリ然ルニ處刑及ヒ其諸結果ヲ廢
 滅スルガ如キハ實ニ行政權ノ領域ニ超過スルハ明ニ又捕拿ヲ禁止
 シ就中既ニ着手シタル捕拿ヲ繼續スルヲ禁ズルガ如キハ稍輕微ニ涉

大赦並ニ特赦ヲ論ズ

ルト雖亦行政權ニ超過スル者タルニ非ザルヲ得ンヤ抑公訴ノ權ヲ行フハ大概行政權ヲ法庭上ニ行フ檢事ノ權ニ屬ス可シト雖然レモ且刑事裁判所ニ此訴ヲナシタル時ハ檢事ハ復タ之ニ干涉ス可キニ非ズ以後裁判所ニテナス所ノ事件ヲ防止スルヲ得ズ又或ル場合ニ於テハ治罪法第二百二十五條及ビ一千八百十年四月二十日ノ法律第十一條ニ據リ控訴院ニテ罪犯ノ訴ヘテナス可キ旨ヲ命ズルコトアリト雖モ此權タル元ト法律上ヨリ來レル者ナレバ法律ヲ措テ防止セラル可キコトナカラン上文ニ特赦ハ行政上ノ處置ニ過ギザレバ法律タル大赦ト異ニシ既往ニ及デ他人ヲ害ス可カラズ又特赦ハ處刑人ト政府トノ關係ニ付テモ明文無キ以上ハ既往ニ及ブノ効力ナケレバ處刑ノ確定若クハ執行ニ因リ受ク可キ所ノ無能力ハ特赦ニ依テ免ルヲ得ズト云ヘリ今準死、剝奪公權監視ナル附加刑ニ處セラル可キ者少クモ其二箇ノ刑ハ宣告書

特赦ハ准死
剝奪公權
監視ヲ以テ
其目的トナ
ス可キ乎

ニ掲載セザル附加刑タル時ハ特赦狀ニ明文アル以上ハ其刑ノ釋免ヲ受ク可キ乎ドモント氏ハ之ヲ主張スト雖モ一千八百二十三年一月八日參議院ニ於テ下ノ如ク公告シ右ノ說ニ反シテ決定シタルヲ可ナリトセリ其公告ニ云ク抑特赦ノ効タル裁判ヲ廢滅スルニ在ラズノ刑ヲ止メシムルニ在リ治罪法ノ明文ニ據レバ刑人其刑ヲ終ヘタル後ニ非ザレバ復權ヲ得可カラズ而シテ復權ヲ得ルノ効ハ犯人ヲ再ビ政事上ト民事上トノ諸權ヲ得セシムルニ在リ其權ヲ失ハシムルハ原來法律ヲ以テ社會ノ爲メ又他人ノ爲メニ設ケタル所ノ保護ナレバ刑人ニ於テ特赦ノ惠ヲ蒙ムルト雖モ他人ノ爲メニ宣告書ニ記シタル諸事項ト均シク右ノ無能力ヲ免ル、能ハズ云々假令王ノ特權ヲ以テスルモ誥命ニ因リ維持セラレタル法律ニ隨テ制定シ法律ヲ以テスルニ非ザレバ變更ス可カラザルノ義務ヲ國民ニ釋宥スルコトヲ得可カラズ云々

特赦狀ハ裁判執行ノ後ニ附與ス可キモノナルガ故ニ復權ノ事ニ付テ
 治罪法ニ定メタル諸程則チ履行スルチ釋ス如キ規則ハアル可カラズ
 ト
 參議院ノ公告スル所真正ナル原則ト謂フ可シ如何トナレバ社會權ノ
 其一ナル者ノ所爲ニ出デタル處刑ニシテ社會主權ヨリ出デタリト看做
 ス可カラザル作爲ニ因リテ屈撓チ受ク可キノ理ハ無カル可シ甲ナル
 權官ノ職掌ニ因リテ社會ニ得タル所ノ斯ノ權ハ乙ナル權官ノ左右ス
 可キ所トスルコト得ズ
 特赦ニシテ處刑言渡チ消滅スル時ハ是レ大赦ニシテ特赦ニ非ズ第二帝國
 ノ世ニ在リテハ帝自ラ特赦大赦ノ二權チ保有シ大赦ニ付テハ眞ノ立
 法被托者ノ權チ有セシガ故ニ右ノ問題ハ甚ダ緊要ナラザリシモノ、
 如シ然レハ特赦ノ内ニ大赦チ含蓄スルノ理ナク大赦ハ特赦ニ比スレ

バ其權力稍大ニシテ其區域モ亦廣カル可ク小ノ大チ兼スルコトハ決シテ
 有ル可カラザルノ事タリ

ロテール氏
ノ説

ロテール氏云ク刑ノ結果トスルニ非ズ直チニ剝奪公權、監視ノ刑ニ
 處シタル時ハ特赦狀ニ明文チ載テ之チ釋免スルコト得ズト余ハ亦之
 チ然リトスルナリ如何トナレバ此場合ニ於テハ其刑ニ無能力ナル性
 質アリテ而シテ其無能力ハ他人ノ益チナセバナリ若シ其宣告書ニ記載
 シテ言渡シタル剝奪公權監視ニシテ特赦ニ因リテ之チ釋免スルチ得バ
 復權ニ關シテハ無期刑ニ於ケル第六百二十條ノ一般ノ規則ニ準據ス
 可ク別ニ例外ナル者チ設クルチ要セザル可キナリ白耳義刑法第八十七
條ニ於テハ或ル處刑
ニ付テ裁判官ヨリ宣告シ或ハ法律ニ定メタル無能力ハ
特赦ヲ以テ解免スルヲ得可キ專權チ國王ニ委附セリ
 准死ノ廢止ニ係ル一千八百五十四年五月三十一日六月三日ノ法ハ右
 ノ主義ニ基ヅキ此問題チ決定シタル乎

一千八百五
十四年五月
三十一日六
月三日ノ法
律ハ從前ノ

無期施體ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑法第二十八條第二十九條第三十一條ニ記シタル剝奪公權及ビ法律上ノ禁ヲ受ク可シ第二條無期施體ノ刑ニ處セラレタル者ハ生存中ノ贈與若クハ遺囑ニ因リ其財産ノ全部或ハ一部ヲ擅ニスルヲ得可カラズ又養給ノ故ニ非ザレバ此名義ヲ以テ財産ヲ受ク可カラズ

其通常處刑ノ前ニナシタル遺囑ハ確定セシ者ト雖モ無効タル可シ抗傳處刑者ニ付テハ此條目ハ以刑執行後五年ヲ經ルニ非ザレバ適用ス可カラズ第二條

政府ハ前條ニ記シタル無能力ノ全部又ハ一部ヲ無期施體ノ刑ニ處セラレタル者ニ回復セシムルコトアル可シ

又政府ハ其法律上ノ禁ヲ受ケタルニ因リ失ヒシ所ノ民權ノ全部或ハ一部ハ刑ヲ執行スル地ニ於テ之ヲ行フヲ許スコトヲ得可シ

刑ヲ執行スル地ニテ犯人ガ取結タル契約ハ刑名宣告ノ時其所持スル所ノ財産若クハ其後不償ニテ受ク可キ財産ニ付テ効ナカル可シ第四條

之ニ由テ是ヲ觀レバ右ノ法律ニ於テハ政府ニ犯人ヲメ其剝奪公權ニ因リ失ヒシ權ヲ復セシムルノ權ナク而メ此點ニ付テハ余輩ノ説ト符合スル者アリ又第四條ニ據レバ政府ニ於テ或ハ無能力ヲ復シ得ルト雖モ其無能力トハ唯第三條ニ記シタル所ニ養給ノ事ヲ除クノ外贈與遺囑ヲ以テ財産ヲ授受ス可カラザル無能力タルガ故ニ皮相ヲ以テスレバ政府ニハ法律上ノ禁ヲ解除スル權アルモノ、如シ

然レモ其法律上ノ禁ヲ狹縮シ刑ヲ執行スル地ニノミ限リタルヲ以テスレバ其効ノ制限ヲ設ケタルハ疑ヒヲ容ル可カラザルナリ

犯人ノ刑事上ノ身分ヲ政府ニテ此ノ如ク變更スルヲ得可キノ權ノ眞

此法律ノ性質

大赦並ニ特赦ヲ論ス

正ナル性質ハ如何是レ唯其特赦ノ權ヲ以テナス可キ者乎
蓋シ特赦ノ權ヨリ稍大ナル者ニテ即チ主刑解放後ニ非ザレバ復權ヲ
許サザルヲ以テ斯ノ場合ニ行フ可キ特別ノ方法タリ

此權ヤ處刑人未タ主刑ノ解放ヲ受ケサル前其結果ヲ輕減スルガ爲メ
施行ス可キモノタルヲ以テ其効ノ既往ニ及デ既得ノ權ヲ害スルコトハ
アラズ刑人が既ニ失ヒシ處ノ能力ヲ將來ニ向フテ之ニ附與スルノミ
第一千八百五十四年五月二日ノ立法院會議ニ於テアラン氏ガ演ベシ所ノ説ニ云
ク第四條ニ記載スル所ノ者ハ國君ノ特赦ノ權ヲ施行スルヲ謂フニ非ズ是レ全
ク行政ニ係ル
ル事項ノミト

然レ此能力ハ犯人過チ悔ヒタルガ爲メニ附與スルモノニ非ズ犯人
ニ在リテハ再ビ權トナリ而シテ其權ハ宣告ヲ以テスルニ非ザレバ失フ
可カラザルモノタリ行政官ハ犯人チノ權利ヲ復セシムルノ權アルモ
其權ヲ蘇生セシムルノ權ナシ

刑ヲ執行スル地ニハ或ル民權ヲ行フヲ許スニ付テハ一定ノ期限内ニ
之ヲ許ス可ラサルノ規則アルニ非ズ又之ヲ許ス官ノ思料ニ因リ其
意ニテ擅マ、ニ其許可ヲ取消ス可カラザルノ規則アルニモ非ズ但シ
其取消ノ前ニナシタル契約及ヒ得タリシ諸權ノ既ニ確定スル者ハ此
限ニ非ラズ是レ全ク犯人ガ行狀ニ隨テ將來ニ其許可ヲ爲ス可キガ如
キコアルノミ

此皮相ノ見ハ能ク事理ニ適ヘル乎能力ヲ復スルニ因リ有ス可キ義務
ヲ處刑後雙務ノ契約ヲ以テ得タル財産ニ付テノミ執行スル以上ハ刑
ノ執行地ニテ其權ノ全部又ハ一部ヲ行フヲ許スハ之ヲ行政官ガ復セ
シム可キ能力ヲ還附セシモノト謂フ可キ乎行政官ニテ右ノ能力ヲ腹
セシム可キモ之ヲ奪フ時ハ刑タルヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得ズ
又若シ行政官ニテ其既ニ還附シタル權ヲ擅ニスルコトヲ得バ法律上ノ

禁ヲ受ケタル犯人ハ遺囑又ハ生存中ノ贈與ヲナスヲ得ズトスル説ニ於テ不尠償ニテ財産ヲ移轉ス可カラザル無能力ノ釋免ヲ取消ス可カラズトスルモ無要ニ屬ス可シ一旦其權ヲ還附セシ時之ヲ行フテ行政官ニ於テ防遏スルノ權アリトセバ何故ニ行政官ニ於テハ之ヲ復取スルノ權ナキ乎

帝國刑法第十八條ニ據レバ政府ニハ流刑人ヲ地方ニ限レル民權ヲ復セシムルノ權アリ一千八百三十二年四月二十八日ノ法律ニ於テハ此法ヲ維持シ之ガ區域ヲ擴メ其民權ヲ復セシムルハ必ズシモ地方ヲ以テ制限ヲ立ツ可カラストセリ

流刑人ニ民權ヲ復セシメタルニ付キ取消ヲナス可キ乎流刑ニ處ス可キ者ニハ復タ准死ヲ命ズ可カラズトセシ一千八百五十年六月八日ノ法ニ於テハ輕流刑ヲ受ケタル者ハ其謫所ニテ民權ヲ行フヲ得行シト

定メタリ又一千八百五十四年五月二日三十一日ノ法律ニ循テ政府ハ無期刑ニ處セラレタル者ニ付テ前ノ一千八百五十年ノ法一種ノ流刑人ニ付テ定メタル如ク處分スルヲ得可キ乎

特赦大赦ハ
拒絶シ得可
キ乎
イロン子
氏ガ擧グル
所ノ區別

犯人ニハ特赦大赦ノ典ヲ拒絶スルヲ得可キ乎トイロン子氏ハ特赦ハ拒ムヲ得可キモ大赦ハ然ラズトセリ其言ニ云ク大赦ハ無罪ノ者ニ毫モ失ハシムル所ナシ而シテ特赦ハ無罪ノ人ヲシテ全ク失フ所アラシム夫レ過失アル者ハ自ラ屈辱ヲ受ケザル可カラズ故ニ特赦ヲ乞ヒ之ヲ受クルヲ得其決シテ過失ナキ者自ラ屈辱ヲ受クレハ則チ是レ自カラ過失ニ陷非ルナリ故ニ過失無キ者ハ特赦ヲ受ク可カラズ又之ヲ乞フ可カラズ然ラハ則チ特赦ヲ承諾スル者ハ即チ罪料ヲ承諾スル者ニテ自ラ罪アルヲ確認シ亦當サニ刑セラルベキヲ知ルナリ若シ罪料ヲ受ルハ強ヒテ之ヲ受タルガ故ニ其之ヲ受タル者ニ在リテハ

毫モ許諾シタル所アルニ非ズ然レモ一旦特赦ヲ承諾スル時ハ其或ハ
 既往ヲ保維スルアリト雖モ之ヲ承諾スルハ強承ニ出デザルヲ以テ畢
 竟其保維スル所ノ者ヲ却テ可認スルニ外ナラズ強承ニ出デザルトハ
 何人ト雖モ刑罰ニ非ザル他ノ物ヲ強承セシムルノ權ヲ有スルコトナケ
 レバナリ第十四世ルイー王ハフーケニ對シテ之ヲ爲シタリシニ歴史
 ニ於テハ大ニ之ヲ筆誅ス是レ威權ノ濫用ナリ是ノ如ク威權ヲ濫用ス
 ル國ハ尙ホ或ハ之レアル可キモ自由國ニ於テハ決シテナス可カラザ
 ル事タリト

蓋シ特赦ヲ承諾スルハ處刑ヲ可認スルナリト云ヘリ此區別タル宜ク
 採用ス可カラズ余以爲ラク特赦ハ命令ニシテ採擇ニ附ス可キニ非ザ
 ル以上ハ之ヲ拒絕ス可カラズトド、メイロン子一氏ノ説タル是レ其當
 サニ審明スベキノ點ヲ既ニ確定セル者ト想像スルニ出ヅ其點トハ即

駁論

チ犯人ハ刑罰ヲ受クルガ如ク必ズ特赦ヲ受ケザルヲ得ザルヤ否ヤ是
 レナリ抑刑ハ犯人ニ對シ言渡ス可キモノニシテ其利益ノ爲メニスルモ
 ノニ非ザレバ刑ニ付テハ既得ノ權ナシ即チ刑ハ公益上ヨリ命ズル所
 ノ社會責應ニシテ社會秩序ニ隨ヒ犯人ヲ處置スルガ爲メニ設ケタル所
 ノ犯人ノ益トナル可キ賠償ノ方法ニ非ザレバ何故ニ犯人ハ特赦ニ付
 テ拒絕ス可キノ權アル乎刑ハ公益ニ因リテ用ユ可キガ故ニ公益ニ隨
 テ刑ヲ止メ若クハ寛ニセザル可カラズ而シテ刑ヲ執行スルハ犯人ニ對
 シ社會ニテ其負債ヲ拂フニ非ズ又純然タル正義ニ對シ自己ガ負債ヲ
 拂フニモ非ズ

大赦ハ命令ニ屬ス可キ乎若シ特赦大赦ノ二ツノ者ニ付テ其孰レカ拒
 絶ス可キト問ハ、余ハ寧ロ大赦ハ拒絕ス可シト答ヘンノミ蓋シ某ハ
 或ハ罪アル可シトスルモ之ヲ大赦ノ典ヲ受ケシムルナリ今既ニ犯

大赦並ニ特赦ヲ論ス

罪ノ訴ヲ受クル者アランニ其罪未ダ確定セザル以上ハ下ノ如ク言フ
チ得可キガ如シ曰ク請フ願クハ余ガ罪ノ有無ヲ審明セラレテ眞偽ノ
判然センコト余ニ於テ無罪ヲ證明スルノ權ナシトセラレザル上ハ余
ガ名譽ノ毀損スル理ナカラン余ヲノ裁判官ニ離ル、コトナク唯裁判ノ
保護ニ任放セラレンコトヲ希望スト

此言タルヤ未ダ犯罪ノ訴ヲ受ケザル者ノ口ヨリ出ス可キニ非ズ如何
トナレバ其罪アルヤト疑フ可キ度ハ毎子ニ法律上ニテ確定セル罪ヨ
リ輕キガ故ニ其未ダ犯罪ノ訴ヲ受ケザル者ハ故ラニ公訴ヲ求ム可カ
ラズ又故ラニ刑辟ニ近ヅク可カラザルナリ
然レモ若シ大赦ノ令出ヅルニ際シ犯罪ノ訴ヲ受タル者ニノ前ノ如キ
言ヲ吐カバ如何ニ之ニ答フル乎

大審院ノ判

一千八百二十六年十一月二十五日大審院ハ案ヲ斷シテ云ク大赦ハ被

告人毫モ罪ヲ犯サズト申立ツル時之ヲ引援スルト否トニ付テ自由ナ
ルモノナリト然ルニ一千八百三十一年六月十日ニ於テ其判決スル所
ハ之ニ反セリ余ハ乃チ其一千八百三十一年ノ判決ヲ可ナリトシ大赦
ハ法律ニテ法律ハ命令トナス故ニ大赦ハ命令ニメ之ヲ受クルヲ請求
スルニ非ズ公益ノ名ヲ以テ之ヲ命令シ而シテ公益ニ於テ忘記ヲ要スル
ガ故ニ公安ヲ妨害ス可キ對決審斷ヲ繼續スルヲ禁ズルナリ私益ハ公
益ノ爲メニ制セラル大赦ノ爲事人ヲ裁判スルコト無カラシムル者犯罪
訴ノ期滿免除ト其義同一タリ現ニ治罪法第六百四十一條ニ於テ爲事
人ヲノ期滿免除ノ保護ヲ擲棄スルヲ得セシメザル者ハ抑、如何ゾヤ是
レ法律ニ於テ歲月ノ久シキ罪狀ヲ審明スルニ十分ノ憑據ナシト看做
スニ非ズヤ其既ニ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其刑ヲ執行スルニ
付テ社會ハ其處刑ニ十分信ヲ措キ難シトスルナリ又其放免ヲ受ケタ

大赦並ニ特赦ヲ論ス